

山本彌吉 東海製菓(株)常務取締役
君は鹿兒島縣土佐郡山本盛秀の長男にして明治六年五月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十三年東京帝國大學工科大学造船科を卒業し川崎造船所に入り造船工作部長を経て取締役に進み川崎汽船會社取締役たり長女輝(明三七、二生)は海軍中將木村剛長男太郎に嫁久子(同一、九生)は陸軍中將志岐守治に同芳(同一、一六、三生)は工學博士日良恒に嫁し弟勇吉(同一〇、二生)は其妻子を伴ひ鹿兒島縣土佐郡山本の養子となれり(神戸、中山手通七電元町三三六五)
參照 伯母山本彌兵衛、愛甲兼造、木村剛、志岐守治、日良恒、勇吉、上村從義、米村龍太郎、米村芳乙、産山山路一善の項

山本彌右衛門
從七位勳六等、陸軍歩兵中尉、宮崎縣多額納稅者、薩摩農工銀行、延岡銀行、五ヶ瀬川電力(株)取締役、農業、宮崎縣在籍
妻 豊 明二、九生、宮崎、橋口吉吉長
男 三郎 明三、四生
女 静子 明四〇、一、一生、三男三郎妻、宮崎、吉高彌二女
女 キツエ 明三九、一、一生

山本安太郎 愛知縣多額納稅者、豊橋商工會議所副會頭、製糖業、愛知縣在籍
妻 下 枝 明一三、一、一生、愛知、棚橋五郎
男 俊三 明三六、六生
女 あや子 明三八、四生
女 敏子 明四〇、二、一生

山本安次郎 大阪堂島米穀取引所取引員
妻 長治郎 明二〇、一〇生
男 明二四、五生、長男長治郎妻、京都、中塚泰次郎二女
女 エイ 明二三、二生
男 三郎 明三三、一、一生

山本行道 鳥原水電(株)専務取締役
妻 トキ 明二、二生、長崎、士、中島珪太
女 千子 明二七、四生、長女ミチ夫、大分、士、羽田野孫三男
女 ミチ 明三〇、一、一生、養子千里妻

山本幸男 從四位勳三等、通信技術師兼高等海員審判所審判官、警備局船務課長、東京府土佐族
妻 榮枝 明一九、一〇生、神奈川、松尾登
男 邦男 在學、大正、五生、東京府立第一中學校
女 英子 明四二、七生、府立第三高等女學校出身

山本保次郎 豐商、大阪府在籍
妻 實之助 明一〇、一〇生

山本義孝 高知鐵道(株)専務取締役
妻 小 直 大一〇、一〇生、高知、三木貞正
男 義通 大八、三、一生、東京、長澤九三姉

山本幸男 從四位勳三等、通信技術師兼高等海員審判所審判官、警備局船務課長、東京府土佐族
妻 榮枝 明一九、一〇生、神奈川、松尾登
男 邦男 在學、大正、五生、東京府立第一中學校
女 英子 明四二、七生、府立第三高等女學校出身

山本與平 千葉縣多額納稅者、味噌商
妻 つね 明一三、三三、三、千葉、鈴木竹松二
男 孝太郎 明三三、二、一生、長男孝太郎妻、千葉、宮本慶太郎二女
女 美代 千葉、宮本慶太郎二女
男 清次郎 明三八、九生
女 まさ 明四〇、七生
女 とく 明四二、八生

山本義民 辯護士、鳥取縣土佐族
妻 龜三 文久元、七生、現戶主
母 ふさ 明元、八生、鳥取、士、安城兵市
妻 うめ子 明三三、二、一生、東京、長澤九三姉
男 義通 大八、三、一生

山本與八郎 岡山縣多額納稅者
妻 辰 安政二、九生、岡山、長末與七郎
女 二女

山本要助 大坂製粉(株)社長、山本要商店(株)監査役、大阪府在籍
妻 要 明四〇、九生
男 要 明四〇、九生

山本義人 日本ドロイト、大分セメント各(株)取締役、大分縣土佐族
妻 花枝 明三三、三、一生、埼玉、平澤英二叔母
母 ナホフ 萬延元、二生、大分、士、中山軍藏長女

山本幸男 從四位勳三等、通信技術師兼高等海員審判所審判官、警備局船務課長、東京府土佐族
妻 榮枝 明一九、一〇生、神奈川、松尾登
男 邦男 在學、大正、五生、東京府立第一中學校
女 英子 明四二、七生、府立第三高等女學校出身

山本與平 千葉縣多額納稅者、味噌商
妻 つね 明一三、三三、三、千葉、鈴木竹松二
男 孝太郎 明三三、二、一生、長男孝太郎妻、千葉、宮本慶太郎二女
女 美代 千葉、宮本慶太郎二女
男 清次郎 明三八、九生
女 まさ 明四〇、七生
女 とく 明四二、八生

山本義民 辯護士、鳥取縣土佐族
妻 龜三 文久元、七生、現戶主
母 ふさ 明元、八生、鳥取、士、安城兵市
妻 うめ子 明三三、二、一生、東京、長澤九三姉
男 義通 大八、三、一生

山屋 他人 正三位勳一等功四級、豫備海軍大尉、東京府士族
 妻 貞子 明一〇、一一生、東京、士、丹羽教忠妹
 男 太郎 明三三、二生、長男太郎妻、山梨、雪子 明三三、二生、長男太郎妻、山梨、秋山喜藏三女
 女 八郎 明三八、八生、長男太郎妻、山梨、明四三、六生、長男太郎妻、山梨、明四五、三三、長男太郎妻、山梨

山脇 正吉 山脇高等女學校校長
 妻 正子 明三三、二生、長男太郎妻、山梨、秋山喜藏三女
 女 八郎 明三八、八生、長男太郎妻、山梨、明四三、六生、長男太郎妻、山梨、明四五、三三、長男太郎妻、山梨

山脇 善五郎 地主、東京府在籍
 妻 葉子 明二三、五生、東京、川島親治郎長女
 男 靖一 大二、一一生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

山脇 雄三郎 廣島縣多額納稅者、佐竹織工所、不田商店各(株)社長、日本製酒(株)取締役、廣島縣在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 眞太郎 日星貿易(株)取締役、ゴム製造業、福井縣在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 壽雄 安曇電氣(株)取締役兼支配人、長野縣在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 宇平 静岡縣多額納稅者、静岡縣在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 忠六 熊本縣多額納稅者、熊本縣在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 利太郎 德島縣多額納稅者、中島木材(株)代表取締役、德島縣在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 藤兵衛 城崎温泉土地(株)社長、大阪銀行(株)取締役、大阪府在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 藤兵衛 城崎温泉土地(株)社長、大阪銀行(株)取締役、大阪府在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 藤兵衛 城崎温泉土地(株)社長、大阪銀行(株)取締役、大阪府在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

大和 藤兵衛 城崎温泉土地(株)社長、大阪銀行(株)取締役、大阪府在籍
 妻 正子 明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇、明三三、二生、長男善五郎妻、山脇

工之部

弓削幸太郎 正四位勳三等、復興建築助成(株)取締役、東京府在籍

妻 廣 明二、二生、東京、松本支平長

男 太郎 大一二、七生

女 朝子 明四五、一生

君は岡山縣八弓新平の孫にして明治十四年八月を以て生れ同三十五年家督を相續す夙に日本大學を卒業し同三十七年文官高等試験に合格爾來專賣局屬千葉縣屬同縣警視廳兒島縣事務官朝鮮總督府書記官同府學務課長朝鮮總督府鐵道部長等に歴任し轉じて實業界に入り現時復興建築助成會社取締役たり家族は尙三女多喜子(大六、一生)四女喜世子(同八、三生)二男次雄(同二五、三生)あり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷六五電鉄二〇〇)

參照 松本支平河内研太郎の項

弓削和三 熊本縣多額納稅者、八代共立銀行(株)頭取、熊本縣主族

母 安政二、二生、熊本、土、藤崎次郎助二女

妻 カシム 明六一、一生、熊本、和田和平長女

男 正 大一一、三生

女 達 明二九、七生、二女ヤス夫、熊本能合實四弟

君は熊本縣士族弓削徳太郎の長男にして明治四年五月を以て生れ同十六年家督を相續す現時八代共立銀行頭取にして縣下の多額納稅者たり家族は尙養子勝(大三、二生、熊本、弓削大六女)庶子幸代(同九、一生、生母、長崎、松尾キツ)あり妹シヤ(明一六、九生)は分家せり(熊本、八代、八代町)

弓場治兵衛 家主 大阪府在籍

母 マサ 弘化三、六生、大阪、弓場庄兵衛長女

妻 タカ 明一〇、六生、大阪、津和庄左衛門姉

男 愛治郎 明三二、七生

君は大阪府人先代治兵衛の二男にして明治九年四月を以て生れ同二十四年家督を相續し前名治三郎を改む累代資産家として知られ家主たり姉ミツ(慶應二、一〇生)は分家せり(大阪、浪速、元町四ノ二四六電戎二五〇)

弓場常次 國華酒造(株)監査役 奈良縣在籍

妻 キクエ 明二〇、一生、奈良、浦岡石松長女

男 彌 明三二、五生

君は奈良縣人弓場彌平の二男にして明治六年八月を以て生れ同二十一年分れて一家を創立す同二十七年陸軍教導團を同三十三年東京法學院を各卒業し現時國華酒造會社監査役たり家族は尙三男英彌(明四三、六生)三女美代(大三、六生)四男三郎(同六、八生)四女美佐(同二〇、八生)五女和子(同四、一生)孫周子(同二二、五生、長男彌長女)あり長女八千代(明三六、七生)は三重縣人山林萬次郎長男滿太郎に嫁せり(奈良、高市、新澤村)

弓場登美一 神戸食糧品(株)取締役、漬物商 兵庫縣在籍

母 イヲ 安政六、四生、廣島、三上卯吉長女

妻 チカヨ 明二四、四生、廣島、中田初太郎長女

男 徳美 大四、一〇生

君は廣島縣人弓場徳吉の長男にして明治二十二年十一月を以て生れ同二十六年家督を相續す神戸食糧品會社取締役にして漬物商を營む家族は尙三男隆(大九、七生)長女琴子(同二三、三生)あり姉チシ(明一六、一二生)は兵庫縣人前田徳市に嫁せり(神戸、磯上通四ノ五六電番合二八六三)

由井卯三郎 家主 大阪府在籍

妻 ふさ 明二、二生、大阪、園和助二女

男 卯兵衛 明三四、五生

女 とめ 明四二、一〇生、京都、常盤喜太郎姉

君は大阪府人由井卯八の長男にして慶應二年八月を以て生れ明治十四年家督を相續す家主たり家族は尙孫孝子(昭二、二生、四男卯兵衛長女)あり長女ミツ(明二七、七生)は分家せり二女フツ(同三六、一一生)は長野縣人伊藤明敏弟久榮に嫁し(弘化元、一生)は大阪府人眞下彦太郎に嫁し(明三、八生)は同府人門田角平長男幸吉に嫁し(同二二、二生)は同府人田中勘平の養子となれり(大阪、西、靱北通二ノ五電土佐堀四三六九)

由井二時三郎 大阪三品取引所取引員 愛媛縣在籍

妻 あい 明二六、三生、大阪、土居重三郎長女

男 一郎 明四四、一〇生

君は愛媛縣人由井久馬の三男にして明治十八年三月を以て生れ同四十四年分家して一家を創立す同四十三年早稲田大學商科を卒業し大阪三品取引所第一部第二部取引員たり家族は尙長女アヤ(大六、一生)二男謙(同二四、二生)あり(大阪、東、北久太郎町二ノ四三電船場六三〇)

由解新七 湯淺七左衛門商店(株)取締役兼大阪支店長、三星堂(株)監査役 大阪府在籍

妻 アヤ 明二一、四生、香川、大山寛次郎二女

女 靜枝 明四三、二生

君は滋賀縣人入江由太郎の弟にして明治十五年七月を以て生れ同四十年亡由解キクエの入夫となり家督を相續す現時湯淺七左衛門商店取締役にして大阪支店長を兼ねたり三星堂監査役たり(大阪、住吉、住吉町一〇一五)

工之部 弓、由、井、解

(※印は姻族關係)

由谷 節

鳥取縣多額納稅者、山谷運送(株)取締役、鳥取市吳服太物商組合長、吳服太物商、鳥取縣在籍

由比 質

從四位勳三等、第七高等學校造士、高知縣士族、從四位勳三等、第七高等學校造士

由良 源太郎

那志製絲(株)常務取締役、何鹿銀行第三部在籍

由谷 義治

鳥取縣多額納稅者、鳥取市會議員、八千代生命保險(株)常任監査役、運賃業、鳥取縣在籍

由良 逸治

由良商會(株)取締役、メリヤス輸出、兵庫縣在籍

由利 岩藏

化粧品商、大阪府在籍

由利 正道

從五位、子爵、東京府在籍

湯淺 英之進

芝川商店(株)取締役、大阪府在籍

湯淺 倉平

正四位勳一等、貴族院議員、福島縣士族

油井 德藏

福島縣多額納稅者、福島商業銀行、川俣銀行、福島縣在籍

湯淺 補次郎

大阪府在籍

湯淺 源五郎

石州銀行(株)専務取締役、鳥根縣在籍

湯淺 三郎

群馬縣多額納稅者、碓氷銀行(株)頭取、長野電燈(株)常務取締役、碓氷電業、群馬縣在籍

湯淺 三郎

群馬縣多額納稅者、碓氷銀行(株)頭取、長野電燈(株)常務取締役、碓氷電業、群馬縣在籍

湯淺 三郎

群馬縣多額納稅者、碓氷銀行(株)頭取、長野電燈(株)常務取締役、碓氷電業、群馬縣在籍

妻 英次 明四、一、生
 女 春枝 明四、四、生
 君は群馬縣人湯淺治郎の二男にして明治十年十二月を以て生れ同十三年分れて一家を創立す醸造業を營み現に榎本銀行頭取たる外前記同社の重役にして群馬縣多額納税者たり家族は尙四男正次(明四、一、生)五男清次(大五、六、生)あり長女文枝(明三、一、四、生)は群馬縣人中村政吉に嫁せり(群馬、榎木、安中町)

湯淺七左衛門
 湯淺電池製造、湯淺七左衛門商店各(株)社長、新東京鐵道帝國油糖各(株)監査役、湯淺(名)代表社員、京都府在籍

妻 久三、四、生、京都、草木兵助二
 女 湯淺(名)社員
 男 一、七、生、先々代七左衛門長男
 女 湯淺(名)社員
 男 一、三、九、一、生
 女 一、三、九、一、生
 男 一、三、九、一、生
 女 一、三、九、一、生

君は元南滿洲鐵道會社總裁故早川千吉郎及同純三郎の弟にして明治十年三月を以て生れ同三十七年先代マタの入夫となり家督相續と共に前名外吉を改む現時湯淺七左衛門商店社長の外前記同社の重役として知らる(京都、下京、五條通御馬場西八鹽町三六九電下七六七)

湯淺壽太郎
 京都府多額納税者、西陣織物商京都府在籍

妻 エイ 明二、六、九、生、京都、入江道仙三
 女 明四、七、生、京都、丸山源兵衛長女
 男 明二、六、九、生、京都、入江道仙三

君は京都府人湯淺重助の長男にして明治二十一年五月を以て生れ同三十二年家督を相續す現に西陣織物商を營み京都府多額納税者として知らる家族は尙養子滿喜子(大一一、八、生)、京都、岩崎又一郎(姉あり姉キキ(明一九、一〇、生))は京都府人杉山ユキの養子となれり(京
 參照 湯淺山澤一の項

都、下京、室町通六角下ル鹽町五二九電園中七五二)

湯淺新平
 第五位勲六等、北海道廳技師、拓殖部勳務、岡山縣在籍

妻 長女
 長女 明二、一、〇、生、岡山、笠井吉夫

君は岡山縣人湯淺平の二男にして明治十四年九月を以て生れ同四十一年家督を相續す同四十二年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し岐阜縣立農林學校教授となり次で熊本縣技師同縣林業技師に任じ大正七年北海道廳技師となり現時拓殖部勳務たり家族は尙二女美子(大四、九、生)あり(札幌市)

湯淺専太郎
 京都府在籍

妻 智恵子 明四、三、八、生、生母、荒木小菊
 君は京都府人湯淺喜三郎の長男にして明治三十年九月を以て生れ同十六年家督を相續し同二十七年前名仙太郎を改む鹿ノ子校商を營む姉よ(明元、一〇、生)は京都府人近藤與宗治郎に妹キミ(同一、三、生)は同府人多田伊三郎に嫁せり(京都、下京、三條通新町西入電中三九〇)

參照 近藤與宗治郎の項

湯淺宗一
 第五位、製鐵所技師、鹿町鐵長山口縣士族

妻 フミヨ 明一、九、四、生、山口、山田欽一長女

君は山口縣士族湯淺政則の長男にして明治九年六月を以て生れ同二十八年祖父義輝の後に家督を相續す同三十八年東京帝國大學工科大學探金學科を卒業し藤田組及住友會社各技師たりしが大正三年熊本高等工業學校教授に任じ在職五年にして是を辭し漢野同族會社に入り技師に就任す同九年再び官界に入り製鐵所技師となり現に鹿町鐵長の職に在り(福岡、嘉穂、藤波村製鐵所出張所官舎)

湯淺竹之助
 正六位、湯淺貿易、湯淺棉花各(株)製粉所(株)監査役、兵庫縣在籍

妻 誠之助 明三、八、三、生、獨逸留學中

子(大九、三、生)あり姉チカ(明九、四、生)は分家し妹ユキ(同一六、八、生)は徳島縣人西川喜三郎に嫁せり(静岡市西深草一二八)

湯淺文太郎
 千葉縣多額納税者、農業

妻 けい 明八、八、生、千葉、長谷川利左衛門孫
 養子 四郎 明二〇、三、生、長女ヤサ夫、茨城、額賀嘉一郎三男
 女 ヤサ 明二六、三、生、養子四郎妻
 養子 つね 明四〇、一、生、千葉、湯淺千之助

君は千葉縣人湯淺文太郎の長男にして明治四年七月を以て生れ同十六年家督を相續す現時同郡商工銀行頭取たり家族は尙孫喜代子(大一一〇、七、生)、長男保雄長女(同教子)同三、四、生、同二女(同い、子)同二、五、四、生、同三女(同い、子)同二、八、五、生)は京都府人川勝誠之に二女小鶴(同二九、八、生)は同府人谷産太郎に三女フジ(同三一、七、生)は同府人近藤仙太郎に四女雪枝(同三三、二、生)は同府人宇野七郎に嫁し弟定次郎(同一二、六、生)は同府人湯淺徳三郎の養子となり二男炭太郎(同三五、八、生)は分家せり(京都、船井、世木村)

湯淺平吉
 關東商工銀行(株)頭取京都府在籍

妻 保雄 明二四、一、二、生
 男 千代 都、廣瀬半次郎三女
 男 直次郎 明三、七、八、生

君は京都府人湯淺吉之丞の長男にして元治元年十月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時同郡商工銀行頭取たり家族は尙孫喜代子(大一一〇、七、生)、長男保雄長女(同教子)同三、四、生、同二女(同い、子)同二、五、四、生、同三女(同い、子)同二、八、五、生)は京都府人川勝誠之に二女小鶴(同二九、八、生)は同府人谷産太郎に三女フジ(同三一、七、生)は同府人近藤仙太郎に四女雪枝(同三三、二、生)は同府人宇野七郎に嫁し弟定次郎(同一二、六、生)は同府人湯淺徳三郎の養子となり二男炭太郎(同三五、八、生)は分家せり(京都、船井、世木村)

湯淺讓
 湯淺仲訓(株)社長大阪府在籍

父 元十郎 嘉永五、一、二、生
 繼母 滿 明七、一〇、生、岡山、石原正美母
 君は大阪府人湯淺元十郎の長男にして明治二十四年九

女 玉子 明三、九、九、生、樟蔭高等女學校出身
 君は和歌山縣人湯淺治郎右衛門の四男にして明治三年二月を以て生れ同三十分分れて一家を創立す現に貿易商を營み大正五年合名會社湯淺商店を設立し専ら其經營に任じ現に湯淺貿易湯淺棉花各會社々長にして務ら前記各會社の重役たり現に神戸商會會務所特別議員の任に在り大正四年特旨を以て正六位の位記を賜ふ家族は尙庶子育子(大一一、五、一〇、生)、生母、兵庫、沼波しづ)あり二女俊子(明三、三、八、生)、東京女子大學出身)は東京府人中上川次郎吉男五郎に三女宣子(同三五、四、生、出身校同上)は兵庫縣人横山剛に四女道子(同三一、六、一、二、生)、樟蔭高等女學校出身)は鹿兒島縣人廣瀬昌に嫁せり(神戸、山本通五ノ六)

湯淺武孫
 從六位、三共(株)取締役岡山縣在籍

妻 孝 明一、一、二、生、愛媛、士、野田將知長女

君は岡山縣人湯淺幸八の長男にして同慶孫の兄なり明治三年三月を以て生れ後家督を相續す初め上道中學校に學び後醫學を専攻す久しし神奈川縣技師防務事務官として衛生行政を掌り又横浜市設衛生調査會委員として海陸設備調査に參畫す明治四十五年辭して三共會社に入り現時同社事務取締役たり家族は尙二男順孫(明四二、三、生)四男敬孫(大六、二、生)あり長女(明三三、二、生)は愛媛縣人竹内收人に嫁し三男恭孫(同四三、四、生)は外祖父野田將知の養子となれり(東京市外品川町御殿山七三三電高輪一〇三八)

湯淺豐五郎
 正五位勲五等、靜岡高等學校教授徳島縣在籍

妻 とめ 衛門五女
 女 愛子 明四、四、一、生

君は徳島縣人湯淺孫治郎の四男にして明治十四年十月を以て生れ大正五年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し第二高等學校教授に任ぜられ現時靜岡高等學校教授たり家族は尙二女房

女 正夫 明三、六、一、二、生
 女 文子 大、二、八、生

當家は和歌山縣新宮町に在りて世々藩醫たり君は先代寛齋の長男にして明治元年五月を以て生れ同二十五年家督を相續す同二十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し夙に選信省に入り選信事務官選信書記官兼臨時臺灣電報建設事務官東京郵便電報局長官選信事務官兼選信省參事官外務省參事官通信管理局長に任じ同三十年米國華盛頓府に開催の萬國聯合郵便會議委員として差遣され同時に歐洲に出張を命ぜらる後實業界に入り現に住友會社總經理に任じて前記各會社の重役に就任し關西實業界の重鎮たり大正六年銀行部擴張の要務を帯び米國に就き歸路歐洲を視察す家族は尙四男孝夫(明四四、一、生)五男和夫(大、四、六、生)六男共夫(同七七、一、生)あり長女静子(明三三、五、一、生)は福井縣人小池末五郎長男一に嫁し三女(同九、一、二、生)は和歌山縣土族玉置駒三郎に嫁し弟澤二郎(同六、七、生)は其妻チカ(同二、四、生)岡山、沼本實繼母と共に分家し同又夫(同一、一、生)も亦分家せり(兵庫、武庫、本庄村深江一、一六電若屋七三)

湯川熊二郎
 日高銀行(株)取締役、南海土地(株)監査役、和歌山縣在籍

妻 キクエ 十郎二女
 男 政一郎 明二、六、七、生
 男 龍枝 明三、四、七、生
 男 直治 明四、一、七、生
 女 利子 明四、二、九、生

君は和歌山縣人湯川政七の長男にして明治元年九月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫正吉(大八、九、生)、長男政一郎長女(同東介)同二、九、生、同二男(同續)同二、六、生、同三男(同續)同二、九、生、同二女(同續)同二、六、生、同三女(同續)同二、九、生、同二女(同續)同二、六、生、同三女(同續)同二、九、生、同二女(同續)同二、六、生、同三女(同續)同二、九、生

湯川 玄洋 醫學博士、胃腸病院長、醫師
湯川 忠三郎 動四等、大阪商工會議所常務議員、日本染料(株)監査役、内外物産(株)代表社員、大阪府士族

湯川 廣 請戸川水電(株)社長、福島銀行(株)常務取締役、本宮電氣、四倉電氣各(株)取締役、福島縣在籍
湯川 又夫 正五位勳四等、農學博士、九州帝國大學教授、農學部勤務

湯澤 倉次郎 湯澤銀行(株)代表社員
湯澤 源助 信州銀行、上伊那銀行各(株)取締役、長野縣在籍

湯川 登 紀伊製材所(株)社長、白濱温泉自動車(株)取締役、和歌山縣在籍
湯川 又子 明三九、一一生

湯川 又子 明三九、一一生
湯川 又子 明三九、一一生

湯澤 幸平 從四位勳三等、貴族院議員、帝都教育會副會長、宮崎縣士族、松村貞雄長女、府立第一高等女學校出身

湯澤 精司 廣告社、廣告取扱業
湯澤 清 明一九、一一生、二女澄夫、長野

湯澤 三千男 正五位勳三等、社會局局長、保險部長、栃木縣在籍
湯澤 眞太郎 明元、四生、現戶主

湯澤 幸平 從四位勳三等、貴族院議員、帝都教育會副會長、宮崎縣士族、松村貞雄長女、府立第一高等女學校出身

湯澤 善次郎 埼玉縣多額納稅者、米穀商
湯澤 庄三 明二二、七生、四女ミネ夫、埼玉

湯田 重太郎 正五位勳四等、廣島高等師範學校教授、生徒監、福島縣士族
湯田 重太郎 正五位勳四等、廣島高等師範學校教授、生徒監、福島縣士族

湯地 幸平 從四位勳三等、貴族院議員、帝都教育會副會長、宮崎縣士族、松村貞雄長女、府立第一高等女學校出身

湯澤 精司 廣告社、廣告取扱業
湯澤 清 明一九、一一生、二女澄夫、長野

湯澤 三千男 正五位勳三等、社會局局長、保險部長、栃木縣在籍
湯澤 眞太郎 明元、四生、現戶主

湯澤 幸平 從四位勳三等、貴族院議員、帝都教育會副會長、宮崎縣士族、松村貞雄長女、府立第一高等女學校出身

湯澤 善次郎 埼玉縣多額納稅者、米穀商
湯澤 庄三 明二二、七生、四女ミネ夫、埼玉

湯田 重太郎 正五位勳四等、廣島高等師範學校教授、生徒監、福島縣士族
湯田 重太郎 正五位勳四等、廣島高等師範學校教授、生徒監、福島縣士族

湯澤 幸平 從四位勳三等、貴族院議員、帝都教育會副會長、宮崎縣士族、松村貞雄長女、府立第一高等女學校出身

湯澤 善次郎 埼玉縣多額納稅者、米穀商
湯澤 庄三 明二二、七生、四女ミネ夫、埼玉

湯田 重太郎 正五位勳四等、廣島高等師範學校教授、生徒監、福島縣士族
湯田 重太郎 正五位勳四等、廣島高等師範學校教授、生徒監、福島縣士族

湯澤 幸平 從四位勳三等、貴族院議員、帝都教育會副會長、宮崎縣士族、松村貞雄長女、府立第一高等女學校出身

女子高等師範學校校長を経て東京高等學校の開設せらるる、や同校長となり昭和二年之を辭し現時閑地にあり

湯村辰二郎

從五位、朝鮮總督府道務事務官、忠清北道内務部長、宮城縣在籍

父 保治 元治元、四生、現戸主

妻 久枝 明三、八生、石川、土、松寺竹

男 良一 大一、四、六生

湯村彦太郎

福岡縣多額納稅者、大東蓄産(株)取締役、肥後縣(株)監査役、清造業、福岡縣土族

父 寛造 明四三、一、生

妻 ノフ 明二、一、生、福岡、久富仁三郎

男 寛造 明四三、一、生

女 トシ 大元、九生

湯村元之

福岡縣多額納稅者、三池土地(株)社長、農業、福岡縣土族

妻 明二、三、生、熊本、多田隈啓次

男 昭明 明四一、四生

湯本善太郎

正四位勳二等功三級、退役陸軍主計總監、大正製酒(株)社長、兵庫縣土族

妻 明一、六、四生

男 太郎 明二〇、一、生、長男太郎妻、東京、天野重助三女

女 天野重助三女

湯山

御厨銀行、東洋醸造各(株)取締役、福岡縣在籍

父 柳雄 安政三、二生

妻 久美 文久二、四生、静岡、秋本瀬平妹

男 忠匡 明四三、一、生、静岡、渡邊佳彦姉

女 光江 明三、七、生

女 登美 明四〇、五生

遊佐伊兵衛

福岡縣多額納稅者、日榮商事(株)取締役、二本松電氣、好間水電各(株)監査役、酒造業、福岡縣在籍

妻 文久三、三生、福岡、風間久吉妹

男 一郎 明三六、一、生

女 富子 明三六、八、生、長男一郎妻、山形、竹内茂姉

結城貞松

正五位勳四等、帝國美術院會員、東京美術學校教授、東京府在籍

湯村辰二郎の長男にして明治七年八月を以て生れ、同十八年先代彦太郎の養子となり家督を相續す

湯村彦太郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ、先代彦太郎の養子となり大正五年家督を相續す

湯本善太郎の長男にして明治八年十二月を以て生れ、同十八年先代彦太郎の養子となり家督を相續す

行形松次良 新潟縣多額納稅者、行形亭、刺煮業、新潟縣在籍
 妻 慶應元、一〇生、先々代松次良長
 男 芳郎 明四三、五生
 君は新潟縣人清水清一郎の三男にして明治十七年七月を以て生れ先代松次良の養子となり大正十二年家督を相續し前名孫作を改め養子割業を營み行形亭と稱し現に新潟縣多額納稅者たり家族は尙二男益郎(六三、一八)長女ミサホ(四五、三三)養叔母ミチ(明一五、八八)及其一女あり養叔父行三郎(同二〇、一三)は同妻キキ(同二四、一一)生、新潟、坂口仁一郎(養子)及其二女を伴ひ分家せり(新潟市西大畑町三一)

柚木理次 從五位勳五等、判事、大垣區裁判所判事、富山縣在籍
 妻 門一八、一八、富山、米澤萬四郎
 男 三 明四二、一三
 女 正子 大九、一三
 君は富山縣人柚木六郎左衛門の二男にして明治七年五月を以て生れ同三十六年明治法律學校を卒業し判事登用試験に合格同三十九年判事に任じ若松區福島區地方各裁判所判事東京控訴院書記長松本區前橋地方區高崎區上田區東京區各裁判所判事に歴補し大正十一年檢事に任じ下妻區水戸地方下妻支部水戸區同地方各裁判所判事を歴補し同十四年再び判事に任じ新田區前橋地方各裁判所判事となり昭和二年現職大垣區裁判所判事に補せらるる家族は尙三女吉子(六六、八八)の外兄六郎左衛門(元治元、二生、現戸主)同妻つね(明一〇、八八)富山、米澤快次姉)及其子女並に孫あり(大垣區

百合本安太郎 山口縣多額納稅者、食料品商
 妻 慶應二、六生、山口、江島伊左衛門
 男 彌太郎 大九、六生
 女 香代 大九、四生
 君は山口縣人上原普之進の弟にして明治十九年二月を以て生れ後先代安太郎の養子となり大正十三年家督を相續し前名謙一を改め食料品商を營み同縣多額納稅者たり家族は尙二女滿壽(大九、七生)三女ナチ(同七、二二)三男順太郎(同二二、二二)四女弘(同二四、九生)の外養叔母モヨ(明三、四生)あり(下關、西瀬江町)

依田淳太郎 蘆田工業所(株)取締役、竹田村長
 妻 弘化三、四生、依田八老長女
 父 八郎右衛門
 母 三男
 妻 明一〇、四女、祖父八郎右衛門五
 君は兵庫縣人依田八郎右衛門の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十三年中央大學並に明治大學を卒業し現時竹田村長に擧げられ傍ら蘆田工業所取締役たり妹玉江(明三三、七生)は同夫(同二四、九生)京都、櫻井(一弟)と共に其一女を伴ひ分家し同妻代子(同三七、二生)兵庫縣立柏原高等女學校出身)は兵庫縣人蘆田五郎に嫁せり(兵庫、水上、竹田村)

依田直吉 靜岡縣多額納稅者、松崎銀行(株)監査役、靜岡縣在籍
 妻 明一五、一三、靜岡、近藤平三
 君は靜岡縣人先代直吉の長男にして明治八年二月を以て生れ同四十五年家督を相續す共に前名直次郎を改む同三十年早稻田大學英語政治科を卒業し現に松崎銀行監査役に任じ靜岡縣多額納稅者たり家族は尙長女壽子(大六、九生)あり姉きく(安政二、三三)は靜岡縣人依田又四郎に嫁し同れん(同六、六生)は藥學博士近藤平三郎の母にして同妻(同五、六生)は靜岡縣人近藤平八郎の養子となり(靜岡、賀茂、松崎町)

依田又四郎 松崎銀行(株)頭取、沼津銀行(株)監査役、靜岡縣在籍
 妻 安政二、三三、靜岡、依田直吉三
 君は靜岡縣人依田善吾の弟にして嘉永三年十二月を以て生れ慶應三年分家して一家を創立す現時松崎銀行頭

依田耕一 内外編物(株)常務取締役、靜岡縣在籍
 妻 明三五、六生、東京、奥八郎兵衛
 君は元明治海運會社長依田治作の長男にして明治二十一年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十五年慶應義塾大學理財科を卒業し渡米して紐育州イーストマン商業學校を卒業す後森村組に入り紐育市に於て勤務し滯米八年にして歸朝次で同組を辭し内外編物會社を創設し自ら其常務取締役に就任し今日に至る姉初(明一四、一〇)は靜岡縣人松井謙保に妹壽子(同二九、一〇)は山口縣人松井謙保に妹壽子(同三八、一〇)は絶家坪田氏を再興せり(東京、赤坂、青山町二ノ四電番山四三七)

依田佐二平 靜岡縣多額納稅者、農業
 妻 明二四、八生、渡邊要五女
 君は靜岡縣人依田善六の三男にして明治十五年十一月を以て生れ先代佐二平の養子となり大正十三年家督を相續し前名善平を改め養子割業を營み靜岡縣多額納稅者たり家族は尙長女布久(大一二、八生)二女幸(同四、四生)養叔マ(明九、一三)神奈川、加藤角次郎(四女)あり(靜岡、賀茂、中川村)

依田英一 長野縣多額納稅者、農業
 妻 長野縣在籍

ヨ之部

余郷現真 從五位勳五等、判事、名古屋控訴院判事、愛知縣在籍
 妻 門一六、七生、滋賀、居永新右衛門長女
 君は愛知縣人余郷久左衛門の長男にして明治九年十月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十二年檢事に任じ福岡區裁判所判事を歴補し爾來岡崎區名古屋區地方各裁判所判事を歴補し大正十二年現職名古屋控訴院判事に補せらるる(名古屋控訴院内)

余繩章 從五位勳四等、臺灣總督府法院判官、臺北地方法院宜蘭支部單獨部判官、臺北地方法院宜蘭支部合議部判官、長崎縣士族
 妻 明一九、五生、長崎、富田道顯長女
 君は長崎縣士族余繩惟一の二男にして明治八年十二月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同三十八年陸軍歩兵少尉に任じ同三十九年判事となり長崎縣兼同地方警備區鹿兒島地方同區各裁判所判事を歴補し大正四年臺灣總督府法院判官に任じ爾來臺中臺南各地方法院判官臺北地方法院宜蘭支部判官に歴補し昭和二年前記現職に轉ず家族は尙三女トミ(六七、一三)四女マコ(同二二、五生)の外弟貞(明二四、六生)同妻キキ(同二三、八生、長崎、士、木下鐵茂長女)及其子女あり妹ミキ(同一九、三三)は長崎縣人川村淨城に嫁せり(臺灣、宜蘭、臺北地方法院宜蘭支部判官官舎)

依田英一 長野縣多額納稅者、農業
 妻 長野縣在籍

横尾松之助
大分縣多額納税者、日田實業銀行
實業貯蓄銀行、日本實業工業、日田
製材各(株)取締役、兩豐銀行(株)
監査役、農業、大分縣在籍(株)
妻 キキ 慶應二、一生、大分、横尾順一長女
男 龍助 大、四、生、福岡、日高常次郎
女 ひで子 明四三、一〇生

横尾雄一
佐賀縣多額納税者、佐賀商工會議
所副會頭、米穀商、佐賀縣在籍
妻 シケ 明三二、一生、養父仁平長女
男 彌三 明三五、五、生、佐賀、横尾仁平三
男 彌三 明三五、五、生、佐賀、横尾仁平三

横川重次
埼玉縣多額納税者、小川無盡(株)
代表取締役、第八十五銀行(株)取
締役、農業、埼玉縣在籍(株)
妻 ハナ 慶應二、六、生、群馬、澁澤六三二女
男 重衛 大九、八、生

横尾彌門
山形新聞社(株)社長、月山電力
(株)代表取締役、東根銀行(株)取
締役、山形縣在籍
妻 キキ 慶應二、一生、大分、横尾順一長女
男 龍助 大、四、生、福岡、日高常次郎
女 ひで子 明四三、一〇生

横尾義智
新潟縣多額納税者、農業
妻 サイ 安政四、三、生、新潟、池龜彌平太
女 二女

横河一郎
横河電機製作所(株)専務取締役
兵庫縣在籍
妻 安八郎 安政元、七、生、現戸主
男 安雄 大六、二、生

横尾彌門
山形新聞社(株)社長、月山電力
(株)代表取締役、東根銀行(株)取
締役、山形縣在籍
妻 キキ 慶應二、一生、大分、横尾順一長女
男 龍助 大、四、生、福岡、日高常次郎
女 ひで子 明四三、一〇生

横川定
從五位勳六等、醫學博士、臺灣總督
府臺北醫學專門學校教授、生徒監
岡山縣在籍
妻 嘉永四、九、生、祖父房五郎長女

横河一郎
横河電機製作所(株)専務取締役
兵庫縣在籍
妻 安八郎 安政元、七、生、現戸主
男 安雄 大六、二、生

横河震八郎
横河橋梁製作所(株)取締役、仁倉
(名)代表社員、醫師、兵庫縣在籍
男 一郎 明一九、七、生

横澤倅
北信銀行(株)頭取
長野縣在籍
妻 みよの 明二九、一生、長野、相澤會兵衛妹
男 章 大五、八、生

横島直彌
尼崎化學工業所(株)代表取締役、
廣島電氣、瀬戸内海橋梁、鐵道各
(株)取締役、大和、廣電、有馬温泉
土地、大阪無盡、廣電證券各(株)
監査役、青森縣在籍(株)
妻 直衛 大二、一生

横河民輔
正五位、工學博士、警備府財政局
顧問、第一機關汽機保險(株)監査役
横河電機製作所(株)相談役、建築
學會長、東京府在籍
妻 シズメ 明三、三、生、東京、橋本一郎妹
男 時介 明二九、四、生、米國コネル大學
出身
女 淑子 明三七、三、生、長男時介妻、東京、
清水幸一郎妹

横澤多利吉
正六位勳六等、仙臺高等工業學校
長、仙臺市立商業學校長
宮城縣在籍
妻 りやう 明七、七、生、養父淨長女
男 忠雄 明三〇、八、生
女 すみえ 明四一、一生、二男忠雄妻、宮城、
小野武姉
男 國雄 明三二、一、生

横瀨守雄
朝鮮銀行(株)四平街支店支配人
長崎縣在籍
妻 ユキ 明二、一生、福岡、横山久徳二女
男 滿三 明三七、一、生、長崎、米原林藏長女
女 満三 明三七、一、生、長崎、米原林藏長女

横澤彌兵衛
長井銀行(株)常務取締役、置賜職
物(株)取締役、山形縣在籍
妻 ひて 明三、一〇、生、山形、土、今井嘉
彌三 明三一、三、生
彌三郎 明三三、一、生
彌三郎 明三五、一〇、生
彌三郎 明三八、二、生
彌三郎 明四〇、八、生

横澤彌兵衛
長井銀行(株)常務取締役、置賜職
物(株)取締役、山形縣在籍
妻 ひて 明三、一〇、生、山形、土、今井嘉
彌三 明三一、三、生
彌三郎 明三三、一、生
彌三郎 明三五、一〇、生
彌三郎 明三八、二、生
彌三郎 明四〇、八、生

横田章
從五位勳三等、陸軍一等主計正、陸
軍省經理局衣糧課長、熊本縣在籍

横澤彌兵衛
長井銀行(株)常務取締役、置賜職
物(株)取締役、山形縣在籍
妻 ひて 明三、一〇、生、山形、土、今井嘉
彌三 明三一、三、生
彌三郎 明三三、一、生
彌三郎 明三五、一〇、生
彌三郎 明三八、二、生
彌三郎 明四〇、八、生

横澤彌兵衛
長井銀行(株)常務取締役、置賜職
物(株)取締役、山形縣在籍
妻 ひて 明三、一〇、生、山形、土、今井嘉
彌三 明三一、三、生
彌三郎 明三三、一、生
彌三郎 明三五、一〇、生
彌三郎 明三八、二、生
彌三郎 明四〇、八、生

横田章
從五位勳三等、陸軍一等主計正、陸
軍省經理局衣糧課長、熊本縣在籍

横地石太郎 三位勲二等、山口高等商業學校名譽教授、石川縣士族、天保二、八生、石川、士、松川、清之丞長女

横地直子 京都市立第一高等女學校在學、大正二、生、京都府立第一高等女學校在學

横地市藏 雜貨商、愛知縣在籍、君は石川縣士族、横地大十郎の長男にして萬延元年正月を以て生れ明治十六年家督を相続す

横手千代之助 正四位勲二等、醫學博士、東京帝國大學教授、衛生部事務局長、中央衛生會委員、保健衛生調査會委員、東京府衛生會臨時委員、東京市衛生會臨時委員、東京市衛生會臨時委員、東京市衛生會臨時委員

横溝小八 阪南土地建物(株)監査役、大阪電氣會社、大阪府在籍、君は大阪府人先代小八の長男にして元治元年一月を以て生れ明治十六年家督を相続す

横溝小八 阪南土地建物(株)監査役、大阪電氣會社、大阪府在籍、君は大阪府人先代小八の長男にして元治元年一月を以て生れ明治十六年家督を相続す

横濱竹藏 北海道多額納稅者、漁業、北海道人、明一、一、生、北海道、野島、明一、一、生、北海道、野島、明一、一、生、北海道、野島

横溝治三郎 正四位勲三等、工學博士、兼議院議員(千葉縣選出)、東京府在籍、君は千葉縣人横溝源一郎の弟にして明治四年三月を以て生れ大正六年家督を相続す

横山章 勳三等、貴族院議員、倉庫精練、ルネオ護謄各(株)社長、兼業、石川縣士族、君は石川縣士族横山隆興の長男にして同芳松の兄に當り明治七年一月を以て生れ大正五年家督を相続す

横光吉規 正六位、臺灣總督府事務官、殖産局勤務、大分縣在籍、君は大分縣人横光秀吉の長男にして明治二十一年九月を以て生れ大正三年東京帝國大學法政科を卒業す

横森六太郎 榮銀行、製糖各(株)取締役、長野縣在籍、君は長野縣人横森忠平の長男にして明治五年二月を以て生れ同二十五年家督を相続す

横山淺吉 文具商、兵庫縣在籍、君は兵庫縣人横山保太郎の弟にして明治四年五月を以て生れ同二十六年分れて一家を創立す

横村米太郎 從四位勲三等、判事、大審院判事、新潟縣在籍、君は新潟縣人横村儀助の長男にして明治四年八月を以て生れ同二十年家督を相続す

横屋潤 從五位勲六等、農林技師、畜産局長、馬産課長、岡山縣士族、君は岡山縣士族横屋喜次の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正十一年先代帝完の死跡を相続す

横山一平 勳四等、東洋捕鯨、常務興業各(株)社長、金澤電氣軌道(株)常務取締役、北洋漁業(株)監査役、東京府在籍

横山英太郎 正五位勳四等、電氣試験所技師兼通信技師、東京府在籍、電氣試験所第四部長、福井縣在籍

横山金太郎 正七位勳三等、衆議院議員(廣島縣選出)、廣島縣在籍、廣島縣農務局長、廣島縣農務局長

横山勝太郎 衆議院議員(東京府選出)、芝區會議員、辯護士、廣島縣在籍

横山勤助 五城銀行(株)取締役、醫師、宮城縣在籍

横山小五郎 熊本縣多額納稅者、農業者、熊本縣在籍

横山久太郎 久保田屋、靴原料商、大阪府在籍

横山英太郎 正五位勳四等、電氣試験所技師兼通信技師、東京府在籍

横山勝太郎 衆議院議員(東京府選出)、芝區會議員、辯護士、廣島縣在籍

横山金太郎 正七位勳三等、衆議院議員(廣島縣選出)、廣島縣在籍

横山勝任 正五位勳四等、東京帝國大學教授、工學部勤務、長野縣在籍

横山義一 大阪府在籍

横山小五郎 熊本縣多額納稅者、農業者、熊本縣在籍

横山久太郎 久保田屋、靴原料商、大阪府在籍

横山英太郎 正五位勳四等、電氣試験所技師兼通信技師、東京府在籍

横山勤助 五城銀行(株)取締役、醫師、宮城縣在籍

横山勝太郎 衆議院議員(東京府選出)、芝區會議員、辯護士、廣島縣在籍

横山金太郎 正七位勳三等、衆議院議員(廣島縣選出)、廣島縣在籍

横山勝任 正五位勳四等、東京帝國大學教授、工學部勤務、長野縣在籍

横山義一 大阪府在籍

横山小五郎 熊本縣多額納稅者、農業者、熊本縣在籍

横山久太郎 久保田屋、靴原料商、大阪府在籍

横山英太郎 正五位勳四等、電氣試験所技師兼通信技師、東京府在籍

横山勤助 五城銀行(株)取締役、醫師、宮城縣在籍

中村精次郎(吉崎龜之助)の項

横山治郎吉 東洋チエイン(株)取締役、横山商店(代表社員)船具魚網商

横山鹿吉 横山鹿吉建築事務所主、建築設計請負業、高知縣在籍

横山静衛 東神倉庫(株)横濱支店長、廣島縣在籍

横山助成 正五位勳四等、内務省警保局長、秋田縣在籍

九九電本局(八三八)

横山重助 廣島縣多額納税者、足袋商

横山正吉 第一銀行(株)計算方、東京府土族

横山庄右衛門 北海道多額納税者、札幌銀行(株)代表社員

を以て生れ明治三十七年家督を相続し前名庄藏を改め...

横山信毅 大倉土木(株)専務取締役、茨城縣土族

横山助次郎 洋酒醸造業、大阪府在籍

横山隆俊 正四位勳四等、男爵、金澤電氣軌道(株)社長

横山助成

君は秋田縣土族横山勇喜の二男にして明治十七年一月を以て生れ後先代ツメの養子となり同十九年家督を相続す...

横山清次郎

君は東京府人横山六左衛門の長男にして明治二十八年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す...

横山清平

宮城縣多額納税者、味噌商、宮城縣土族

横山泰造

君は宮城縣土族横山清三郎の三男にして安政元年二月を以て生れ後家督を相続す...

横山高次郎

君は静岡縣人西郷佐吉の二男にして明治十三年四月を以て生れ先代高次郎の養子となり大正三年家督を相続す...

横山隆俊

當家は横山長知の後なり長知前田利長に仕へ勇略を以て聞ゆ其子大膳康女に至り國老の班に列し藩政をとる...

横山辰五郎

君は群馬縣人先代辰五郎の長男にして文久二年三月を以て生れ明治三十七年家督を相続し...

横山長次郎

三陸汽船(株)社長、三松(資)代表社員、東京府在籍

横山 萬平 妻 明三八、一〇生、養子敏彦妻、東...

横山 保太郎 妻 慶應元、六生、兵庫、辻野岡次郎妹...

横山 利藏 妻 横山商會(株)社長、横山倉庫(株)...

横山 芳松 妻 北陸共同電氣(株)社長、皇泉電機...

横山 由作 妻 田鶴濱銀行(株)常務取締役、石川縣在籍...

横山 利藏 妻 横山商會(株)社長、横山倉庫(株)...

横山 芳松 妻 北陸共同電氣(株)社長、皇泉電機...

横山 保太郎 妻 慶應元、六生、兵庫、辻野岡次郎妹...

由雄元太郎 妻 明七、七生、石川、村左衛門二女...

吉井 幸藏 妻 從四位、伯爵、著述家、東京府華族...

吉井 萬次郎 妻 眞用泰紙商、大阪府在籍...

吉井 桃磨呂 妻 横濱火災海上保險(株)専務取締役...

吉井 幸藏 妻 從二位勳三等功五級、海軍少佐、大日本帝國...

吉井 久次郎 妻 元治元、九生、福岡、福岡卯平長女...

吉井 善藏 妻 鹿兒島縣多額納稅者、米穀肥料商...

吉井 仲助 妻 加島銀行(株)常務取締役、大同生...

吉井 信康 妻 舊上州吉井藩、子爵細川立興伯爵...

吉井 安吉 妻 吉安商店、朝子商、東京府在籍...

吉井 桃磨呂 妻 横濱火災海上保險(株)専務取締役...

吉井 萬次郎 妻 眞用泰紙商、大阪府在籍...

吉井 安吉 妻 吉安商店、朝子商、東京府在籍...

吉井 桃磨呂 妻 横濱火災海上保險(株)専務取締役...

吉井 萬次郎 妻 眞用泰紙商、大阪府在籍...

吉井 幸藏 妻 從四位、伯爵、著述家、東京府華族...

君は東京府人吉井安吉の長男にして明治十三年七月を以て生れ大正九年家督を相續し舊名幸太郎を改め襲名す...

吉井芳太郎 大阪府人 大阪府在籍 妻 明二、一、一、生、福島、馬弓孝元妹...

吉居 佐助 京都府多額納税者、染服商 妻 しげ 明一、五、三、生、滋賀、東野きん長女...

吉家 捨藏 長野縣多額納税者、農業 妻 敬造 明二、一、一、生、長男敬造妻、長...

吉江 達郎 長野縣在籍 妻 明三、七、七、生、長野、吉江覺衛務四...

吉江 良夫 上伊那銀行(株)取締役 妻 けき 明三、七、七、生、長野、吉江覺衛務四...

吉尾 清藏 大阪府在籍 妻 明一、五、一、一、生、養祖父清右衛門...

吉雄 永壽 高砂企業(株)取締役兼支配人、高砂鐵工(株)取締役、京都府土族...

吉植庄一郎 正五位勳三等、商工務次官、衆議院議員(千葉縣選出)、商工審議...

吉江石之助 正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、静岡縣土族...

吉岡 榮藏 高田農商銀行、東京護謨各(株)取締役、東京土地、東京府是製絲各...

吉岡 兵衛 兵庫縣多額納税者、船具商 妻 正藏 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉江 琢兒 正四位勳二等、理學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授、理...

吉江 作太郎 戸出物産(株)取締役 妻 敏子 明四、一、一、生、富山、鳥田七郎右...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

吉岡 儀助 千葉縣多額納税者、醸造業 妻 明三、一、一、生、長男正藏妻、東京...

君は長野縣人吉江源治郎の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す...

君は長野縣人吉江源治郎の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す...

君は長野縣人吉江源治郎の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す...

君は長野縣人吉江源治郎の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す...

君は長野縣人吉江源治郎の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す...

君は長野縣人吉江源治郎の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す...

男 範 武 明三二、一〇生、法學士
 婦 田鶴子 明三九、二生、長男範武妻、子爵
 君は熊本縣土族吉岡忠義の長男にして明治二年五月を以て生れ同四十年家督を相続す凡に海軍に入り果して海軍中將に任ぜらる其間第一艦隊參謀長海軍砲術學校長金剛艦隊長海軍教育本部第二部長兼海軍技術本部技術會議員聯合艦隊參謀長を歴補し大正十三年豫備役となる日清日露の戦役に功を樹て金鵄勳章功四級を賜ふ弟謙(明一七、一〇生、東京高等工業學校出身)は分家し同信哉(同二二、五五)は熊本縣人坂井儀一郎養子レソトの婿養子となれり(東京市外千駄ヶ谷町八三四電四谷八八〇)
 参照：子爵青木梅三郎の項

吉岡 伯治 東北電燈(株)取締役
 宮城縣在籍
 妻 なか 明二二、一〇生、山形、渡部清六長女
 男 五六 明二九、九生、長女とみよ夫、宮城、常陸廣治弟
 養子 繁 二 明二八、八生、養子繁三妻
 女 とみよ 明二八、八生、養子繁三妻
 女 つよし 明二九、一〇生
 女 つよし 明二九、一〇生

吉岡 治雄 實商
 大阪府在籍
 妻 久野 明二九、八生、大阪、木村匡雄妹
 男 定男 明一〇、一〇生
 君は大阪府人水谷次郎兵衛の六男にして明治二十九年十月を以て生れ先代たきの養子となり大正七年家督を

相續す實商を營む家族は尙二男喬男(大一一、一〇生)長女悦子(同一一、一〇生)あり(大阪、南、内安堂寺町一ノ二二)
 吉岡 福忠 金子鑛業(株)取締役、東京鋼管工
 業、ミヤコ自動車各株)監査役
 東京府土族
 妻 鈴 喜 明五、四生、石川、渡邊温長女
 男 忠 治 明三七、一二生

吉岡 平助 大阪實業(株)監査役
 大阪府在籍
 繼母 つぎ 明八、一〇生、兵庫、小西平兵衛
 君は大阪府人先代平助の長男にして明治二十六年五月を以て生れ同四十一年家督を相続し前名市太郎を改む現時大阪實業文庫監査役たり家族は尙妹てふ(明三四、六生)あり同(同三〇、九生)は大阪府人岩井みづの相續人となれり(大阪、天王寺、小宮町四四)

吉岡 又次郎 内外材商
 大阪府在籍
 妻 イト 明二六、一〇生、京都、三上治三郎
 男 平治 大一一、四生
 女 里子 明四四、一〇生
 女 米子 大二、三三

養母 ゆき 慶應二、二生、大阪、吉岡利三郎
 妻 千代 明三五、一〇生、養父三治郎庶子
 君は大阪府人渡邊又三郎の三男にして明治三十五年一月を以て生れ先代三治郎の養子となり大正十三年家督を相続す金融業を營む家族は尙長女雅子(大一一、八生)二女治子(同一一、七生)あり(大阪、東、谷町五ノ五)
 吉岡 彌生 勸六等、東京女子醫學專門學校長、
 日本女醫學會々長、東京聯合婦人會
 々長、牛込婦人會々長、大日本女
 子青年團理事、東京至誠病院院長、
 醫師、佐賀縣在籍
 男 博人 明三五、九生、現戶主
 女史は靜岡縣人鷲山養齋の二女にして明治四年三月を以て生れ同四十一年先代故東京女子醫學專門學校理事吉岡荒太に嫁す同二十五年内務省醫事開業試験に合格同二十八年醫院を開設し同三十七年東京女子醫學專門學校を創設す尋て同校附屬病院及東京至誠病院を開き育英の傍ら一般の診療に従事し今日に至る婦人刀圭界の重鎮たり又前記婦人諸團體の主腦者に挙げられ其他各方面の社會事業に參與し貢獻する處極めて多く大正十三年特に勸六等に彼し瑞寶章を賜はる家族は尙弟正明(明一七、一〇生)同妻ふき(同二三、七生、靜岡、山崎巖妹)及其二男一女あり(東京、牛込、下宮比町四電牛込三五、三五六)

吉岡 利兵衛 金融業
 大阪府在籍
 妻 あい 弘化二、五生、大阪、北野利助長
 女 シメ 明一四、四生、大阪、太田平次長
 女 敏子 明四〇、九生、夕陽丘高等女學校
 出身
 君は大阪府人吉岡利兵衛の二男にして明治十三年二月を以て生れ同二十六年姉ゆきの後を受け家督を相續し前名利三郎を改む金融業を營む姉ゆき(慶應二、二生)同たかは各分家せり(大阪、東、南農人町二ノ二七電東三四八)

吉賀 準二郎 横濱正金銀行(株)長崎支店支配人
 山口縣在籍
 妻 恒 雄 嘉永三、九生、現戶主
 養母 トキ 安政二、四生、山口、土、内藤三郎兵衛長女
 妻 ツル 眞三〇、三三、山口、土、青木住真養子

吉川 綾吉 徳島縣會議長、阿波農工銀行(株)
 取締役、徳島縣土族
 男 充 明二〇、三三、早稲田大學出身
 女 ヒデ子 濱名理作六女
 孫 和子 明四三、一二生、長男充長女
 君は徳島縣土族久米左源の弟にして同力翁の叔父なり文久二年二月を以て生れ先代信次郎の養子となり明治二十九年家督を相続す農業を營み現に阿波農工銀行取締役たり土地の有力者として知られ又徳島縣會議長に推さる二男泰人(明二二、七生)同妻ムメノ(同三〇、一二生、徳島、吉成文藏妹)は分家せり(徳島、那賀、今津村)
 参照：久米力翁の項

吉川 伊作 吉川本店(名)代表社員、酒類商
 大阪府在籍
 妻 コイト 門二五、三三、奈良、松村宗左衛門二女
 男 俊一 明四〇、八生
 君は奈良縣下の舊家にして酒造業を營める吉川善重郎の弟にして明治九年七月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す凡に酒類商を營み吉川本店と稱し大正四年營業を合名組織に改め爾來是が代表社員として著る現に擧げられて全國酒類同業組合聯合會々長大阪酒類商組合副長たり家族は尙四男六六(明四四、九生)五男潤(大五、七生)あり長女壽子(明三八、八生)は東京府人日下寛三男繁に養子嗣子(同三四、六生、兄

善重郎四女)は奈良縣人松村實照に嫁せり(大阪、南、高津町四番丁五九電扇戎四〇〇四)
 吉川 伊之助 川崎衛生組合長、地主
 大阪府在籍
 妻 サダ 明九、三三、大阪、龜田繁三郎姫
 男 正一 大三、一〇生、府立茨木中學校在學
 養子 キミ 明三九、六生、大阪、吉川熊雄姉
 大手中高等女學校出身
 君は大阪府人吉川熊吉の長男にして明治八年十一月を以て生れ同二十九年家督を相続す養子に銅器製造業を營みしが現時地主にして川崎衛生組合長の外大阪府方面委員天満宮氏子總代等に擧げらる熱心なる金光教信者なり弟繁藏(明一六、七生)は同妻キム(同一九、三三)は愛知縣人村上玉吉に嫁せり(大阪、北、梅ヶ枝町一八八電北八四二)

吉川 伊平治 寺庄銀行(株)専務取締役
 滋賀縣在籍
 妻 さだ 嘉永三、三三、滋賀、吉川伊助妹
 男 伊右衛門 明二八、一〇生、滋賀、吉川又平妹
 女 てる 明三三、九生、長男伊右衛門妻、滋賀、渡邊榮治郎二女
 女 かつ 明四三、四生
 君は滋賀縣人吉川伊平治の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十二年家督を相続し前名寅太郎を改む現に寺庄銀行常務取締役たり家族は尙孫虎雄(大一一、三三)、長男伊右衛門長男(同三三、八生、同二男)あり二男泰治郎(明三二、一〇生)は其妻ハナ(同三六、七生)、大阪、田中龍之助二女)及其一子を伴ひ分家し弟常三郎(同二一、二生)は大阪府人松村マサの死跡を相續せり(滋賀、甲賀、寺庄村)
 参照：吉川又平の項

吉川 市三 風月堂、菓子商
 兵庫縣在籍
 父 市介 嘉永五、一〇生、現戶主

吉川 榮次郎 金融業
 京都府在籍
 妻 と き 明八、一一生、京都、小林十郎三女
 男 豐藏 明三三、二二生
 男 武次郎 明三六、一一生
 男 榮三郎 明四〇、八生
 女 トク 明四二、二二生
 女 ツル 明四二、九生
 君は京都府人吉川吉次郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正四年家督を相続す金融業を營む長女エイ(明三〇、一〇生)は京都府人高見喜之助に二女サト(同三四、一二生)は同府人瀨口富三郎に嫁せり(京都、上京、神泉苑跡小路下ル)
 参照：高見喜之助、瀨口富三郎の項

吉川 龜次郎 從四位勳四等、工學博士、高山耕
 山化學陶器(株)監査役、湯淺藩電
 池製造(株)顧問、京都府在籍
 妻 ヒロ 明一〇、一〇生、奈良、三浦善也四女
 男 巖 明三三、四生
 君は奈良縣人吉川善重郎の弟にして明治二年十二月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す第三高等中學校を経て明治二十八年帝國大學工科大學應用化學科を卒業し同三十年帝國大學工科大学助教授に任じ翌年

京都帝國大學理工科設立の際轉じて同學理工科助教と...

吉川 勘三 奈良縣多額納稅者、農林業...

吉川 吉五郎 新潟縣多額納稅者、白根銀行(株)...

吉川 久七 藤井製菓(株)社長、大阪石膏(株)...

吉川 重三 大阪府人吉川源次郎の長男にして明治三年四月を...

吉川 順治 正五位、醫學博士、京都府立醫科大學教授...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二男にして明治十五年三月を...

吉川 重次郎 大阪府人吉川重三の三男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の四男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の五男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の六男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の七男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の八男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の九男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十一男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十二男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十三男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十四男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十五男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十六男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十七男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十八男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の十九男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十一男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十二男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十三男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十四男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十五男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十六男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十七男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十八男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の二十九男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十一男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十二男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十三男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十四男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十五男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十六男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十七男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十八男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の三十九男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の四十男にして明治十五年三月を...

吉川 重三 大阪府人吉川重三の四十一男にして明治十五年三月を...

國大學法科大學英法科を卒業し...

吉崎御之助

帝國電線株式會社取締役、吉崎商...

吉澤岩次郎

高津土地建物株式會社取締役、鼻緒商...

君は京都府土佐郡内越守の第に...

吉澤一磨

山陽無煙炭株式會社取締役、專務...

君は大阪府人吉崎善兵衛の長男にして...

吉澤善三郎

漆器商、大阪府在籍、漆器商...

君は愛知縣人吉澤善三郎の長男にして...

吉澤仁太郎

新潟縣多額納稅者、酒造業、酒造業...

あり長女よね(明三〇、九生)は富山縣人...

吉澤文作

埼玉縣多額納稅者、酒類商、酒類商...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤眞範

從五位勳五等、海軍豫備大尉、神...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤恒也

度量衡器商、資産家、東京府在籍...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤三郎

仁壽生命保險株式會社取締役、東京府...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤尚

川崎第百銀行株式會社支店長、川崎...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤功

東京府在籍、東京、小谷久男...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤信子

東京府在籍、東京、小谷久男...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤信子

東京府在籍、東京、小谷久男...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤信子

東京府在籍、東京、小谷久男...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤信子

東京府在籍、東京、小谷久男...

君は東京府人山崎新五郎の弟にして...

吉澤信子

東京府在籍、東京、小谷久男...

吉澤 茂吉 久喜銀行(株)専務取締役、忍貯金銀行(株)監査役、埼玉縣在籍

吉澤 義則 從四位勳三等、文學博士、京都帝國大學教授、文學部勤務

吉島 休兵衛 岐阜縣多額納税者、飛騨産業銀行(株)頭取、飛騨貯蓄銀行(株)取締役

吉田 磯吉 勳三等、衆議院議員(福岡縣選出) 若松航運(株)社長、神戸銀行

吉田 市恵 大北産業、東京タクシー自動車各(株)専務取締役、大日本信託、東京府在籍

吉田 岩平 取組長、大阪府硝子製造同業組合副組長、硝子製造業、大阪府在籍

吉田 永助 正五位勳五等、商工技術兼文部省督學官、東京府在籍

吉住 安太郎 熊本縣多額納税者、金融業

吉田 伊三郎 從四位勳二等、特命全權公使、瑞西國駐劄、京都府在籍

吉田 伊三郎 鐵材商 兵庫縣在籍

吉田 卯之助 大阪府多額納税者、八千代興業、神戶市在籍

吉田 卯之助 大阪府在籍

吉田 卯之助 大阪府在籍

吉田 永助 正五位勳五等、商工技術兼文部省督學官、東京府在籍

吉田 嘉一郎 九州礦業(株)代表取締役、第一興業(株)監査役、大分縣在籍

吉田 伊兵衛 東海電線(株)代表取締役、四日市銀行、四日市貯蓄銀行、日本無線

吉田 猪太郎 大阪商工會議所議員、千歳同族(株)社長、日本動産火災保險(株)監査役、山萬、魚類商

吉田 榮右 常務生命保險(株)常務取締役 弘化四、九生、鳥根、士、三浦兼

吉田 榮右 常務生命保險(株)常務取締役 弘化四、九生、鳥根、士、三浦兼

吉田 榮右 常務生命保險(株)常務取締役 弘化四、九生、鳥根、士、三浦兼

吉田 榮右 常務生命保險(株)常務取締役 弘化四、九生、鳥根、士、三浦兼

吉田 榮右 常務生命保險(株)常務取締役 弘化四、九生、鳥根、士、三浦兼

吉田 榮右 常務生命保險(株)常務取締役 弘化四、九生、鳥根、士、三浦兼

て生れ明治三十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫ノゾ...

吉田 嘉助 鹿島屋、紙類商 東京府在籍...

吉田 勝一郎 紡績機械商 大阪府在籍...

吉田 兼吉 廣島縣多額納稅者、備後銀行(株)...

吉田 勘右衛門 赤坂區會議員、東京計量器(株)...

は同縣人堀五郎に嫁し孫三(大二、一一生、亡養子...)

吉田 龜吉 山崎屋、實油醸造業 東京府在籍...

吉田 龜吉 自轉車製造業 大阪府在籍...

吉田 勘右衛門 赤坂區會議員、東京計量器(株)...

吉田 勘右衛門 赤坂區會議員、東京計量器(株)...

尙三男誠(明四三、三三)四男俊二(同四四、一一生)...

吉田 勘兵衛 神奈川縣多額納稅者、地主 神奈川縣在籍...

吉田 喜一郎 康泰絨布、尼崎土地各(株)...

吉田 喜一郎 康泰絨布、尼崎土地各(株)...

吉田 喜三郎 神戸商工會議所議員、吉田屋吳服...

養子 喜代繁 明四一、一生、兵庫、吉田市太郎...

三月を以て生れ大正八年家督を相續し前名長一郎を改...

として知られ傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男...

吉田 喜太郎 熊本縣多額納稅者、農業 熊本縣在籍...

吉田 吉次郎 龜末廣、菓子商 京都府在籍...

吉田 久太郎 熊本縣多額納稅者、吳服商 熊本縣在籍...

君は熊本縣人吉田政平の長男にして嘉永二年三月を以...

君は京都府人吉田源助の長男にして明治十五年三月を...

當家は先代清成より家名を揚ぐ清成は舊鹿兒島藩士...

吉田 吉右衛門 新潟縣多額納稅者、村上銀行、村...

吉田 久四郎 吉田久四郎商店、上海油脂工業各...

吉田 金右衛門 福井縣多額納稅者、酒造業 福井縣在籍...

を以て生れ同三十三年家督を相續す酒造業を營み現に...

吉田金太郎

兵庫縣多額納税者、神戸株式取引所取引員、兵庫縣在籍...

吉田銀三郎

辯護士、計理士 東京府土族 妻 芳恵...

吉田健三郎

從五位勲六等、徳島縣在籍、大正四十四年...

吉田賢龍

從四位勲三等、廣島高等師範學校長、石川縣在籍...

吉田健三

安房合同銀行(株)常務取締役 妻 芳恵...

吉田源右衛門

廣島縣多額納税者、酒造業 妻 常守...

吉田源太郎

茨城縣多額納税者、酒類醬油商 妻 常守...

理士を兼ね兄左一郎(安政六、三、生、辯護士)は同妻...

吉田楠次郎

大阪府土族 妻 ミツ 子 隆男...

吉田國次

佐賀縣多額納税者、農業 妻 ハマ...

吉田國松

大阪府在籍 妻 アキ...

吉田庫一

佐賀縣多額納税者、吳服商 妻 トク...

吉田惠一

金澤電氣軌道(株)常務取締役、北陸冷蔵共同電氣(株)取締役、北陸冷蔵南洋捕鯨各(株)監査役...

吉田孝太郎

貴金屬商 妻 修一...

吉田幸三郎

地主 妻 孝三...

(捺印は姻族関係)

四一

吉田 重雄

名古屋製陶所(株)支配人

妻 重子 夫 大三、一五、生、兵庫、江見崎吉妹

君は愛知縣人吉田磯右衛門の四男にして明治二十年三月を以て生れ大正三年分家して一家を創立す其に名古屋市立商業學校を卒業し農林組に入りしが大正三年名古屋製陶所に轉じ同一年同所支配人に選ばれ今日に至るに商業觀察の爲に北米合衆國及英領加爾各答、朝鮮地方等に出張す其に同二男重成(大六、二生)長女磯江(同一〇、一生)二女飲子(同一三、九生)三女色子(同一五、五生)あり(名古屋、東、長洲町三ノ一二電東八七九)

吉田七左衛門

美濃縣多額納稅者、醬油醸造業

妻 安政元、一〇生、茨城、中島山三

君は美濃縣人先代七左衛門の長男にして明治十七年二月を以て生れ大正十年家督を相続し其に親名して前名七郎を改む其後醤油醸造業を営み現に美濃縣多額納稅者たり其に同二男正夫(明四五、二生)二女百合(大六三、八生)三女鞠(明五五、二生)四女志津(同八、六生)三男功(同一、三生)五女京子(同一三、二生)弟義屋(明二七、二生)同妻八重(同三四、六生)茨城、草間村(二六女)其二子あり長女芳江(同四〇、三生)は茨城縣人長澤茂一郎三男三郎に嫁せり(茨城、北相馬、大野村)

吉田準一郎

從五位、醫學博士、朝鮮道立醫院

妻 秀子 明二六、六生、東京、桑原莊吉三

君は香川縣人吉田豐の長男にして明治十六年八月を以て生れ同二十年家督を相続す同四十二年東京帝國大學醫學部卒業後、醫學博士、朝鮮道立醫院長、香川縣在籍

吉田潤平

宮城縣多額納稅者、仙臺軌道(株)

妻 安政六、一〇生、宮城、岩井庄太

君は宮城縣人吉田勝治の長男にして明治九年三月を以て生れ大正十年家督を相続す酒類商を営み傍ら仙臺軌道支社取締役に推され同額納稅者たり其に吉岡酒造會社取締役に推され家族は同五男男作(明四四、五生)六男善亮(大二、七生)五女幸(同四、一生)七男潤之介(同七、七生)八男信次郎(同一〇、三生)孫勝吉(同一五、一生)長男潤藏(二男)あり弟潤四郎(明二九、三三)は宮城縣人淺野金兵衛の養子となれり(宮城、黒川、吉岡町) 參照||淺野金兵衛の項

吉田正四郎

麻布市在籍

君は東京府人宮崎庄太郎の弟にして明治十五年六月を以て生れ吉田甚五郎の養子となり前名正一を改め大正九年分家して一家を創立す吉田本商店と稱し酒類商を營む家族は同二男正男(大三、九生)四女よね子(同九、六生)五女裕英(同一、一生)あり(東京、京橋、木柵町九ノ七電東八七八)

吉田庄四郎

岩手縣多額納稅者、岩手銀行

君は岩手縣人吉田七藏の長男にして明治十七年四月を以て生れ其後前名昌作を改め大正三年家督を相続す金融業を営み傍ら前記銀行會社の重役にして現に縣下の多額納稅者たり家族は同二男善次郎(明四四、九生)三男修三郎(大六三、二生)長女良(同五五、七生)四男久四郎(同七、一〇生)三女木(同九、一生)四女弘(同一二、七生)五女永(同一四、八生)あり(岩手、和賀、黒澤尻町) 參照||津津芳三の項

吉田庄八

群馬縣多額納稅者、金融業

妻 正子 明二九、七生、群馬、大川右平妹

君は群馬縣人先代庄八の弟にして明治二十一年五月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名佐太郎を改め金融業を営み現に群馬縣多額納稅者たり家族は同長女松子(大五、五生)二女秀子(同六、一〇生)三女はま子(同一二、一五生)三男三郎(同一四、八生)弟庄三郎(明二三、三三)同妻賢治(同三〇、一生)群馬、松本長松(二女)及其一男一女同四郎(同二八、一〇生)同妻かね(同三六、四生)群馬、金谷政吉(二女)及其三女あり妹クニ(同二五、三三)は東京府人田中文四郎に嫁せり(高崎、田町) 參照||大川右平の項

吉田庄兵衛

帽子商

妻 正三 明四一、四生、兵庫、鹽田純一二

君は大阪府人先代庄兵衛の長男にして明治七年一月を以て生れ同二十四年家督を相続し前名庄治郎を改め製菓子帽子商を營む(大阪、東、北久寶寺町四ノ三電船場一四六五)

吉田昭十郎

埼玉縣多額納稅者、名栗水電(株)

妻 芳枝 明四五、三生

君は埼玉縣人吉田磯次郎の長男にして明治二十二年三月を以て生れ同三十九年家督を相続す農業を営み傍ら名栗水電會社取締役に推され同額納稅者たり其に埼玉縣會議員同多事會に推されし事あり家族は同二女江(大八、一〇生)三女富美代(同一二、一生)あり妹きえ(明三三、一〇生)は埼玉縣人新井久治郎長男雄亮に嫁し弟司馬之助(同三六、二生)は同縣人吉田いづくの死跡を相続せり(埼玉、入間、名栗村)

吉田信一

正五位勳五等、商工技師、商務局

妻 愛信 嘉永二、八生、現戸主

君は新潟縣人吉田愛信の長男にして明治十九年三月を以て生れ同四十四年東京帝國大學工學部理化學科を卒業し農商務技師兼工業試驗場技師工場監督官兼臨時産業調査局技師國勢院技師特許局技師兼農商務技師等に歴任し大正十四年商工技師となり現に商務局勤務たり其に二回米各國に出張す家族は同二女妙(大務、一生)あり姉ノブ(明一七、七生)は新潟縣人津田貞征の養子となり叔父萬作(安政六、一〇生)は分家せり(東京市外落合町下落合四四)

吉田眞一

住友信託(株)取締役會長、住友銀行

妻 昌三 明四一、四生

君は山口縣人吉田右一の二男にして明治三十年十月を以て生れ同二十四年家督を相続す同二十八年帝國大學法科大學英法科を卒業し住友銀行に入り横濱支店支配人本店支配人支店長等を経て大正七年同行取締役に擧げられた後常務取締役となる現時住友信託會社取締役會長及び住友銀行監査役たり長女ミヤ(明三五、一生)は山口縣人兒部謙輔に二女ヒロ(同三七、二生)は同縣人小田伴長に嫁し二男順(同三九、一〇生)は同縣人阿部イノの養子となり兄乙熊(慶應元、一〇生)は同妻タカ(明六、一生)山口、佐藤政孝(二女)及其二子を生ひ分家せり(京都、下京、今熊野北日吉町六ノ二電下二六二五) 參照||小田伴輔の項

吉田甚五郎

吉良屋本店、酒類商

妻 源次郎 大ニ、一一生

君は東京府人先代甚七の長男にして安政三年三月を以て生れ後家督を相続す農業を営み現に岩手縣多額納稅者たり家族は同孫啓吉(大三、一生)二男啓八(長男)同サダ(同六、七生)同二女同甚八(同一〇、一生)同二

吉田甚七

岩手縣多額納稅者、農業

妻 啓八 明二〇、五生

君は千葉縣人先代甚左衛門の長男にして明治七年三月を以て生れ同二十二年家督を相続し前名銀之助を改め製菓子農業を営み現に千葉縣多額納稅者にして傍ら北總鐵道會社取締役に任じ家族は同長女美津子(明九、一生)あり同あさ(同一二、一〇生)は埼玉縣人酒井卓造に同久(同一四、一〇生)は東京府人江澤金五郎に叔母ちよ(同七、八生)は千葉縣人島村運平に嫁し弟丞七(同二二、七生)は東京府人梅津もんの養子となれり(千葉、東葛飾、田中村) 參照||江澤金五郎、酒井卓造の項

吉田甚七

岩手縣多額納稅者、農

妻 啓十郎 明三〇、四生

君は岩手縣人先代甚七の長男にして安政三年三月を以て生れ後家督を相続す農業を営み現に岩手縣多額納稅者たり家族は同孫啓吉(大三、一生)二男啓八(長男)同サダ(同六、七生)同二女同甚八(同一〇、一生)同二

吉田甚七

岩手縣多額納稅者、農

妻 啓十郎 明三〇、四生

君は岩手縣人先代甚七の長男にして安政三年三月を以て生れ後家督を相続す農業を営み現に岩手縣多額納稅者たり家族は同孫啓吉(大三、一生)二男啓八(長男)同サダ(同六、七生)同二女同甚八(同一〇、一生)同二

男(同一也)同三、一〇生、三男惣十郎長男同傳(同...)

吉田末吉

大阪府在籍... 妻 安治郎 明二〇、一〇生

君は大坂府人吉田彌三郎の二男にして慶應三年三月を以て生れ...

吉田清風

正四位勳二等功三級、海軍中將、東京府土族... 妻 ヨト 政愛長女

吉田家は代々舊鹿兒島藩に仕へたる士分なり先代清實明治維新後陸軍に入り...

吉田善三郎

百五銀行(株)取締役、三重縣在籍... 妻 とし 明三九、九生、三重、速水健治郎

君は三重縣人先代善三郎の長男にして明治三十三年八月を以て生れ...

吉田善三郎

東區會議員、大阪油精製所(株)社長、油類商、大阪府在籍... 妻 ふさ 明四、九生、大阪、荒木伊兵衛

君は大坂府人佃仁兵衛の二男にして文久三年八月を以て生れ...

軍大學校教官陸軍參謀長軍令部參謀第二遣外隊司令馬公要港部司令官等に歴補し...

吉田清兵衛

福島縣額納稅者、吳服商... 妻 ヨシ 慶應二、二生、福島、士、大和田

君は福島縣人先代清兵衛の長男にして文久三年十二月を以て生れ...

吉田静致

正四位勳三等、文學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學教授兼東京高等師範學校教授、長野縣土族... 妻 彦妹 明四、七生、東京、士、萩原清

君は長野縣土族吉田信義の長男にして明治五年七月を以て生れ...

吉田善之助

廣銀行、朝千銀行各(株)取締役、兵庫縣在籍... 妻 かめ 安政五、一〇生、兵庫、下村源三

君は兵庫縣人吉田重吉の長男にして安政三年十月を以て生れ...

吉田善平

金物商、福岡縣在籍... 妻 ヌイ 明六、九生、福岡、吉田善平二女

君は福岡縣人吉田増次郎の長男にして明治三十五年三月を以て生れ...

茶水高等女學校出身)は北海道人笠谷貴義に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町九〇二)...

吉田千九郎

三重縣多額納稅者、四日市銀行監査役、三重縣在籍... 妻 益吉 明三七、六生

君は三重縣人山口介二の二男にして安政元年五月を以て生れ...

吉田全助

吉全工場、西陣織物業、京都府在籍... 妻 ヲス 萬延元、九生、京都、井上利八二

君は京都府人先代全助の三男にして明治三十三年三月を以て生れ...

吉田善吾

從五位勳三等、海軍大佐、海軍省軍務局第一課長兼艦政本部技術會議々員、佐賀縣在籍... 妻 ヲネ 明二六、八生、佐賀、渡邊長兵衛

君は佐賀縣土族善吾の四男にして明治十八年二月を以て生れ...

吉田宗兵衛

茶道具商、京都府在籍... 妻 たま 明一五、九生、京都、關辨造發姑

君は愛知縣人先代善平の長男にして明治二十九年七月を以て生れ...

て生れ明治十年先代ソテの養子なり家督を相続す各...

吉田太一郎

君は東京府人河邊太兵衛の長男にして明治四年十月...

吉田太四郎

君は大阪府人吉田太三郎同芳太郎の弟にして明治五年...

吉田丹次兵衛

君は先代知義守都宮の舊家吉田丹兵衛方より分れて...

吉田丹治郎

君は英城縣人中山元成の三男にして嘉永三年八月を以...

吉田忠左衛門

君は福井縣人吉田忠右衛門の長男にして嘉永六年十一...

吉田忠平

君は福國縣人吉田忠次郎の孫にして明治三十二年二月...

吉田太助

君は愛知縣人先代太助の長男にして慶應三年一月を以...

吉田他人

君は岩手縣人吉田喜七の長男にして明治九年十月を以...

吉田大藏

君は兵庫縣人吉田常吉の弟にして明治十四年二月を以...

吉田武衛

君は大阪府土族吉田武衛の長男にして明治十四年二月を以...

吉田忠敬

君は舊加賀國大聖寺藩士吉田新五右衛門の四男にして...

吉田長七

君は大阪府人先代長七の長男にして嘉永六年四月を以...

吉田長敬

君は神戶海上運送火災保險(株)取締役...

吉田種藏

君は大阪府人吉田德兵衛の長男にして明治十年八月を以...

吉田忠

君は京都府人吉田忠三郎の長男にして明治四十一年七月...

吉田忠

君は京都府人吉田忠三郎の長男にして明治四十一年七月...

吉田忠

君は京都府人吉田忠三郎の長男にして明治四十一年七月...

吉田忠

君は京都府人吉田忠三郎の長男にして明治四十一年七月...

吉田忠

君は京都府人吉田忠三郎の長男にして明治四十一年七月...

吉田忠

君は京都府人吉田忠三郎の長男にして明治四十一年七月...

吉田 辰二 大五、七生
君は島根縣人岩城忠助の三男にして吉田長敬の養明なり明治二十一年一月を以て生れ先代長祥の養子となり大正七年家督相続と共に襲名して前名厚を改む磯崎商を營み商學士たり家族は尙長女三枝大四、三生二女長江、(同六、九生)二男長義(同七、一一生)三女眞(同二〇、六生)三男實(同二一、八生)四女ナナ(同三一、三生)五女豊(同二五、六生)あり(大阪、住吉、天王寺町二〇三三電五五七七)

吉田 長藏 酒類商
大阪府在籍
養子 和三郎 明三五、二生、養子阿栗夫、大阪、伊達伊一弟
養子 阿栗 明三八、一一生、養子和三郎妻、京都、小野正兵衛四女
君は大阪府人先代長藏の長男にして文久三年九月を以て生れ明治四年家督を相続す酒類商を營む家族は尙養子精乃(大四、八生)、大阪、小郷爲藏五女あり妹コマ(慶應二、一〇生)は大阪府人小池安太郎に嫁せり(大阪、東、豊後町三八)

吉田 直 從五位勳四等、海軍技師、橫須賀海軍建設部第一課長兼第二課長
北海道在籍
妻 直 明二五、九生、神奈川、蛭田伊三
女 直 明四三、六生
君は山口縣人吉田直太郎の長男にして明治十七年三月を以て生れ後家督を相続す明治四十一年東北帝國大學農科大學土木工學科を卒業し海軍に入り横須賀海軍經理部嘱託技師を経て同四十五年海軍技師に任ぜられ横須賀海軍經理部附佐世保海軍建設部建設科員佐世保海軍建設部第二課長にして第二課長を兼し現時横須賀海軍建設部第一課長にして第二課長を兼ぬ家族は尙二男直仁(大三、二生)三男直典(同四、一一生)二女雪子(同六、一一生)三女靖子(同八、一〇生)四男直崇(同二〇、七生)六男直興(同三一、一〇生)四男直崇(同二〇、七生)六男直興(同三一、一〇生)

吉田 直 從五位勳四等、海軍技師、橫須賀海軍建設部第一課長兼第二課長
北海道在籍
妻 直 明二五、九生、神奈川、蛭田伊三
女 直 明四三、六生

吉田 傳吉 日本麥酒醸造(株)取締役兼大阪支店支配人、大阪府在籍
妻 まつ江 源治二女
君は群馬縣人吉田彌市の長男にして明治十二年九月を以て生れる同三十三年明治法律學校を卒業し判事兼法務部事務課長に任じ爾來久留米區區長本區所理事に歷補し大正十三年岩内區新設田區區長各裁判所理事に歷補し大正十三年現職に補せらるる家族は尙孫あや(大十二、八生、長男義明長女)同(同二〇、一一生)、同(同二、八生、長男義明長女)同(同二〇、一一生)は東京府人陸軍工兵少佐川村赴に嫁せり(秋田、北秋田、大館町)

吉田 勉 臺灣銀行(株)理事
愛媛縣在籍
母 ア イ 文久二、一〇生、愛媛、士、武島
妻 ス テ 明二五、七生、東京、角忠七三女
男 嘉 一 大四、一一生
女 惠 子 大二、三生
君は愛媛縣人吉田實の長男にして明治十六年五月を以て生れ同十八年家督を相続す同四十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し臺灣銀行に入り大阪支店支配人を經て現に同行理事たり家族は尙二女欣子(大七七、七生)二男春雄(同二〇、一一生)三男三男(昭二、二生)あり(兵庫、武庫、御影町岸本一五四六ノ一電御影六二二)

吉田 傳次郎 京都府多額納稅者、京都取引所證券取扱引員、京都府在籍
妻 つね 明一九、六生、京都、永松植次郎
男 彦 佐 明三九、三生
養子 義 三 明二八、二生、長女ナカ夫、京都、築山甚三郎三男
君は京都府人井上文兵衛の二男にして明治四年二月を以て生れ先代佐助の養子となり同三十四年家督を相続す京都取引所證券取扱引員にして現に京都府多額納稅者たり家族は尙孫保(大四、一一生、養子義三長男)同(昭二、五生、同二男)あり(京都、下京、大和大路通四條下ル電中一五四四)

吉田 藤造 文房具商
大阪府在籍
養子 藤 次 明四一、五生、大阪、吉田幸治郎
君は兵庫縣人赤木藤次郎の弟にして明治十年十二月を以て生れ同三十五年先代ヌイの入夫となり家督を相続す文房具商を營み義に玄武洞土地建物會社取締役たり(大阪、東、博勢町四ノ七七電船場三八一)

吉田 藤造 文房具商
大阪府在籍
養子 藤 次 明四一、五生、大阪、吉田幸治郎
君は兵庫縣人赤木藤次郎の弟にして明治十年十二月を以て生れ同三十五年先代ヌイの入夫となり家督を相続す文房具商を營み義に玄武洞土地建物會社取締役たり(大阪、東、博勢町四ノ七七電船場三八一)

吉田 友七 築吳服商
京都府在籍
妻 みつ 明三四、一一生
男 友 三郎 明四〇、八生、長男友三郎妻、京都、北尾寅之助二女
君は京都府人吉田友七の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

吉田 統一郎 材木商
広島縣在籍
母 タツノ 明一三、一〇生、広島、實藤熊太郎
君は広島縣人吉田五一の長男にして明治四十五年六月を以て生れ昭和二年家督を相続す材木商を營む家族は尙姉イヅミ(明三一、三生)同夫浩(同二九、八生)、廣島、黒川軍助三男との間に一男三女あり(廣島、佐伯、平良村)

吉田 得藏 鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島郵船(株)取締役、鹿兒島製糖(株)監査役
鹿兒島縣在籍
妻 アケリ 明三二、一一生、鹿兒島、田中平次
君は鹿兒島縣人吉田金之助の長男にして明治九年六月を以て生れ同二十三年家督を相続す夙に實業界に入り現に鹿兒島郵船會社取締役たる外前記會社の重役たり義に日東汽船會社常務取締役鹿兒島土地興業鹿兒島灣内汽船大阪美術會社取締役に舉げらるる家族は尙二女房子(大九、三生)姉カマテ(明九、五生)亡弟靜一郎妻(同二、一一生)鹿兒島、田中(一妹)及其子女あり(同二、一〇生)は鹿兒島縣土族日高豊助に嫁し明正三六一、九生)は同縣人矢野彦兵衛弟進造に嫁せり(鹿兒島市泉町)

吉田 友七 築吳服商
京都府在籍
妻 みつ 明三四、一一生
男 友 三郎 明四〇、八生、長男友三郎妻、京都、北尾寅之助二女
君は京都府人吉田友七の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

吉田 友七 築吳服商
京都府在籍
妻 みつ 明三四、一一生
男 友 三郎 明四〇、八生、長男友三郎妻、京都、北尾寅之助二女
君は京都府人吉田友七の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

吉田 友七 築吳服商
京都府在籍
妻 みつ 明三四、一一生
男 友 三郎 明四〇、八生、長男友三郎妻、京都、北尾寅之助二女
君は京都府人吉田友七の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

吉田 友七 築吳服商
京都府在籍
妻 みつ 明三四、一一生
男 友 三郎 明四〇、八生、長男友三郎妻、京都、北尾寅之助二女
君は京都府人吉田友七の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

吉田 藤三 福岡縣多額納稅者、興行主
福岡縣在籍
妻 サイ 文久二、八生、福岡、土、竹田忠七三女
君は福岡縣人吉田藤三の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

吉田 藤三 福岡縣多額納稅者、興行主
福岡縣在籍
妻 サイ 文久二、八生、福岡、土、竹田忠七三女
君は福岡縣人吉田藤三の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

吉田 藤三 福岡縣多額納稅者、興行主
福岡縣在籍
妻 サイ 文久二、八生、福岡、土、竹田忠七三女
君は福岡縣人吉田藤三の長男にして明治九年一月を以て生れ大正十一年家督を相続す先是明治三十二年第三高等學校工學部土木科を卒業し東京市愛知縣各技手兵庫宮崎岩手奈良各縣技師を経て大正十三年地方技師に任ぜられ現に奈良縣内務部土木課長たり家族は尙四男四郎(大四、五生)二女ナツ(同七、六生)及弟保の二子あり(奈良市不審ヶ辻子町電七四〇)

子(同六、二生)三女晶子(同八、九生)四男達男(同一五、四生)あり女綾(明三六、五生)は宮城縣人作間富生弟昇に嫁せり(大阪、東、今橋三ノ一共同信託會社内電話本局三〇七)
參照 田縣吉澤男爵田健治郎大木泰雄田國田寬孝小谷保太郎田淵田田昌の項

吉田平治郎 正五位勲五等、朝鮮總督府判事、咸興地方院長、廣島縣在籍
妻 トヨ 明四一、六生、廣島、士、渡邊徳
男 正之 明三二、三生

君は廣島縣人和田吉郎の二男にして明治十三年五月を以て生れ同二十九年先代直二の養子となり家督を相続す同四十年關西大學を卒業し判事登用試験に合格同四十二年判事に任じ高知地方大阪地方各裁判所判事を經て同四十四年朝鮮總督府判事に轉じ爾來京城裁判法院判事同地方法院部長同覆審法院部長大邱地方法院長等に歷補し昭和二年現職咸興地方法院長に補せらる(咸興地方法院長官會)

君は神奈川縣人青柳正余の五男にして慶應二年十二月を以て生れ先代アヲの養子となり明治十九年家督を相続す現時大倉商事大倉火災海上保險各會社監査役たり家族は尙三男修三(大三、一)あり(東京市外千駄ヶ谷町原宿一六六電青山三〇)

吉田政太郎 兵庫縣在籍
妻 ヲヤ子 明三八、一、生、兵庫、吉田七次郎
妹 美子 明三八、一、生

君は兵庫縣人吉田庄三郎の長男にして明治三年三月を以て生れ同二十八年祖母に嫁すを以て家督を相続す資產家たり(神戸、富屋町四〇)

吉田政之助 兵庫縣在籍
妻 グラ 明三三、五、生、京都、森澤文助長
妻 マサエ 明三三、五、生、京都、信貴幸太郎

君は京都府人吉田政次郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ同三十八年家督を相続す染織服商を營む家族は尙長女ひろ(大一〇、四)生、弟高澄明三三、一、二生(同妻靜江同四四、四生、京都、石山清一)あり姉マサ(同二二、三)生、京都市人橋本彌三郎二男忠誠(同二五、二)生、大阪府人高田建三郎に嫁す(叔父友七(同七、六)生、弟幸次郎(同二七、二)生)は各分家せり(京都、下京、四條通室町東入電中三六四九)

吉田増太郎 福井縣多額納稅者、生絲羽二重仲妻 すぎの 明二二、七、生、福井、高橋信五郎
妹 教子 明四四、三、生

君は福井縣人吉田仁左衛門の三男にして明治十三年十月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す生絲羽二重仲賣業者として知られ現に福井縣多額納稅者たり家族は尙三女英子(大一一、一〇)生、(福井、足羽、六條村)

吉田亦次郎 食料品商東京府在籍
妻 くま 明四一、四、生、伊藤直右衛門長女
妻 喜代 明四一、一、生

君は東京府人鈴木福次郎の弟にして明治二十一年八月を以て生れ同四十一年先代くまの夫となり家督を相続す食料品商を營む家族は尙養子きみ子(大一一〇、三)生、廣島、小川延子(同二一、一)生(明三八、三)生、は分家せり(東京、赤坂、傳馬町二ノ一電青山五二七五)

吉田萬右衛門 玉置綿布(株)取締役和歌山縣在籍
孫 萬藏 明三一、一〇、生、亡長男政捕長男
孫妻 愛 明三四、九、生、孫萬藏妻、和歌山、石倉正右衛門六女

君は和歌山縣人吉田傳右衛門の長男にして安政元年八月を以て生れ明治二十一年家督を相続す現時玉置綿布會社取締役たり家族は尙孫仲子(大一、二)生、孫萬藏(同四一、二)生、生母、京都、太田ハルは石川縣人北村喜作の養子となり妹も(同一五、二)生、は同縣人杉森又右衛門養子となり(石川、石川、松任町)參照 橋本太郎津澤九郎の項

吉田萬太郎 岩手縣多額納稅者、盛岡銀行、盛岡倉庫、三陸水産冷蔵、盛岡信託各(株)監査役、生絲肥料商、岩手縣在籍
妻 キノ 嘉永四、一、生、岩手、稻荷場彌八養叔母
男 萬次郎 明二七、七、生
妻 ハル 明三〇、四、生、二男萬次郎妻、岩手、中村丑松三女
妻 伊之助 明二七、六、生、亡養子ハツ夫、岩手、伊藤次郎三男

君は岩手縣人吉田金太郎の長男にして安政三年一月を以て生れ同三十二年家督を相続す生絲肥料商を營み尙前掲銀行會社の重役にして同縣多額納稅者たり家族は尙孫マル(大四、二)生、二男萬次郎長女、同萬治(同五、一)〇生、同長男(同七一、一)〇生、養子伊之助長女あり長女ナミ(明一七、一)〇生、同夫重助(同一一、五)生、岩手、内館長次郎(四男)と共に其子女を伴ひて分家し三女エス(同二九、九)生、は岩手縣人吉田專太郎の養子となり(盛岡、川原町)
參照 稻荷場彌八の項

吉田茂太郎 三重縣多額納稅者、鼓ヶ浦土地建物(株)取締役、三重縣在籍
妻 茂吉 明三一、一、生、長男茂吉妻、三重、西川安吉二女
妹 ふき 明三二、一、生

君は三重縣人吉田茂七の長男にして明治四年五月を以て生れ同二十年家督を相続す現に前記會社の重役にして三重縣多額納稅者たり家族は尙孫茂(大一、一)〇生、長男茂吉長男(同二四、三)生、同二男(同二五、一)〇生、同長女(同二四、三)生、弟吉松(同二一、一)〇生、同長女(同二一、一)〇生、弟吉松(同二一、一)〇生、同妻しず(同二二、九)生、三重、廣瀨作太郎長女及其子女あり三男茂三(同二九、一)〇生、は三重縣人山下かねの死跡を相続し二女富美(同三六、二)生、是京府人井上俊雄に嫁す養兄富作(元治元、六)生、井上俊雄長男は分家せり(四日市、濱田町)參照 井上俊雄の項

吉田元吉郎 日本勸業銀行(株)鳥取支店長鳥取縣在籍
妻 ひさ 明六、九、生、鳥取、士、三島正夫
妻 武夫 明三九、一、二、生
妻 春子 明四三、三、生

君は鳥取縣人吉田養憲の二男にして明治元年正月を以て生れ同十七年家督を相続す現時日本勸業銀行鳥取支店長たり家族は尙七女富喜(大二三、三)生、あり長女壽子(明二四、一)〇生、は鳥取縣人藤野勝治に四女文子(同二三、九)生、は同縣人富田正孝に嫁す三女ます(同三〇、五)生、は同縣人富田村の死跡を相続せり(鳥取市西町)

吉田彌平 從四位勳三等、東京高等師範學校教授、東京府在籍
妻 しつこ 明六、四、生、京都、土、關口直理
妻 健男 明三二、九、生
妻 ひで 明四一、一〇、生、府立第二高等女學校出身
妻 さだ 明四三、一、生、府立第二高等女學校出身

君は茨城縣人町田清七の長男にして明治二年正月を以て生れ先代たきの養子となり同三十一年家督を相続す同二十七年東京高等師範學校文科を卒業し同校教授兼任に任じ同三十二年同校教授に進み現時に至る家族は尙二男俊男(大一一、一)〇生、七女みち(同八、一)〇生、長女しづ(明三四、九)生、は東京府人水原漸長男醫學博士豊に二女きよ(同三八、九)生、は奈良縣人由良市太郎長男清次に嫁せり(東京、小石川、高田老松町五二電牛込三五六五)參照 水原漸の項

吉野 信次 從五位、商工書記官、大臣官房文書課長兼統計課長、宮城縣在籍
 母 安政元、一一生、宮城、鈴木幸作
 妻 きみよ 女三、六生、宮城、阿部彌吉二
 男 孝雄 明四三、九生

君は宮城縣人吉野年藏の三男にして明治二十一年九月を以て生れる大正元文官高等試験に合格し同二年東京帝國大學法科大學法科を卒業し農商務局となり米國に出張し歸朝後兵庫縣理事官臨時産業調査局事務官農務大臣秘書官農商事務書記官等に歴任し大正十四年商工書記官となり現に大臣官房文書課長兼統計課長の職に在り家族は尙養兒和乎(文久三、二生、宮城、柏榮吉、現戸主)及び其子女ある外弟正平(明二三、一、二生)同妻壽(同三三、一、一生、長野、池田長治二女)同五郎(同三四、八生)あり兄作造(同一、一、一生)は其妻を伴ひ分家し姪とみ(同三〇、一、一生)は岩手縣人諏訪哲郎に嫁せり(東京、小石川、賀籠町一五八電大塚一三〇七)

君は愛知縣人吉野太三郎の弟にして明治十一年十二月を以て生れる同三十七年分家して一家を創立す同三十三年陸軍三等軍吏に任じ大正十二年陸軍一等主計正に累進す其間第六師團團長陸軍省經理局監査課長等に歴補し昭和二年臺灣軍經理部長に補せられ現に其職にあり(臺北、臺灣軍經理部長官舎)

吉野 傳治 千葉縣多額納稅者、東武鐵道(株)専務取締役、千葉貯蓄銀行(株)取締役、千葉縣在籍
 妻 とみ 明一〇、四生、養父忠吾二女
 男 忠一 明三、一、一生、工學士
 女 代子 明三、七、一生、長男忠一妻、長野、士、小平保藏三女
 男 省治 明三四、一、一生、法學士
 男 協四郎 明三八、一、一生
 女 美惠 明四〇、九生
 女 德五郎 明二〇、五生

君は千葉縣人長島市郡右衛門の二男にして明治四年十月を以て生れる先代忠吾の養子となり大正六年家督を相續す明治十九年東京帝國大學工學科大學電氣科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして千葉縣多額納稅者たり家族は尙六男新六(明四四、三、一生)七男平八郎(大、四、八生)あり(千葉市千葉電二三六九)

君は東京府人柳下米吉の弟にして明治八年十一月を以て生れる吉野治郎吉の養子となり大正八年分れて一家を創立す刺業を營む(横濱、中、委員町一、四一)

吉野 又四郎 荏原製作所、東京鐵道コングリ(株)取締役、東京府在籍
 妻 テル 明二〇、四生、子爵川村景敏妹
 男 櫻子 明四〇、四生、東京女學館出身
 女 美惠 明二〇、五生

君は長崎縣人吉野詮益の弟にして明治三年九月を以て生れる同二十五年分れて一家を創立す同二十九年東京帝國大學工學科大學機械科を卒業し鐵道に入り日露戰役には野戰鐵道汽車課長として従軍し後滿洲鐵道會社の創業に際し其要職に就き歐米に出張せし事二回に及ぶ大正元年職を辭して實業界に投じ英國知名の工業會

君は東京府人柳下米吉の弟にして明治十一年十二月を以て生れる同三十七年分家して一家を創立す同三十三年陸軍三等軍吏に任じ大正十二年陸軍一等主計正に累進す其間第六師團團長陸軍省經理局監査課長等に歴補し昭和二年臺灣軍經理部長に補せられ現に其職にあり(臺北、臺灣軍經理部長官舎)

吉野 傳治 千葉縣多額納稅者、東武鐵道(株)専務取締役、千葉貯蓄銀行(株)取締役、千葉縣在籍
 妻 とみ 明一〇、四生、養父忠吾二女
 男 忠一 明三、一、一生、工學士
 女 代子 明三、七、一生、長男忠一妻、長野、士、小平保藏三女
 男 省治 明三四、一、一生、法學士
 男 協四郎 明三八、一、一生
 女 美惠 明四〇、九生
 女 德五郎 明二〇、五生

君は千葉縣人長島市郡右衛門の二男にして明治四年十月を以て生れる先代忠吾の養子となり大正六年家督を相續す明治十九年東京帝國大學工學科大學電氣科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして千葉縣多額納稅者たり家族は尙六男新六(明四四、三、一生)七男平八郎(大、四、八生)あり(千葉市千葉電二三六九)

君は愛知縣人吉野太三郎の弟にして明治十一年十二月を以て生れる同三十七年分家して一家を創立す同三十三年陸軍三等軍吏に任じ大正十二年陸軍一等主計正に累進す其間第六師團團長陸軍省經理局監査課長等に歴補し昭和二年臺灣軍經理部長に補せられ現に其職にあり(臺北、臺灣軍經理部長官舎)

吉原 象太郎 吉原紡績(株)社長
 妻 イク 慶應二、一〇生、養父勝太郎長女
 養子 千吉 明二六、五生、長女ギン夫、東京、須崎文吉三男
 女 ギン 明二八、一、一生、養子千吉妻

君は東京府人吉原傳吉の長男にして明治四年七月を以て生れる後先代まさの養子となり同三十年家督を相續す京都取引所取引員たり家族は尙二男茂(大、四、二生)あり(京都、下京、錦小路通東河院東入電中二五八)

君は愛知縣人吉原彌次右衛門の長男にして萬延元年八月を以て生れる明治十二年家督を相續す養子に高師村長瀝美郡會議員同參事會縣會議員同參事會員衆議院議員等に擧げられし事あり現時瀧美電氣鐵道會社社長たり家族は尙孫まゆみ(大、二、一、一生、二男二郎妻、愛知、敬(同一、一、一生、同長男)あり二女つき子(明三〇、一〇生)は愛知縣人片岡政一に嫁し(元治元、九生)は同縣人河合虎三郎に嫁し(明一九、一、一生、妹のぶ長男)は分家せり(愛知、瀧美、高師村)
 參照吉原隆次の項

吉原 謙亮 從四位勳三等、判事、鹿児島地方裁判所長、山口縣土族
 妻 フザ 天保二、七生、山口、福田英貞
 男 直明 明四三、一、二生
 女 八重 明三〇、三、一生
 女 眞子 科出身
 女 眞子 大、二、一、一生

君は山口縣人福田吉輔の二男にして明治元年一月を以て生れる同二十六年叔父道馨の養子となり大正六年家督を相續す明治二十四年東京法學院を卒業し辯護士となりしが同二十八年判事に任じ高岡區三次區廣島區同地方西區各裁判所判事廣島控訴院判事下關區裁判所所長

君は兵庫縣人大家榮三郎の三男にして明治八年十二月を以て生れる先代チヨの入夫となり先代の名跡を繼ぎ前名長平を改む現に植物性油類及石油の製造並に販賣業を營み又推されて大阪油卸賣商組合の組長に擧げられ傍ら前揚會社の重役たり(大阪、東、大川町一〇一電本局六二五)

吉原 定吉 京都取引所取引員
 妻 屋壽 明一、二生、滋賀、吉川文六長女
 男 定藏 大元、一、二生、彦根高等女學校出身
 女 あい 明四〇、二、一生、彦根高等女學校出身
 女 かつ子 明四二、二、一生、彦根高等女學校出身
 女 志津子 明四四、一、一生、彦根高等女學校在籍

君は滋賀縣人吉原傳吉の長男にして明治四年七月を以て生れる後先代まさの養子となり同三十年家督を相續す京都取引所取引員たり家族は尙二男茂(大、四、二生)あり(京都、下京、錦小路通東河院東入電中二五八)

君は愛知縣人吉原彌次右衛門の長男にして萬延元年八月を以て生れる明治十二年家督を相續す養子に高師村長瀝美郡會議員同參事會縣會議員同參事會員衆議院議員等に擧げられし事あり現時瀧美電氣鐵道會社社長たり家族は尙孫まゆみ(大、二、一、一生、二男二郎妻、愛知、敬(同一、一、一生、同長男)あり二女つき子(明三〇、一〇生)は愛知縣人片岡政一に嫁し(元治元、九生)は同縣人河合虎三郎に嫁し(明一九、一、一生、妹のぶ長男)は分家せり(愛知、瀧美、高師村)
 參照吉原隆次の項

吉原 平三郎 吉原紡績(株)専務取締役
 妻 しつ 明二八、九生、埼玉、小林捨八二女
 男 章悟 大、一、四、三、一生

君は東京府人吉原象太郎の長男にして明治二十三年三月

君は新潟縣人吉原興作の長男にして慶應三年三月を以て生れる明治三十年家督を相續す現時帝國製鐵會社取締役たり家族は尙二男弘(大、三、三、一生)あり弟直次郎(明一、一、一生)は其妻サダ(同一、八、九生、新潟、五井榮藏二女)及其子女を伴ひ分家し妹マキ(同八、八生)は新潟縣人大矢勘七養子清六に嫁せり(大阪、豊能、豊中町)

吉原、平、弘、益

吉原隆次 第五位、特許局事務官、抗告審判官、愛知縣在籍、中央大學講

吉平 要造 資産家、東京府在籍、東大在籍、明三、三、生、長男源六妻、東京、

吉弘左乙 都土地(株)取締役、元治元、九生、兵庫、安孫子喜代

吉弘茂喜 關西日報、大阪日日新聞各社長、大阪府土族

(※印は姻族関係)

吉弘素郎 明治海運(株)取締役、福岡縣在籍、明一、一、生、兵庫、阪本儀三郎

吉益俊次 四位勳三等、検事、宮城控訴院、嘉永六、一、生、現戸主

吉町太郎

正四位勳二等、工學博士、北海道帝國大學教授、工學部長

吉見乾海

四位勳二等功四級、退役海軍中將、私立海城中學校長

吉見源治

大分縣多額納稅者、工業、大分縣在籍

吉松忠敬

勳五等、宮崎縣多額納稅者、林業、宮崎縣土族

吉松茂太郎

二位勳一等功三級、役備海軍大將、東京府土族

吉見源之助

鹿兒島縣多額納稅者、鐵工業、鹿兒島縣在籍

吉之部 吉町、松、見

(※印は姻族関係)

吉見 静一 東京電燈(株)理事、配線課長

吉見 輝 安政三、五生、現戸主

吉見 敬一 明四三、一、二生

吉見 宗一 徳島縣多額納税者、藍及肥料商

吉見 誠之 明四四、五生

吉見 勢之助 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉見 初子 明三三、八生、養子勢之助妻

吉見 澤子 明三三、六生、日本女子大校高

吉見 敬一 明一六、三生、工學士
吉見 輝 常盤銀行(株)取締役
吉見 宗一 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉峰 長作 鹿兒島縣多額納税者、鹿兒島火山
吉宗 興吉 鹿島縣多額納税者、世福銀行(株)

吉見 敬一 明一六、三生、工學士

吉見 輝 常盤銀行(株)取締役

吉見 宗一 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉見 誠之 明四四、五生

吉見 勢之助 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉見 初子 明三三、八生、養子勢之助妻

吉見 澤子 明三三、六生、日本女子大校高

吉見 宗一 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉見 誠之 明四四、五生

吉見 勢之助 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉見 初子 明三三、八生、養子勢之助妻

吉見 澤子 明三三、六生、日本女子大校高

吉見 宗一 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉見 誠之 明四四、五生

吉村 清尚 高四位勲三等、農學博士、鹿兒島

吉村 右一 三共貿易(株)社長、吉村右一商店

吉村 太一 明三九、一〇生

吉村 明三 明四四、五生、長女初子夫、徳島

吉村 誠之 明四四、五生

吉村 勢之助 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉村 初子 明三三、八生、養子勢之助妻

吉村 澤子 明三三、六生、日本女子大校高

吉村 宗一 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉村 誠之 明四四、五生

吉村 勢之助 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉村 初子 明三三、八生、養子勢之助妻

吉村 澤子 明三三、六生、日本女子大校高

吉村 宗一 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉村 誠之 明四四、五生

吉村 勢之助 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉村 初子 明三三、八生、養子勢之助妻

吉村 澤子 明三三、六生、日本女子大校高

吉村 宗一 明二七、二生、長女初子夫、徳島

吉村 誠之 明四四、五生

吉村 薫男
 姫路水力電氣(株)常務取締役
 兵庫縣土族
 妻 久太郎長女
 男 明三、三三、長男裕夫、愛媛、
 女 明二、五生
 男 義利 明四三、一〇生
 女 つた子 明四二、一〇生
 君は兵庫縣土族吉村寛之助の長男にして萬延元年一月を以て生れ明治十七年家督を相續す現時姫路水力電氣會社常務取締役たり家族は尙孫俊勝(大九、一〇生、長男裕長男)あり三女道子(明三七、一〇生)は鹿兒島縣人森山勝良に嫁し弟義行(慶應元、二生)は同妻テウ(明五、七生、東京、寺島徳一郎)及其一子子伴ひ分家せり(姫路、北條口一〇〇)

吉村 耕太郎
 佐賀縣多額納稅者、共同貯蓄銀行(株)取締役、農業、佐賀縣在籍
 妻 長女
 男 純一 明三三、七生、長男純一妻、佐賀、
 女 ミツヨ 明三三、七生、木元盛之助孫
 男 五郎 明三一、一〇生、
 女 エイ 河内明輝姪
 男 明三三、八生
 男 明三六、一〇生
 男 明三七、一二生
 女 久子 明四〇、二生
 君は佐賀縣人吉村宇平の長男にして元治元年八月を以て生れ明治二十七年家督を相續す農業を營み傍ら共同貯蓄銀行取締役に任じ同縣多額納稅者たり家族は尙七男七郎(明四四、二生)五女女子(大五、六生、孫和彦)同一二、三、生、長男純一(長男)同耕朝(同一五、二生)、二男五郎(長男)あり長女カホ(明二二、一二生)は分家せり(佐賀、東松浦、玉島村)

吉村 三太郎
 和泉銀行(株)取締役、和泉貯蓄銀行、岸和田煉瓦舗業各(株)監査役
 大阪府在籍
 妻 明三三、九生、大阪、寺田佐茂治
 男 榮一 明四四、二生
 君は大阪府人吉村久次郎の弟にして明治十六年五月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す夙に實業界に入り現時和泉銀行取締役に任じ外前記會社の重役たり家族は尙二男茂夫(大二、六生)長女秀(同一二、二生)三男秀夫(同一二、八生)四男春夫(同一五、三三)あり(大阪、泉南、貝塚町)

吉村 末吉
 西陣織物業
 京都府在籍
 妻 つな 明二一、六生、岐阜、神谷銀之助
 男 大 大一〇、二生
 君は奈良縣人吉村常吉の弟にして明治十六年九月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す西陣織物業を營む家族は尙養子太一(大五、四生、奈良、吉村常吉庶子)あり(京都、下京、五條通富小路西入電線一〇八五)

吉村 長策
 三位勲二等、工學博士、錦織間
 祇候、大阪府在籍
 妻 卓爾 明二二、五生、大阪、西尾義郎弟
 女 治子 明三三、一〇生、養子卓爾妻、大田中三郎二女
 君は大阪府人西尾直産の二男にして萬延元年三月を以て生れ明治元年大阪府人吉村武右衛門の絶家を再興す同十八年工部大學を卒業し帝國大學工部大學助教長崎縣技術師海軍技術師等に任じ會て小倉市水道部技術師工部顧問たり大正四年工部大學の學位を授けられ現に錦織間祇候たり水道敷に關する本邦有数の技術家に於て大阪府長崎門司廣島岡山小倉長野其他に幾多の同工事は皆君の設計に成り家族は尙孫良子(明一、一七、生、養子卓爾長女)あり長女町(同一二、三三、長崎高等女學校出身)は長崎縣土族杉浦孫に二女ツル(同一三、二二、生、長崎縣立高等女學校出身)は工學博士野中幸雄、四女ヒロ(同一三、一、生、東京女學館出身)は東京府人内野正夫に嫁せり(東京市外荏原町洗足田園都市二九三)

吉村 鐵之助
 吉村商會、吉村木工所、大日本電氣、江崎鐵道各(株)社長、相模紡織、滿洲製粉、石炭電機、新竹製糖、比律賓製糖各(株)取締役に任じ、國製糖、東京聯合自動車、北海道製糖、川口製糖、北海道製糖、各(株)監査役、東京府在籍
 妻 文久元、三三、奈良、筒井左司馬長女
 男 鐵郎 明四二、三三、亡養子五郎長男
 君は滋賀縣人吉村源六の長男にして安政五年八月を以て生れ明治二十九年分家して一家を創立す夙に電氣機械製造業を營み選ばれて衆議院議員たりし事あり現時前掲諸會社の重役に任じ知らるる亡養子五郎妻ヨリ(明一、七、生、奈良、土、梅本春明長女)は一男一女を伴ひ分家し孫養子(同四五、三三、亡養子五郎二女)は絶家福井氏を再興せり(東京、芝、白金臺町二ノ六八電線一〇五〇)

吉村 清次郎
 織物業
 京都府在籍
 妻 キキ 明二一、一〇生
 男 清太郎 明四三、一〇生
 君は京都府人吉村利七の四男にして明治二十年十二月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す織物業を營む家族は尙二男新三郎(明四四、一二生)三男孝三郎(大二、三三)四男富雄(同四、九生)長女千代(同六、六一)五女誠二(同一、六生)六男隆夫(同一四、八生)あり(京都、上京、寺ノ内通千本東入電線一六三八)

吉村 哲三
 五位、青森縣知事
 青森縣在籍
 妻 徳平 明三三、八生、現戶主
 男 徳太郎 明四四、八生
 君は鳥取縣人吉村英吉同欣二の弟にして明治二十年三月を以て生れ同四十四年吉村徳平の養子となる同年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格す内務省鳥取縣八頭郡長宮城縣理事官内務事務官兼内務省参事官内務書記官兼鐵道書記官内務事務官大阪府書記官内務部長等に歴任し昭和二年青森縣知事に進む現時其職に在り歐米に出張す家族は尙二女喜代子(大四、六生)三女美代子(同九、四生)あり長女と上子(同一、一〇生)は鳥取縣人徳山甚蔵の養子となれ(青森、縣知事官舎)

吉村 徳義
 北海道強靱工業(株)社長
 北海道在籍
 妻 慶應二、一〇生、東京、高田源四郎二女
 男 雄治 明一四、三三
 女 テイ 明三九、四生
 孫 雪子 大二、三三、長男雄治長女
 君は福岡縣人吉村格平の長男にして安政二年二月を以て生れ先代叔吉郎の養子となり明治十六年家督を相續し前名源内を改む現時北海道強靱工業會社取締役として知らるる家族は尙孫ちよ(大六、六一)長男雄治(同一、一〇生)及其一子あり(同の外養妹シヤウ(慶應元、一二生)及其一子あり(同

三三、五生)は分家し二女ヨシ(同三四、七生)は大分...

吉村 徳平

鳥取縣多額納税者、協立銀行(株) 頭取、鳥取電燈(株)取締役

吉村 友喜

正五位勳四等、福岡高等學校教授 高知縣士族

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

嘉永二、五生、和歌山、平野豊兵衛二女

吉村 秀治

鳥取縣多額納税者、協立銀行(株) 頭取、鳥取電燈(株)取締役

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

吉村 友之進

和歌山縣多額納税者、吉村製絲(株)代表取締役、南方酒造(株)監査役、農業、和歌山縣在籍

吉村 友喜

高知縣士族、福岡高等學校教授 正五位勳四等

君は和歌山縣人上山久之丞の四男にして明治二十二年二月を以て生れ後先代久七の養子となり大正十四年家督を相続す現時野上興業銀行常務取締役たり家族は尙長女きよこ(大四、一、生)二女くに子(同六、二、生)三女花子(同二、一、生)三男好文(同二、一、生)三男五女つや(同二、九、生)あり(和歌山、那賀、小川村)

吉村 文四郎

新潟縣多額納税者、醸造業 新潟縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村 文治

高知縣多額納税者 高知縣在籍

吉村理一郎

福岡縣多額納稅者、農業
福岡縣在籍
妻 明三、一、生、福岡、平田次郎平
男 貞隆 明三、三、生
男 正信 明四、一、五、生

吉元正太郎

福岡縣在籍
妻 恒太郎 明一、九、生、廣島、瀬良嘉助妹
男 恒太郎 明一、九、生、廣島、瀬良嘉助妹

吉本 菊馬

土佐貯蓄銀行、四國銀行各(株)監
妻 定衛 明四、一〇、生、高知、土、島村笑
男 俊夫 明三、八、三、生

吉元 榮秀

沖繩縣多額納稅者、農業
妻 カナ 明三、五、生、沖繩、岸本盛平長女
女 ヲキ 明二、九、七、生

吉元誠一郎

福岡縣在籍
妻 ナミ 安政四、正、生
父 仲太郎 安政四、正、生

吉本 吉之助

高知縣多額納稅者
妻 兼 明四、一、二、生
男 利枝 明三、〇、二、生、養子兼妻

吉本 重美

大阪府在籍
妻 好子 大八、三、生
女 好子 大八、三、生

吉本 龜三郎

工學博士、太田川電機、長府土地
妻 サキ 明七、二、生、香川、渡邊克哲妹
女 敬夫 明四、一、〇、生

吉本 天祥

湖南軌道(株)社長
妻 元治元、一、生、高知、土、武田信
女 知妹

吉本 重光

大阪府在籍
妻 ハツ 明九、一、二、生、大阪、吉本五郎右
女 貞治郎 明二、〇、一、二、生、長女親夫、奈良

吉本 常二

能登産業銀行(株)取締役、第三信
妻 フサ 明二、二、生、石川、北村久治郎
男 恒一 明四、〇、一、生

吉本 彦吉

徳島魚市場(株)社長
妻 カメ 明六、八、生、徳島、高島馬藏長女
男 幸雄 明二、五、一、二、生

吉本 三良兵衛

大阪府在籍
妻 コト 門妹
妻 喜代 明一、九、三、生、岡山、熊谷光蔵妹
男 年九 大八、三、生

吉本 清太郎

醫學博士、日本赤十字社病院治療
妻 てつ 明一、六、九、生、東京、杉田なか美

吉本 天祥

徳島縣在籍
妻 幸雄 明二、三、六、生、長男幸雄妻、徳島
男 幸雄 明二、三、六、生、長男幸雄妻、徳島

吉本 重光

大阪府在籍
妻 ハツ 明九、一、二、生、大阪、吉本五郎右
女 貞治郎 明二、〇、一、二、生、長女親夫、奈良

吉本 常二

能登産業銀行(株)取締役、第三信
妻 フサ 明二、二、生、石川、北村久治郎
男 恒一 明四、〇、一、生

吉本 彦吉

徳島魚市場(株)社長
妻 カメ 明六、八、生、徳島、高島馬藏長女
男 幸雄 明二、五、一、二、生

吉本 三良兵衛

大阪府在籍
妻 コト 門妹
妻 喜代 明一、九、三、生、岡山、熊谷光蔵妹
男 年九 大八、三、生

吉本 清太郎

醫學博士、日本赤十字社病院治療
妻 てつ 明一、六、九、生、東京、杉田なか美

吉本 天祥

徳島縣在籍
妻 幸雄 明二、三、六、生、長男幸雄妻、徳島
男 幸雄 明二、三、六、生、長男幸雄妻、徳島

吉本 重光

大阪府在籍
妻 ハツ 明九、一、二、生、大阪、吉本五郎右
女 貞治郎 明二、〇、一、二、生、長女親夫、奈良

吉本 常二

能登産業銀行(株)取締役、第三信
妻 フサ 明二、二、生、石川、北村久治郎
男 恒一 明四、〇、一、生

吉本 彦吉

徳島魚市場(株)社長
妻 カメ 明六、八、生、徳島、高島馬藏長女
男 幸雄 明二、五、一、二、生

男 碩之助 大五、五生
君は栃木縣人善野伊兵衛の長男にして明治二十一年七月を以て生れ昭和二年家督を相続す...

善野 喜平
下野中央銀行(株)取締役
君は栃木縣人先代喜平の三男にして明治十八年三月を以て生れ同四十年家督を相続す...

霞濱忠太郎
元山水力電氣(株)社長
山口縣在籍
君は山口縣人霞濱利三郎の長男にして安政四年十二月を以て生れ元山水力電氣會社を創立し...

四井喜一郎
辰馬海上火災保險(株)常務取締役
君は海上火災保險(株)常務取締役
君は京都市人河村與左衛門の二男にして慶應三年八月を以て生れ先代河村三郎の養子となり...

四井喜一郎
君は京都市人河村與左衛門の二男にして慶應三年八月を以て生れ先代河村三郎の養子となり...

妻 美 子 女 元元、一〇生、兵庫、森田力松長
庶子 良 雄 女 大三、二生、生母、兵庫、飯田力
君は兵庫縣人高塚武一郎の二男にして明治三年三月を以て生れ四井喜兵衛の養子となり...

四方卯三郎
寶酒造(株)社長
京都府在籍
君は京都市人四方卯之助の四男にして同秀三郎の弟なり...

四方貫次郎
寶酒造(株)常務取締役
京都府在籍
君は京都市人四方卯之助の四男にして同秀三郎の弟なり...

淀川藤八郎
茨城縣多額納稅者、茨城縣在籍
君は茨城縣人同山昇平の弟にして明治十三年六月を以て生れ先代同山昇平の養子となり...

四方貫次郎
君は京都市人四方卯之助の四男にして同秀三郎の弟なり...

四方幸太郎
三丹酒造(株)社長、綾部製絲(株)取締役、京都府在籍
君は京都市人植田源重郎の弟にして明治八年八月を以て生れ先代植田兵衛の養子となり...

四方秀三郎
寶酒造(株)常務取締役
京都府在籍
君は京都市人四方卯之助の三男にして同貫次郎の兄なり...

四方田 保
出雲製鐵(株)社長、大阪八弘社(株)監査役、辯護士、鳥根縣士族
君は鳥根縣士族四方田嘉三郎の二男にして明治十三年十二月を以て生れ同四十四年家督を相続す...

米井信夫
米井商店(株)社長、明治護謨製造(株)代表社員、東京府在籍
君は東京府人米井源次郎の長男にして明治二十八年八月を以て生れ大正八年家督を相続す...

米井信夫
君は東京府人米井源次郎の長男にして明治二十八年八月を以て生れ大正八年家督を相続す...

四本 萬二
國際汽船(株)常務取締役、京都府日本新聞社、神戸新聞社、五光商會、日本計器製造、旭石油各(株)取締役
君は兵庫縣土庫島左衛門の二男にして文久二年十一月を以て生れ明治十九年家督を相続す...

四本 幸之介
鹿兒島農工銀行(株)頭取、日本産業協會評議員、鹿兒島縣士族
君は鹿兒島縣土庫島左衛門の長男にして慶應三年八月を以て生れ明治三十二年家督を相続す...

米 知徳
熊本縣多額納稅者、農業
熊本縣在籍
君は熊本縣人神田正雄の養子にして明治七年十二月を以て生れ先代正雄の養子となり...

米 知徳
熊本縣多額納稅者、農業
熊本縣在籍
君は熊本縣人神田正雄の養子にして明治七年十二月を以て生れ先代正雄の養子となり...

米垣 二伯
米子銀行(株)取締役
鳥取縣在籍
君は鳥取縣人米垣九八郎の二男にして元治元年七月を以て生れ明治二十二年分家して一家を創立す...

米川新兵衛 茨城縣多額納稅者、農業
君は茨城縣人米川新兵衛の長男にして明治二十年四月...

米川松太郎 茨城縣多額納稅者、醬油醸造業
君は茨城縣人米川松太郎の長男にして明治元年一月を以て...

米倉嘉兵衛 東京商工會議所議員、東京羅紗
君は福井縣人米倉忠七の三男にして明治十一年九月を以て...

米倉清五郎 東北電燈、東北送電各線取締役
君は宮城縣人米倉清五郎の三男にして明治四年十月を以て...

米倉壽策 山梨縣多額納稅者、旅館業
君は山梨縣人米倉善八の長男にして明治九年十一月を以て...

米倉清次郎 東北電燈、東北送電各線取締役
君は宮城縣人米倉清次郎の三男にして明治四年十月を以て...

米倉清五郎 東北電燈、東北送電各線取締役
君は宮城縣人米倉清五郎の三男にして明治四年十月を以て...

米倉清族 勳六等、工學博士、大阪乾糧工業
君は佐賀縣人米倉清之助の長男にして文久三年一月を以て...

米倉輝之助 魚類商
君は東京府人米倉輝之助の二男にして明治十九年八月を以て...

米倉昌達 從四位、子爵、貴族院議員、京都
君は東京府人米倉昌達の子にして明治十九年八月を以て...

米倉輝之助 魚類商
君は東京府人米倉輝之助の二男にして明治十九年八月を以て...

米倉輝之助 魚類商
君は東京府人米倉輝之助の二男にして明治十九年八月を以て...

米倉輝之助 魚類商
君は東京府人米倉輝之助の二男にして明治十九年八月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤長次郎 明石瓦斯(株)代表取締役
君は兵庫縣人米澤長次郎の長男にして明治九年八月を以て...

米澤貞二 兵庫縣在籍、常務取締役
君は兵庫縣人米澤貞二の二男にして明治十九年三月を以て...

米澤德次郎 兵庫縣多額納稅者、明石瓦斯、
君は兵庫縣人米澤德次郎の二男にして明治十四年二月を以て...

米澤政治郎 從五位勳五等、鐵道技師、監督局
君は鳥取縣人米澤政治郎の二男にして明治十四年二月を以て...

米澤政治郎 從五位勳五等、鐵道技師、監督局
君は鳥取縣人米澤政治郎の二男にして明治十四年二月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

米澤敬造 福岡縣多額納稅者、仲立業
君は福岡縣人米澤敬造の二男にして明治十二年五月を以て...

は鳥取縣士族前澤爲藏長男精に嫁せり(東京、牛込、白銀町二九電牛込五七〇)

米澤 元吉 高岡銀行(株)取締役兼支配人

君は富山縣人米澤元吉の長男にして明治八年十二月を以て生れ同三十八年家督を相続す現時高岡銀行取締役兼支配人たり家族は尙三男正三(大田、四生)孫なか(同九、五生、長男甚藏長女)同眞一(同二、一一生、同長男)同みち(同五、一一生、同眞一)あり長女トシ(同三、七生)は富山縣人堀川伊八郎に二女せき(同三、一〇生)は富山縣人柴田宣輔に三女トシ(同四、一〇生)は同縣人高井治一長男重治に妹もつ(同二、七、三二)は同縣人高井吉吉養子佐吉に嫁せり(高岡、定塚町一三五六)

米澤 元健 同部吳服店(株)取締役

君は富山縣人米澤元健の長男にして明治十五年五月を以て生れ大正六年家督を相続す現時同部吳服店の重役にして大高等師範部を卒業し現時同部吳服店の重役にして職に入善銀行の重役を勤め置かれて富山縣會議議長たり家族は尙長女トシ(大五、九生)あり(富山、下新川、入善町) 參照：米澤長茂の項

米澤 與三 富山縣多額納税者、入善銀行(株)頭取、同部吳服店(株)社長、富山縣物産、立山水力電気(株)監査役、富山縣在籍

妻 はつゝ 明二、三生、養父母多長女

明二、三生、養父母多長女

君は富山縣人伊東祐賢の弟にして明治五年二月を以て生れ先代實の養子となり同二十三年家督を相続し前名貞三を改め現名とす同二十八年專修學校を卒業し農業を營み縣下の多額納税者にして傍ら前記銀行會社の重役たり嘗て衆議院議員に當選せしことあり家族は尙孫一(大三、一一生、長男元貞長男)同二葉(同四、一〇生、同長女)同功(昭二、一〇生、同二男)あり(富山、下新川、入善町) 參照：伊東祐賢の項

米澤 與三七 從四位勳三等、通信技術、工務局電話課長、東京府在籍

君は富山縣人米澤與三七の長男にして明治十二年八月を以て生れ同十九年家督を相続す同三十九年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業し通信技術同技術通信管理局技術師通信技術師通信技術師通信技術師通信師等に歴任し其間古長野郵便局工務課長鹿島郵便局長臨時通信電話建設局長等を経て現に通信技術師に任じ工務局電話課長たり義に大正三年電話事業研究の爲英米に留學し次で同十二年歐米に出張を命ぜらる家族は尙二男健(大二、四生)三男治(同五、八生)長女(代)同八、四男力(同二、七生)五男弘(昭二、二生)あり姉は(明一、一〇生)は陸軍中將第十二師團長金山久松に嫁せり(東京市外花屋町洗足田園都市四一〇號電話三三〇〇) 參照：金山久松の項

米城 範兵衛 宮城縣多額納税者、鹽油鹽造業

米田市右衛門 京都府多額納税者、果實青物商

君は京都府人米田市右衛門の三男にして明治十二年二月を以て生れ同三十五年家督を相続し前名庄之助を改む果實青物商を營み京都府多額納税者たり家族は尙孫太郎(大六、七生)養子彌三郎長男(同九、七生、同長女)同恒子(同二、四生)同眞一(同三、一〇生、同二男)あり妹壽賀(明二、一〇生)は同夫妻たり(宮城、志田、古川町) 參照：田中林兵衛、平岡彌五郎の項

米田 馬太郎 酒類商 大阪府在籍

君は兵庫縣人米田馬太郎の弟にして安政五年三月を以て生れ明治十八年分れて一家を創立す酒類商を營む家族は尙孫貞夫(大二、三生)養子辰治(長男)同良子(同三、五生、同長女)あり(大阪、北、金星町一ノ三三電四北五〇三〇)

米田 勝次郎 徳島縣多額納税者、農業

君は徳島縣人米田勝次郎の長男にして慶應元年四月を以て生れ後家督を相続す農業を營む徳島縣多額納税者たり家族は尙孫正勝(大三、一一生、長男正三)同眞一(同七、一〇生、同三男)あり長女トシ(同二、四、八生)は同縣人岩田隆一に妹トシ(同七、一〇生)は同縣人寺澤善藏に嫁し弟卯次郎(同元、二生)は同縣人妹尾清次郎の養子となり同寅太郎(同五、四生)は分家せり(徳島、板野、川内村)

米田 金五郎 鳥根縣多額納税者

君は鳥根縣人米田金五郎の長男にして明治八年八月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治三十一年東京法學院を卒業し同三十二年判檢事登用試験に合格し法務部北海支隊警務局長事務官同警察部長秋田石川各縣内務部長を経て朝鮮總督府忠清北道知事に轉じ次で平安南道知事となり大正十五年現職京畿道知事に任ず家族は尙三女トシ(大五、九生)四女トシ(同九、七生)五女トシ(同二、一〇生)あり四男幸男(同二、八生)は

米田 輝三 明三七、六生

君は鳥根縣人米田定五郎二男にして慶應二年九月を以て生れ明治二十九年兄次郎より分れて一家を創立す鳥根縣多額納税者たり家族は尙孫美紀子(大九、一一生、長男吉造長女)同盛造(同二、七生、同長男)同久仁子(同三、二生、同二女)同啓造(同五、五生、同二男)あり長女竹(明二、一〇生)は同夫妻三郎(同二、一〇生)二生、鳥根、三代福市(昭二)と共に其二女二女を伴ひ分家せり(松江、末次魚町) 參照：田中助次郎の項

米田 權一 大阪府多額納税者、敷島俱樂部、興業主、大阪府在籍

君は大阪府人吉田權次郎の長男にして明治五年八月を以て生れ先代クニの養子となり同四十年家督を相続す興業主にして活動寫眞館敷島俱樂部を經營し大阪府多額納税者たり(大阪、南、難波新地六番丁六電或一九三三)

米田 甚太郎 從四位勳三等、朝鮮總督府京畿道知事、石川縣在籍

君は富山縣人米田清一の叔父にして明治八年八月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治三十一年東京法學院を卒業し同三十二年判檢事登用試験に合格し法務部北海支隊警務局長事務官同警察部長秋田石川各縣内務部長を経て朝鮮總督府忠清北道知事に轉じ次で平安南道知事となり大正十五年現職京畿道知事に任ず家族は尙三女トシ(大五、九生)四女トシ(同九、七生)五女トシ(同二、一〇生)あり四男幸男(同二、八生)は

米田 誠夫 大正日新聞社長兼編輯長

君は鳥取縣人米田誠夫の弟にして明治十九年二月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立し前名定藏を改む號を錦城と稱し凡に撰界に入り大正十三年舊大本教の機關紙大正日新聞社を買収し同社社長として括摺經營今日に至る(大阪、東、北濱四ノ六電本局四八二六)

米田 宗次郎 印刷業 大阪府在籍

君は大阪府人米田源治郎の弟にして明治二十五年九月を以て生れ大正十年分れて一家を創立す印刷業を營む家族は尙二男實(大八、一〇生)長女輝子(同二、一〇生)二女美代子(同二、一〇生)三男治(同五、七生)あり(大阪、西、本町通一ノ五三電西五六五)

米田 辰藏 信貴生駒電氣鐵道(株)社長、大阪土地(株)監査役、奈良縣在籍

君は奈良縣人米田重三郎の四男にして明治十三年六月を以て生れ同三十三年兄山太郎より分れて一家を創立す義に信貴生駒電氣鐵道會社常務取締役たりしことあり現時同社長に推され傍ら前記會社の重役を兼ぬ長女トシ(同三、七生)は奈良縣人竹野竹松二男竹三郎に二女ハナ(同三、四、一〇生)は同縣人岸木喜三郎養子榮一郎に三女トシ(同三、八、六生)は大阪府人増田廣助養子一に嫁し四女トシ(同四、三、一〇生)は奈良縣人尾崎兵藏の養子となり(奈良、北葛城、高田町)

米田 龜吉 關西(株)取締役、岩井商店、大阪製板、中央毛織、日本橋、白金英、大小各、株、監査役、徳島縣在籍

君は關西(株)取締役、岩井商店、大阪製板、中央毛織、日本橋、白金英、大小各、株、監査役、徳島縣在籍

女 豐子 明四〇、一二生
 女 孝子 明四三、七生
 君は徳田縣人米田新吉の二男にして明治十一年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十二年大阪高等商業學校を卒業し現に前記各會社の重役として知らるる家族は尙六女順子(大九、四生)の外甥與一朗(明三六、一〇生、亡兄武吉長男)あり姪英子(同三四、三生、同長女)は大分縣人鍋島通敏に姉キキ(同五、八生)は徳島縣人谷田又平長男常吉に姉キキ(同八、一〇生)は分家せり(兵庫、武庫、御影町古新田五八三番御影六七三)

米田 豐治 岸本汽船、寶塚ナバーク、其面土地各(株)取締役、攝津商船(株)監査役、石川縣在籍
 妻 ヒサ 明一九、七生、大阪、西尾友次郎
 養子 禾雄 大五、三生、兄寛三男
 君は石川縣人米田恒介の三男にして明治十二年五月を以て生れ同四十五年兄寛方より分れて一家を創立す夙に實業界に身を投じ現時前記諸會社の重役として知らる(兵庫、武庫、良元村)

米田 孫右衛門 和歌山縣多額納稅者、醸造業
 繼母 たか 明二、八生、和歌山、竹中公善養
 妻 エイ 明二二、一〇生、奈良、北岡惣太郎
 男 統太郎 大三、七生
 君は和歌山縣人先代孫右衛門の長男にして明治二十年五月を以て生れ大正十一年家督相続と共に襲名して前名守を改む醸造業を営み現に和歌山縣多額納稅者たり家族は尙長女美代子(大五、一〇生、三男賢次郎(同八、一〇生)の外弟賢(明四、一〇生)同長三(同四三、一〇生)あり妹春子(同三九、三生)は和歌山縣人高瀬榮三三男吉雄に嫁せり(和歌山、那賀、中貴志村)

米田 元一 資産家
 妻 くま 天保七、一〇生、兵庫、大前伊左衛門長女
 君は富山縣人金井直次郎の兄にして明治十年六月を以て生れ先代サトの養子となり大正六年家督を相続し前名元次郎を改む肥料商を営み傍ら岩瀬銀行取締役たる外前記會社の重役にして富山縣多額納稅者たり家族は尙二女花子(大五、八生)孫綾子(同四、四生、養子元二(同二、一〇生)同壽吉(同二、一〇生)同長男(同七、一〇生)あり長女歌子(明四、一〇生)同良藏(同五、三生)同四男(同二、一〇生)同二女(同二、一〇生)あり妹見(女學校出身)は富山縣人齊藤仁左衛門長男仁一郎に嫁せり(富山、上野、東岩瀬町)

母 たけ 明七、四生、兵庫、石井文太郎妹
 妻 菊枝 明三三、一一生、兵庫、岸上佑二長女
 男 芳一 大一一、一〇生
 君は兵庫縣人先代彌三郎の二男にして明治二十八年十一月を以て生れ大正六年家督を相続す同年山口高等商業學校を卒業し現に三井銀行員にして資産家たり家族は尙弟賢治(明三五、八生)あり同元輝(同三一、一〇生)は同妻美佐雄(同三八、四生、兵庫、西幸藏長女)と共に其三子を伴ひ同良信(同三三、六生)は同妻文子(同三九、九生、兵庫、池田寅之介四女)と共に其一子を伴ひ何れも分家せり(神戸、湊川町三ノ六〇電本局三三五五)

米田 元吉郎 富山縣多額納稅者、岩瀬銀行、富山縣在籍
 妻 サト 弘化三、五生、富山、岡田五郎兵衛妹
 養子 サト 明二二、三生、富山、堀田善右衛門孫
 妻 シヤ 明二八、九生、養子國夫、富山、内山松世二男
 養子 元二 明二八、一〇生、養子元二妻、富山、米田清太郎長女
 君は富山縣人金井直次郎の兄にして明治十年六月を以て生れ先代サトの養子となり大正六年家督を相続し前名元次郎を改む肥料商を営み傍ら岩瀬銀行取締役たる外前記會社の重役にして富山縣多額納稅者たり家族は尙二女花子(大五、八生)孫綾子(同四、四生、養子元二(同二、一〇生)同壽吉(同二、一〇生)同長男(同七、一〇生)あり長女歌子(明四、一〇生)同良藏(同五、三生)同四男(同二、一〇生)同二女(同二、一〇生)あり妹見(女學校出身)は富山縣人齊藤仁左衛門長男仁一郎に嫁せり(富山、上野、東岩瀬町)

米谷 勘吉 福岡縣多額納稅者、吳服商
 妻 マカ 明九、六生、福岡、米谷安次郎長女
 君は福岡縣人近藤文吉の兄にして明治九年五月を以て生れ先代マカの夫となり家督を相続す吳服商を営み現に福岡縣多額納稅者として知らるる家族は尙長女志奈(大七、七生)孫英一(同二二、九生、養子辰藏長男)同淳子(同二四、九生、同長女)あり(小倉、魚町一〇七)

米谷 久雄 地主
 妻 シヤ 安政五、正生、養父久左衛門長女
 男 卯三郎 明一五、一二生、現戸主
 妻 ヒサ 明二一、二生、長男卯三郎妻、大阪、山野旭姉
 男 巖 明三三、一一生
 君は大阪府人石川市左衛門の二男にして安政三年八月を以て生れ明治十四年九月米谷久左衛門の養子となり同十七年家督を相続し大正十一年長男卯三郎に家督を譲り退隱す地主たり家族は尙孫明尙(明四五、六生、長男卯三郎長男)同文夫(大二、七生、同二男)同千代子(同七、二生、同四女)同子(同二、二生、同六女)同和子(昭二、四生、同七女)あり同淳子(明四二、二生、長男卯三郎長女)は大阪府人辻本喜一郎の養子となり(大阪、東成、大今里町七三)

米谷 半平 加能合同銀行(株)頭取、米谷倉庫主、農業、石川縣在籍
 妻 常 明三三、一〇生、石川、土、渡邊庸姉
 男 尙久 大一一、七生
 君は故貴族院議員米谷銀行頭取先代半平の二男にして明治二十五年十月を以て生れ昭和二年家督を相続し前名辰平を改め襲名す農業を営み縣下の資産家として知らるる姉春(明一九、五生)は大阪府人太田貞雄に同類(同二、六生)は東京府人小林織に同類(同二二、九生)は福井縣人小村三之丞長男妹に同類(同二二、八生)は鹿兒島縣人竹内可吉に從姉(同五、二生)は石川縣人高林九平に從姉(石川、能美、安宅町)

米谷 政次郎 東月堂、菓子商
 妻 ヨネ 明一四、二生、大阪、米谷新兵衛妹
 養子 光治 明二九、八生、亡長女美代夫、兵庫、生田儀平二男
 君は大阪府人佐々木力三郎の兄にして明治九年十月を以て生れ同三十五年先代ヨネの夫となり家督を相続す履物商を営む(大阪、東、博勢町四ノ五電船場五〇一三)

米谷 政賢 正四位勳三等、子爵、貴族院議員
 妻 益子 明一八、五生、子爵戸澤正己叔母
 男 政福 明四五、七生
 當家は攝津守源頼光の高三河押領使光時の後なり六代を経て時濟に至り米津太郎と稱す夫より九代左馬介勝政徳川氏に仕へ會孫出羽守田盛に至りて武州久喜二萬石を領し諸侯に列す更に八代を経て先代政敏に至り羽州長瀬より常州龍ヶ崎に移り一萬一千石を領し明治十七年子爵を授けらるる風に軍籍に入り西南の役に従軍し後貴族院議員に列す君は其長男にして明治十六年三月を以て生れ同二十八年襲爵す同四十一年東京帝國大學農科大學を卒業し農商務省又は畜産試験場等に囑託となり大正四年貴族院議員に當選し現に其任に在り日獨事件の功に依り勳四等に敘し後勳三等に陞せらるる家族は尙五男泰世(大一一、五生)あり叔父忠利(安政四、五生)は伯爵酒井忠貞會祖父忠發は二男賢之助(大二、一〇生)は東京府人五井千恵に三男豊秋(同四、一〇生)は同府人米津小次郎に各養子となり姉鐵子(明一四、六生)妹春子(同二〇、二生)は各分家せり(東京市外西巢

米谷 新兵衛 履物商
 妻 ム 明二、一一生、養父新兵衛長女
 男 善吉 明二一、一二生
 男 春子 明三四、四生、長男善吉妻、和歌山、木下清吉二女
 妻 茂 明二五、五生、二女ソノ夫、香川、士、眞鍋宗平弟
 女 ソノ 明三一、一〇生、養子茂妻、相愛高等女學校出身
 女 妙子 明三九、八生
 當家は元播州赤穂藩屋敷の用にして代々履物商を営みたる老舖なり祖父新兵衛氏に大阪に出で一時履物商老舖トガ屋に奉公せしが後同店の援助を以て鼻緒師商を始め今日の基礎を作れり君實は大阪府人伊勢徳三郎の二男にして慶應元年二月を以て生れる明治六年先代新兵衛の養子となり同八年家督を相続して前名豊松を改む履物商となり鼻緒師を営む家族は尙孫新衛(大七、一〇生、長男善吉長男)同和子(同二二、九生、同長女)同あさ子(同二四、一〇生、同二女)同冬子(同二〇、一〇生、

米谷 政次郎 東月堂、菓子商
 妻 ヨネ 明一四、二生、大阪、米谷新兵衛妹
 養子 光治 明二九、八生、亡長女美代夫、兵庫、生田儀平二男
 君は大阪府人佐々木力三郎の兄にして明治九年十月を以て生れ同三十五年先代ヨネの夫となり家督を相続す履物商を営む(大阪、東、博勢町四ノ五電船場五〇一三)

米津 政賢 正四位勳三等、子爵、貴族院議員
 妻 益子 明一八、五生、子爵戸澤正己叔母
 男 政福 明四五、七生
 當家は攝津守源頼光の高三河押領使光時の後なり六代を経て時濟に至り米津太郎と稱す夫より九代左馬介勝政徳川氏に仕へ會孫出羽守田盛に至りて武州久喜二萬石を領し諸侯に列す更に八代を経て先代政敏に至り羽州長瀬より常州龍ヶ崎に移り一萬一千石を領し明治十七年子爵を授けらるる風に軍籍に入り西南の役に従軍し後貴族院議員に列す君は其長男にして明治十六年三月を以て生れ同二十八年襲爵す同四十一年東京帝國大學農科大學を卒業し農商務省又は畜産試験場等に囑託となり大正四年貴族院議員に當選し現に其任に在り日獨事件の功に依り勳四等に敘し後勳三等に陞せらるる家族は尙五男泰世(大一一、五生)あり叔父忠利(安政四、五生)は伯爵酒井忠貞會祖父忠發は二男賢之助(大二、一〇生)は東京府人五井千恵に三男豊秋(同四、一〇生)は同府人米津小次郎に各養子となり姉鐵子(明一四、六生)妹春子(同二〇、二生)は各分家せり(東京市外西巢

鴨町宮仲二一九八電大環一三九六

米津 松造 津浦自動車(株)監査役、風月堂米

米次 源吉 沖繩縣多額納稅者、塗器商

米内 光政 正五位勲二等功四級、海軍少將、衛生部次長、岩手縣土族

米原 善市 島根縣多額納稅者、製造工業

參照米津島町之項

米原 弘 島根縣土族

米村 末喜 正五位勲三等功五級、海軍少將、水師部長、熊本縣在籍

米村 文吉 山商務(株)事務取締役、篠山電燈、篠山郵便鐵道各(株)取締役

米本 鐵太郎 日本興業(株)取締役、富士屋、鼻緒商、東京府在籍

米村 清次郎 熊本縣多額納稅者、金融業

君は熊本縣人米村國藏の二男にして明治十二年三月を以て生れ大正二年家督を相続す

米元 晋一 内務省嘱託技師

米本 平左衛門 三重縣多額納稅者、一志銀行、中三鐵道各(株)取締役、農業

(※印は姻族關係)

參照米津島町之項

米津 松造 津浦自動車(株)監査役、風月堂米

米次 源吉 沖繩縣多額納稅者、塗器商

米内 光政 正五位勲二等功四級、海軍少將、衛生部次長、岩手縣土族

米原 善市 島根縣多額納稅者、製造工業

參照米津島町之項

米原 弘 島根縣土族

米村 末喜 正五位勲三等功五級、海軍少將、水師部長、熊本縣在籍

米村 文吉 山商務(株)事務取締役、篠山電燈、篠山郵便鐵道各(株)取締役

米本 鐵太郎 日本興業(株)取締役、富士屋、鼻緒商、東京府在籍

米村 清次郎 熊本縣多額納稅者、金融業

君は熊本縣人米村國藏の二男にして明治十二年三月を以て生れ大正二年家督を相続す

米元 晋一 内務省嘱託技師

米本 平左衛門 三重縣多額納稅者、一志銀行、中三鐵道各(株)取締役、農業

(※印は姻族關係)

米山 梅吉

三井信託(株)社長、三井銀行(株)取締役、三井(名)參與、靜岡縣在籍

君は東京府土族和田榮次郎の弟にして明治九年二月を以て生れ先代藤三郎の養子となり同十四年家督を相続す凡に青山學院を卒業して米國に渡航し在留凡そ八年間法律及文學を研究し歸朝後日本鐵道會社に勤務す後三井銀行に轉じ横濱大阪各支店長等に就任し同四十二年選ばれて常務取締役となり現時三井信託會社社長たる外前記銀行會社の重役たり兼に東京商業會議所特別議員に擧げられ公私の任務を以て歐米各國に渡航する事數回に及ぶ長女愛(明三〇、八生)は東京府人高木健弟逸雄に二女すみ(同三一、一〇生)は神奈川縣土族荒川新十郎二男昌二に嫁せり(東京、赤坂、青山南町六ノ一六電青山二〇七一)

米山 久彌

播磨鐵道(株)専務取締役、東京府土族

君は東京府土族米山長太郎の長男にして慶應三年三月を以て生れ明治二十七年家督を相続す凡に東京帝國大學文科大學選科を卒業し現時播磨鐵道會社専務取締役として知らるる家族は尙孫教子(大八、二生、離縁養子、長女)あり(東京市外大久保町西大久保三九一電四谷八一九)

米山 國藏

正五位勳四等、理學博士、福岡高等學校教授、九州帝國大學教授、神奈川縣在籍

君は神奈川縣人眞壁鐵次郎の長男にして明治十年一月を以て生れ米山嘉三郎の養子となり大正十五年家督を相続す明治三十六年東京高等師範學校を卒業し同四十一年更に京都帝國大學理工科大學を卒業す同四十三年第五高等學校教授に任じ大正七年理學博士の學位を受

け同十一年九州帝國大學教授に任ぜられ現時福岡高等學校教授にして九州帝國大學教授を兼ねる家族は尙二男正雄(明四四、四生)あり長女ヒサ(同三七、九生、熊本縣立高等女學校出身)は醫學士品川文武に嫁せり(福岡市西新町新地九八)

米山 熊次郎

秩父鐵道(株)常務取締役、東京府土族

君は舊金澤藩士先代專造の長男にして安政六年四月を以て生れ明治七年家督を相続す凡に金澤の漢學塾に學び後建築學に志して貴族院議員工學博士平井晴二郎の指導を受け同二十九年豊川市豊川鐵道會社の創立に與かり其技師長に擧げらる次で大阪汽車製造會社技師に任じ後鐵道會社主任技師に任じ同四十年鐵道廳技師に任じ鐵道會社常務取締役たる外秩父鐵道會社取締役たり家族は尙孫尙志(大四、四生、養子、長男)同ふき(同七、八生、同長女)同せい(同三一、二生、同二女)あり(東京、芝、白金三光町二七三電高輪七二二九)

米山 正

合同蓄音器(株)取締役、東京府土族

君は宮城縣土族米山俊信の長男にして明治六年四月を以て生れ同三十二年家督を相続す現時合同蓄音器會社取締役たり家族は尙二男幸男(大三、一生)あり(東京市外西巢鴨町池袋一四〇一)

米山 米吉

東京府在籍

君は岐阜縣土族佐藤只五郎の五男にして同三吉同正美の弟なり慶應元年二月を以て生れ明治十六年先代ちよの養子となり家督を相続す興業主たり家族は尙三男忠雄(明四三、一〇生)あり(東京、神田、表猿樂町二五電神田三八)

寄川 藤三郎

勳八等、日本特許コンパニヤ(株)代表取締役、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人先代太七の長男にして明治四年六月を以て生れ同二十七年家督を相続す凡に鐵山業に身を投じて大藤鐵山を経營し爾來中村組總務中島鐵業會社専務取締役朝日鐵業會社長等に任じ現時日本特許コンパニヤ會社代表取締役たり家族は尙二女滿江(大八、四生)三女當子(同一二、二生)四女美喜子(同一一、五生)あり長女嘉代(同五、一生)は北海道人谷イソに庶子一郎(同四、三生、生母、東京、小田急)は石川縣人松尾文治に妹(同二、七生)は兵庫縣人小西萬太郎に各養子となり妹(同八、二生)は愛媛縣人村上兵太郎に同たね(同二〇、二生)は同縣人兵頭忠雄に嫁し同せい(同一五、二生)は分家せり(東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇)

萬 昌一郎

岩手縣鐵道・盛岡信託各(株)取締役、岩手縣在籍

君は岩手縣人先代長次郎の孫にして明治二十年十二月を以て生れ同三十五年家督を相続す大正二年慶應義塾大學理財科を卒業し現に前記各會社の重役たり兼に辛酉銀行岩手銀行東京オフセット印刷會社各重役に擧げ

らるる家族は尙弟泰一(明二四、一〇生)同妻ナオ(同三四、二生、岩手、平野新八三女)あり(岩手、和氣、十二箇村)

ラ之部

來仙平太郎

鹿兒島縣多額納稅者、農業
鹿兒島縣在籍
妻 カメ 明一、四生、鹿兒島、鷹取仁左
女 ミヨ 明三、五生

君は鹿兒島縣人田澤平右衛門の二男にして明治八年十二月を以て生れ先代藤左衛門の養子となり同三十二年家督を相続す農業を營み鹿兒島縣多額納稅者たり家族は尙二女喜代子(六七、四生)あり(鹿兒島、出水、野田村)

來田甚太郎

大阪府在籍
大阪府在籍
妻 シゲ 明一、六七生、大阪、大野ハル叔母
男 甚十郎 大三、一一生
養子 善夫 明三五、二生、三女榮夫、奈良、淺井吉太郎三男
女 榮 明四〇、一一生、養子善夫妻
房 子 明四四、三生

君は大阪府人來田榮次郎の二男にして明治十年一月を以て生れ同十九年家督を相続す觀儀袋商を營む家族は尙三男博(大一二、一〇生)孫登代子(同二二、一〇生)養子善夫長女(同六一、八生、同長男)あり妹カヅエ(明三、四生)は大阪府人吉川裕吉に同ハルエ(同六、二生)は徳島縣人山本千代吉に嫁せり(大阪、浪速元町二ノ三電氣一四二五)

來田徳右衛門

地主
大阪府在籍
養母 ヒサ 安政六、九生、大阪、來田善七長女
妻 シイ 明一九、六生、養父徳右衛門二女
男 善夫 大六、九生

君は大阪府人幸田市右衛門の二男にして明治十五年九月を以て生れ大正十年養母ヒサの養子となり先代澄の跡を襲ひ前名善次郎を改む地主として知らる妹澄(明治

二九、一一生)は大阪府人來田卯三郎二男善次郎に嫁せり(大阪、西淀川、海老江町一四四二)

頼猷太郎

製鹽業
廣島縣在籍
母 ヨネ 明元、八生、廣島、羽田庄左衛門長女

當家は頼山陽の後裔にして先代俊直は夙に衆議院議員に選ばれ又竹原製鹽會社相談役に擧げらる君は其長男にして明治三十二年三月を以て生れ大正十五年家督を相続す同十一年東京帝國大學文學部を卒業し製鹽を業とし今日に至る家族は尙妹和子(明三七、一一生)弟重二(同三九、九生)同桃三郎(同四三、九生)あり姉佛子(同二〇、一一生)は兵庫縣人岡尾龜次郎弟延に同初枝は香川縣人元臺海總督府事務官藤田正成に叔母マツヨ(同四、四生)は廣島縣人森正久太郎に嫁せり(廣島、賀茂、竹原町)

頼尊淵之助

龜浦炭礦、防長炭礦各(株)社長、南海炭礦(株)取締役會長、頼尊礦業所主、東京府在籍
妻 ナミ 明一八、一一生、醫學博士加藤亨妹
男 準太 明三八、六生
男 謙吉 明三九、八生
女 敏子 明四二、七生、東京府立第三高等女學校出身

君は長崎縣人頼尊三四郎の長男にして明治八年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す同三十六年東京帝國大學工科大学探礦冶金科を卒業し實業界に投ず現時頼尊礦業所を経營する傍ら前記各會社の重役として知らる曾て松島岩崎長崎電燈製鐵礦炭礦各會社取締役たりし事あり家族は尙三男謙之助(大六、六生)二女芳子(同九、八生)三女昌子(同一一、三生)四女徳子(同二五、八生)あり(東京、芝、車町三五電高輪九四四)

リ之部

李家隆介

從三位勳一等、錦鶏間祇候
京都府士族
妻 キタ 明一四、五生、長崎、木下永二姉
男 弘 明二六、三生、法學士、三井銀行員
婦 道子 明三〇、一一生、長男弘妻、東京
男 勝 明三八、一一生、大阪齒科醫學專門
學校在學

李家家は元と山口縣の出なり明治維新迄は舊山口藩主毛利家の典醫たりしが後ち京都に轉住し西本願寺專屬醫を勤めたり君は先代隆彦の長男にして慶應二年八月を以て生れ明治十三年九月家督を相續す第一高等中學校を経て同二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業し内務省試補に任ず爾來大分富山各縣參事官岡山神奈川各縣書記官富山石川靜岡各縣知事を經て大正元年長崎縣知事となり同六年退官して錦鶏間祇候仰付けらる學創柔道等に通ず家族は尙六男誠(明四三、一一生、東京慈惠醫科大學豫科在學)八男確介(大一一、六生)孫弘道(同六、七生、長男弘長男)あり二男孝(明二八、三生、工學士)は其妻澄(同三三、八生、東京、平山復二郎妹)及び一女と共に三男健(同三〇、一〇生)四男清(同三五、一一生)は各分家し長女はま子(同三三、八生)は愛媛縣入法學士清水禮三に二女靜子(同四〇、一〇生、第一高等女學校出身)は長崎縣人中尾謙三郎二男謙吾に姉はな(文久三、九生)は京都府人醫師小森芳次郎に妹きゆふ(明七、八生)は同府人今井太郎右衛門に同楓(同二三、二生)は東京府人元田傳に同チヨ(同一六、三生)は同府士族小谷雄一郎に嫁し弟義彦(同一七、五生、京都醫學專門學校出身)は京都府人小森芳次郎に養子となれり(京都、上京、河原町通三條上ル惠比須町二電上二三三五)

陸川

長野縣多額納稅者、大垣商事(株)監査役、製糸業、長野縣在籍

陸川 薫

妻 まつゑ 女 明二四、一一生、長野、小松榮吉長
男 浩明 大八、一〇生
女 房子 大二、一〇生
君は長野縣人牛山源三郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ先代登喜治の養子となり同四十二年家督を相續す製糸業を營み長野縣多額納稅者にして現時大垣商事會社監査役たり家族は尙二女和子(大五、一一生)二男啓亮(同一〇、八生)三男泰彦(同一二、九生)三女俱美(同一五、一一生)あり(長野、諏訪、平野村)

劉咸

華中堂病院主、醫師
京都府在籍
母 ちつ 慶應二、七生、京都、士、侍醫中
典醫横山忠俊長女
妻 こはま 明二四、五生、兵庫、梅谷善作三女
男 好一郎 大九、二生
當家は曾祖父三吉分家して一家を創立したるに始まる三吉廣瀬淡窓の高弟にして學を好み書を能くし石秋と號し晩年禁裡に召されて詩文局の長官となり勤番の諸士に講義をなせり其孫小一郎は東京大學出身の醫學士にして徳島病院大阪病院に勤務の後開業せり君は其長男にして明治十八年四月を以て生れ大正六年家督を相續す同四年東京帝國大學醫學科大學を卒業し大阪回生病院に勤務せしが同六年華中堂病院を創立し一般の診療に従事し今日に至る家族は尙長女昌枝(大七、五生)二男友博(同一、七生)三男善夫(同一二、一一生)第四朗(明二九、一〇生、醫學士)あり妹松江(同二二、八生)は大阪府人寺村富次に嫁し弟陸一(同二六、七生、醫學博士)は同妻富美子(同三七、一一生、大阪、中川淺之助長女と共に其一女を伴ひ分家せり(大阪、東、瓦町一ノ二三電本局三三五)

參照 寺村富次 宗末正盛治の項

(※印は姻族關係)

レ之部

冷泉

爲勇

正三位勳三等、子爵、貴族院議員

妻 福子 明二、七生、男爵北島貴孝叔母

男 爲篤 明三四、四生、從五位

女 順子 明二九、一一生

女 萬龜子 明三七、一一生、女子學習院出身

當家は權中納言冷泉爲相の孫爲尹の三男權大納言持爲の後なり持爲將軍義持より一家を授けられ下冷泉と稱し播州細川莊を食む夫より四世を経て爲將に至る爲將干戈の間に在りて仁義を唱ふ後八世を経て從三位爲柔に至り明治十七年子爵を授けらる君は爲柔の長男にして明治三年二月を以て生れ同二十七年襲爵仰付けらる貴族院議員に擧げらるること三回現に其職に在り家族は尙三男爲晃(明四二、二生)四男爲人(同四五、一生)五男爲安(大二、二生)及妹章子(明九、三生)あり長男爲由(同二五、一生)は男爵杉溪言長の養子となり由言と改名し弟爲種(同七、一〇生)は東京府士族前田長善に妹忠子(同一〇、三生)は長野縣人岩岡伊代次に各養子となり同直子(同四、四生)弟爲仲(同五、四生)は各分家し姉秀子(慶應三、四生)は子爵土御門晴善先々代晴榮に嫁せり(東京、四谷、内藤町一)

冷泉

爲系

從三位、伯爵、殿家、御歌所參候

妻 恭子 明二一、一〇生、子爵水無瀬忠政

男 爲臣 明四四、五生

女 須賀子 明四〇、五生

女 比出子 明四二、四生

當家は關白道長の六男權大納言長家の後にして世々和歌の宗家たり後二世を経て後成定家爲家相継ぎ並に當代の互匠を以て稱せらる爲家の三男權中納言爲相別に

一家をなし冷泉と稱す夫より十八世を経て先代從二位爲紀に至り明治十七年伯爵を授けられ侍從式部職殿家御歌所參候貴族院議員平安神社宮司神宮大官司等に歴任す君は爲紀の長男にして明治十四年八月を以て生れ同三十八年襲爵仰付けらる殿家にして御歌所參候たり家族は尙三女伎與子(大三、九生)四女布美子(同五、七生)あり叔父爲守(明元、四生)は入江家を相續し子爵當主にして叔母清子(文久三、二生)は伯爵山科家言先代家後同道(明三、六生)は兵庫縣土族斯波與七郎に嫁せり(京都、上京、今出川通島丸東入支武町五九九)

參照 伯爵山科家言、子爵入江爲守、子爵水無瀬忠政、斯波與七郎、久通宮家、伯爵松浦厚宗出淵中次、山本太郎の項

冷牟田

清

朝鮮銀行(株)紐育出張所支配人

妻 トヨ 明三二、一〇生、神奈川、長島與兵衛三女

男 達郎 大一三、七生

君は福岡縣人冷牟田啓太郎の弟にして明治二十一年五月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す明治四十四年山口高等商業學校を卒業し朝鮮銀行東京支店副支配人を歴て現時同行紐育出張所支配人たり家族は尙長女和子(大一〇、一生)あり(紐育、ブロードウエイ朝鮮銀行出張所内)

レ之部 冷

(※印は姻族關係)

口之部

蠟山政次郎

高崎商工會議所副會頭、上州銀行... 蠟山政次郎

六角三郎

日立製作所(株)取締役兼營業課長... 六角三郎

六角英通

正五位、子爵... 六角英通

六郷政貞

正五位、子爵... 六郷政貞

六鹿清治

京都府多額納稅者、京都商工會議所... 六鹿清治

六所國四郎

吉原銀行(株)常務取締役、富士川... 六所國四郎

六條有直

從四位、子爵... 六條有直

妻 有光 大 一、二、三、生、侯爵池田宣政姉
 當家は源師房の藩太政大臣久我通光の五男左中將通有の後なり後數代にして暫らく中絶す參議爲紀の男權中納言有廣再興し十代を経て先代有光に至り明治十七年子爵を授けらる殿掌實茂別當實茂實茂御親神社宮司等に歴任し和歌を能くし茶道に精通す君は有光の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正十三年父退隱の後を享けて襲爵仰付けらる學習院中等科に學び繼に宮内省主殿寮に勤務せしことあり家族は尙妹照傳(明二、九生、河内道明寺住職)弟有正(同三、四、五、五、法政大學出身)同有美(同三、八、一〇生)大叔母祖英(同五、七生)京都靈隱寺住職あり大々叔母慎子(天保一、一六生)は男爵藤大路親美の祖母にして大叔母敬子(明元、七生)は伯爵橋本實顯に妹須磨子(同二、五、一、二生)は東京府人矢田收蔵に同修子(同三、一、二生)は岡山縣人金光正家に同操子(同三、六、一、生)は愛媛縣人青木倉繁に養姉ヒデ(同八、七、七、生)京都、久我元道長女)は男爵阿蘇惟孝に嫁し叔父有信(同二、一、七、七、生)は京都府人黒川喜之助養母マカの養子となり(東京市外大崎町上大崎三九電高橋八八六)
 參照 侯爵池田宣政、伯爵橋本實顯、男爵阿蘇惟孝、男爵藤大路親美、侯爵細川護立、伯爵島津久光、大々叔母中川久任、伯爵池田政保、伯爵子爵島津川康文、男爵池田勝吉の項

ワ之部

和井田久吉 和井田商事(株)監査役、和井田靴子店(春)代表社員、硝子商
 大阪府在籍

男 太郎 明三二、八生
 女 千代 明三五、二生
 女 幸 明四〇、一一生
 君は大阪府人平井市平の長男にして明治二年一月を以て生れ同三十一年先代ツネの入夫となり家督を相続す硝子商を営み和井田硝子店を主宰する傍ら前記會社の監査役たり家族は尙二男恒彦(明四四、三、生)六女新枝(大、三、七、生)あり(大阪、西、北堀江通五ノ三電新町二六八)

參照 安原富三郎の項

和井田藤助 家主
 大阪府在籍

母 こう 三女 明一八、八生、京都、村田五兵衛
 君は大阪府人先代藤助の長男にして明治三十八年四月を以て生れ大正七年家督を相続と共に親名して前名善次郎を改む家主たり業に和井田商店取締役就任す家族は尙弟俊二(明三九、一〇生)あり伯母ユキ(同七、八、生)は大阪府人井田寛再の妻たり(大阪、東、備後町一ノ二電本町五八〇)
 參照 和井田寛再の項

和井田寛再 和井田商事(株)常務取締役
 大阪府在籍

妻 ユキ 明三七、八生、大阪、和井田藤助伯母
 男 統一郎 明三九、六生
 女 香 明四〇、一〇生
 君は石川縣土族榎木則保の弟にして慶應二年二月を以て生れ明治三十一年和井田ユキの入夫となり家督を相続す業に和井田合名會社代表社員たりしも後之を株式

ワ之部 和井、氣、久、合

(※印は姻族關係)

組織に變更しその常務取締役として今日に及ぶ長女尙子(明三二、六生)は東京府人大津新太郎長男善太郎に繼ぎ(同二、五、一、二、生)は大阪府人揚井裕藏長男英太郎に嫁せり(大阪、豊能、豊中町新免六二二)
 參照 和井田藤助の項

和氣市助 和氣鐵線工場(株)取締役、針金鐵線商、大阪府在籍

妻 ソノ 慶應二、一一生、大阪、池田芳兵衛長女
 養子 童子 明四三、二生、鳥根、柿田量一郎
 君は愛知縣人長氣倉吉の二男にして慶應二年七月を以て生れ明治三十一年家督を相続す夙に大阪に出で金物商中井商店に勤務し後獨立開業して針金及び鐵線商を營み今日に至る現に和氣鐵線工場取締役たり(大阪、東成、中本町九九電東一九七五)

和氣末次郎 字都宮ビロロカ(株)専務取締役、下野興業銀行(株)取締役
 大阪府在籍

妻 セつ 明一八、二生、栃木、長島彦吉四女
 男 晃 明四二、五生
 君は栃木縣人長氣五郎の弟にして明治十二年一月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す現時前掲各會社取締役として知らる家族は尙三男亨(明四四、八、生)長女雪大三、二生(二女信子(同九、四、生)あり(字都宮、三條町一三〇六))

和久新三郎 大阪府多額納税者、地主
 大阪府在籍

妻 はま 安政四、七生、大阪、曾田茂助長女
 男 エツ 明二二、一、生、大阪、田村卯兵衛
 女 茂男 大元、八生
 女 ミヤ 明四四、五生
 君は大阪府人久伊兵衛の長男にして明治十七年二月を以て生れ同四十四年家督を相続す同三十六年大阪高等商業學校を卒業し現に地主にして大阪府多額納税者として知らる家族は尙二女比奈大三、一〇生(二男龍市(同五、六、生)あり弟金藏(明三三、三、生)は分家せり(大阪、港、北恵加島町一七電豊川九九〇))

和久文吉 葛野銀行(株)取締役
 兵庫縣在籍

妻 まり 慶應元、三生、兵庫、小山桂藏妹
 孫 一郎 明三六、二生、亡養子喜太郎長男
 養子 みつ江 明一五、八生、兵庫、和久源重郎長女
 孫 よし子 明四一、一〇生、亡養子喜太郎二女
 孫 よし子 明四三、七生、亡養子喜太郎三女
 君は兵庫縣人久源重郎の二男にして文久元年三月を以て生れ明治八年分家して一家を創立す現時葛野銀行取締役たり家族は尙孫厚三(大五、三、生)亡養子喜太郎三男)あり同和夫(同元、八、生、同二男)は兵庫縣人片岡龜太郎の養子となり(兵庫、水上、成松町)

和久田芳藏 日本形染(株)取締役
 静岡縣在籍

妻 いせ 文久元、八生、静岡、中村房治郎長女
 男 純一 明一九、一、生
 婦 みつ 鷹森貞一郎妹
 君は静岡縣人加茂喜六の二男にして嘉永六年九月を以て生れ先代九郎治の養子となり明治十七年家督を相続す現時日本形染會社取締役たり家族は尙孫弘一(明四二、一〇生)長男純一(長男同芳治(大五、八、生、同二男)同三郎(同八、五、生、同三男)同百合子(同二〇、三、生、同長女)同春子(同三、三、生、同二女)同四郎(同五、四、生、同四男)あり長女みよし(明一四、三、生)は静岡縣人加茂米藏長男喜一郎に二女きよ(同八、一、生)は同縣人杉浦宗平に嫁し養母みよ(天保四、一、二生)は同縣人久田徳重の家籍に入れり(静岡、濱名、神久呂村)
 參照 三條葉彦三郎、中村男也の項

和合英太郎 日東製氷(株)社長、平製氷(株)取締役、小笠原製氷(株)監査役、日東製氷、豆東製氷、種子製氷、土浦製氷、多度津製氷各(株)相談役
 東京府土族

妻 く に 明一八、三生、神奈川、井澤吉之助姉
 君は東京府土族和合善男の長男にして明治二年八月を以て生れ同四十一年家督を相続す現時日東製氷會社々

長たる前記會社の重役として知らる弟格也(明六、二生)は其妻テ(明一七、九生、廣島、田部才藏三女)と共に其二子を伴ひ分家し同信也(同八、四生)も又分家し妹コト(明二一、七生)は奈良縣人山本周太郎長男周次郎に嫁せり(東京市外大井町三六三二電大森三一九) 參照 井澤吉之助(奈良縣本孫右衛門の項)

和島 秀藏

協立銀行(株)事務取締役
鳥取縣在籍
妻 とも 明一、八生、養祖母ふよ養子
男 健三 明三四、八生
女 よしこ 明四〇、二生

君は鳥取縣人植田甚平の二男にして明治七年七月を以て生れ同二十六年先代ふよの養子となり同二十八年家督を相続す現時前記銀行の事務取締役たり家族は尙三男廉六三、二生、四男稔(同五、二生)五男巖(同八、九生)七男勲(同一一、二生)あり長女あひこ(明一二、二生)は奈良縣人龜谷貞朝に嫁せり(同三三、一七)八、九生は兵庫縣人森憲に嫁し三女操(同三三、七生)は鳥取縣人上田はまへの養子となれり(鳥取市西町三三三)

和田秋之助

東京渡邊銀行(株)取締役兼支配人
東京府在籍
妻 ヤス 明三三、二生、東京、永田万喜
男 秀郎 大五、五生

君は東京府人和田金次郎の四男にして明治二十二年二月を以て生れ大正十四年家督を相続す同三年東京高等商業學校を卒業し現時東京渡邊銀行取締役兼支配人たる外渡邊倉庫渡邊保全會社の取締役として知らる家族は尙長女美穂子(大二三、七生)二男秋郎(明三三、一七)の外弟秋郎(明三七、五生)あり妹順(同三五、三三)は東京府人弓削靖に嫁せり(東京、麻布、宮村町三四電青山六四〇五)

和田猪三郎

從四位勳四等、理學博士、東京高等師範學校教授、理化學研究所研究員、東京府在籍
妻 さと 明一四、一〇生、埼玉、稻村龜之
男 猪一 大五、六生

君は長野縣人和田五右衛門の弟にして明治三年六月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同三十一年高等師範學校を卒業し同校助教諭に任じ同三十三年米國に留學しジョンズホプキンス大學院に入り化學を専攻す同三十六年歸朝し東京高等師範學校教授に任ぜられ同四十五年官命に依り米獨兩國に留學し滿期後ボストンテクの物理化學研究室研究員に任じ大正四年歸朝し同五年理學博士の學位を授けられ同六年東宮御學問所御用掛御付けらる同十年以來理化學研究所研究員たり家族は尙二女とよ(大七、二生)三女ふみ(同八、九生)あり(東京、小石川、大塚坂下町一一〇電大塚二五三)

和田 一次

從五位勳六等、臺灣總督府事務官
兼臺灣總督府警察官及司獄官練習官
所教官、總督官房法務課長
宮崎縣在籍
妻 重子 慶應二、九生、兵庫、尾崎圓隆三女
男 稔 正 明一七、一〇生、養父重明長女
女 紗子 明二七、九生

君は宮崎縣土族吉田重明の孫にして明治十七年五月を以て生れ後先代重明の養子となり大正十五年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學法律學科を卒業し司法官試補判事に任じ水戸東京各區地方裁判所に勤務し大正六年臺灣總督府法院判官に轉じ臺北地方法院覆審法院高等法院覆審部各判官に補せられ以前記現職に至るに司法及警察制度視察の爲關領風味及歐米諸國に出張す(臺北、千歲町二三八)

和田 一三

奈良縣多額納稅者、浪速製米(株)代表取締役、奈良縣在籍
妻 ハル 安政四、二生、和田孫三郎長女
男 カツ 明九、四生、養父一三長女
女 周子 大六、五生、養父一三長女
孫 周子 明二七、九生

君は大阪府人先代卯助の二男にして明治十五年一月を以て生れ同二十五年家督を相続し大正十三年前名政治郎を改む養種商たり(兵庫、武庫、住吉村中島電影三六六)

和田 卯助

藥種商
大阪府在籍
妻 シノ 明一二、八生、大阪、炭原治兵衛妹
男 豊 安政元、一七生

君は鹿兒島縣土族和田秀豐の長男にして明治七年十二月を以て生れ大正十四年家督を相続す風に大野義康田直三郎に西洋畫を久保田米三郎に書畫を學ぶ又天眞道場に入り黒田清輝久米桂一郎等に師事す後東京美術學校西洋畫選科を卒業し明治二十九年東京美術學校助教に任じ同三十二年西洋畫研究の爲佛國に留學し同三十六年東京美術學校教授に任ぜられ其任にあり洋畫家として知らる家族は尙妹イネ(明二四、一七)同愛子(大二三、七生)あり同トマ(明二七、九生、青山女學院出身)は大分縣土族青山昇三郎長男彦太郎に同トシ(同一四、五生)は東京府人廣田文則弟善次郎に嫁せり(東京、麻布、弁町八電青山六四八七)

和田 英作

從四位勳四等、東京美術學校教授
東京府土族
妻 シノ 明一六、六生、愛媛、高橋精一郎妹
男 豊 安政元、一七生

君は大分縣人和田壽七の長男にして明治三年十一月を以て生れ大正二年家督を相続す風に陸軍士官學校を卒業し明治二十八年陸軍歩兵少尉に任じ大正十二年陸軍中將に累進す其間參謀本部少尉に任じ省軍務局課長陸軍省副官歩兵第三聯隊附麻布聯隊司令官陸軍大學校兵學教官兼幹事參謀本部第三部長陸軍大學長等に歴補し現時第一師團長たり弟信房(明一五、一七)一、二生、海軍大佐)は同妻俊(同二七、一七)一、二生、海軍中將石橋市(女)及其子女を伴ひ同寛雄(同一九、一七)一、二生、同妻チズ(同一九、一七)一、二生、甲斐フサ叔母)及其子女を伴ひ各分家し長女一女(同三三、四生)雙葉高等女學校出身)は千葉縣人森秀に妹ヨリエ(同二四、一一)一、二生は陸軍歩兵大佐角田政之助に嫁せり(東京、麻布、三河臺町二四電青山五八〇九)

和田 織衣

資産家
大分縣土族
妻 コウ 天保八、三三、大分、土、間田彦兵衛長女
母 米子 明四一、一〇生、養父好二二女、現戸主、府立第三高等女學校出身
養子 ハル子 明四一、一〇生、東京、伊藤富治郎三女

君は大分縣土族川端揚坪の四女にして故實業家從五位勳三等和田豊治の妻なり明治六年一月を以て生る亡夫豊治は豊後中津藩の藩士にして慶應義塾を卒業し實業視察のため米國に渡航し歸朝後日本郵船會社神戸支店長横濱支店副支配人鐘淵紡織會社支配人富士瓦斯紡績

君は愛媛縣人和田忠恕の長男にして明治十四年十月を以て生れ同四十三年家督を相続す同三十八年關西大學專門部法科を卒業し現に大阪浪花郵便局長たり家族は尙庶子清子(大七、五生、生母同上)あり弟義明(明一六、一七)一、二生、同妻ミツ(同一六、一七)一、二生、北村辯吉長女)及三男を伴ひ分家し妹澄枝(同二二、一〇)一、二生は徳島縣人泉實太郎養子兵五郎に嫁せり(大阪、北、浪花町二四電北五六一一)

和田 干城

正七位勳七等、大阪浪花町郵便局長、愛媛縣在籍
妻 ナラシ 慶應元、八生、愛媛、濱口磯次郎妹
男 セイ 慶應元、八生、大阪、奥田由松妹
女 ナラシ 明一四、一〇生、大阪、奥田由松妹

長に擧げられ現時富山支店長たり家族は尙長女愛子(大九、一七)姉倉(明九、一七)一、二生、東京女子高等師範學校出身)弟二郎(同二二、三三)一、二生、日本郵船會社社員、法學士)同妻治(同三四、一七)一、二生、東京、白石元治郎長女)及び其一男二女あり姉重(同一六、三三)一、二生、海軍主計總監相良澄に嫁せり(富山、日本郵船銀行支店)

和田 壹朗

遠州電氣(株)社長、北遠銀行(株)取締役、龍山村長、静岡縣在籍
妻 鶴子 明一五、六生、静岡、疋田壯次郎妹
男 明 大九、四生

君は静岡縣人和田佐大夫の長男にして明治二十一年八月を以て生れ大正十三年家督を相続す現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙弟秀樹(明二四、一七)一、二生、同妻四郎(同三一、四生)熊本、本多蘇熊妹)弟秋四郎(同四〇、一〇)一、二生、妹やす子(同四四、一八)一、二生、伯母きさ文(二、二)一、二生、あり妹あい子(明三六、一八)一、二生は静岡縣人白柳千秋に嫁せり(静岡、磐田、龍山村)

和田 稻吉

勳四等、東京イシ工業(株)専務取締役、日本製鐵(株)取締役
高知縣在籍
妻 幸 天保八、四生
男 幸 天保八、四生

君は高知縣人和田義祐の長男にして安政五年三月を以て生れ大正十年家督を相続す八月に日本郵船會社に入り同社副參事庶務部部長等を経て現に前記會社の重役たり家族は尙孫和子(大二三、一〇)一、二生、長男健一(長女)あり三女遊子(明三九、一七)一、二生は愛媛縣人山本麟太郎に嫁

君は愛媛縣人和田忠恕の長男にして明治十四年十月を以て生れ同四十三年家督を相続す同三十八年關西大學專門部法科を卒業し現に大阪浪花郵便局長たり家族は尙庶子清子(大七、五生、生母同上)あり弟義明(明一六、一七)一、二生、同妻ミツ(同一六、一七)一、二生、北村辯吉長女)及三男を伴ひ分家し妹澄枝(同二二、一〇)一、二生は徳島縣人泉實太郎養子兵五郎に嫁せり(大阪、北、浪花町二四電北五六一一)

和田寛次郎

和田醬油、五戸水電各(株)取締役
黒澤商店(株)監査役、青森縣在籍
嘉永四、一、二生、青森、三澤山大
藏二女

和田喜一

大岩電氣(株)取締役
富山縣在籍
明二、三、三、富山、淺尾背美妹
喜一郎 明三、八、七生
女 綾子 明四、一、一、一、一

和田喜次郎

江ノ島電氣鐵道、日華煉炭各(株)
取締役、朝鮮中川昌道礦山産品
石東京販賣主任、福岡縣在籍
妻 ツネ子 明一、二、五、養父俊藏二女
君は福岡縣人石井猪太郎の弟にして明治十三年九月を
以て生れ和田俊藏の養子となり昭和二年分れて一家を

和田源次郎

北海道多額納税者、北海道土木建
築、小樽木材倉庫各(株)監査役
木材商、北海道在籍
妻 せい 明一〇、三、石川、五ノ田作藏姉
君は山形縣人和田徳右衛門の二男にして明治七年三月
を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す木材商を營
み現時前記各會社の重役にして北海道多額納税者たり
(小樽市)

和田孝一郎

島根縣多額納税者、農業
島根縣在籍
妻 ナミ 明二、一、一、島根、藤間權助妹
母 芳野 明三、一、四、島根、依三九郎妹
男 共 弘 大、一、八、生

和田孝一

君は島根縣人和田孫二郎の長男にして明治二十八年一
月を以て生れ同四十年家督を相続す農業を營む島根縣
多額納税者たり家族は尙長女彌子(大九、五、五)二女
ユキ子(明一、三、一、一)三女ヒサ子(昭二、一〇、一)女
リ子(同三、七、一、一)一、一、一、島根縣人恒謙謙介に妹
子(同三、七、一、一)二、一、一、島根縣人美甘吉長男弘光に妹
敏子(同三、九、九、九)は廣島縣人岡本與茂一弟厚に嫁し
弟博正(同三〇、七、七)は同妻彌子(同三六、七、七)生、愛
知、竹内式郎長女)及一女を伴ひ分家せり(島根、安
濃、川合村)
参照 宇津重資孫一※藤田武雄の項

和田吉兵衛

大阪推茸(株)取締役
大阪府在籍
妻 キミ 明一六、一、二、大阪、吉田榮助
二女

和田久左衛門

大正信託(株)専務取締役、家主
大阪府在籍
妻 久子 明三、一、一、伯備大光光暢叔母
安 辰 大、二、一、六、生

和田金三郎

長野縣多額納税者、呉服商
長野縣在籍
妻 高平 明二、四、八、生
男 高平 明二、八、一、二、男高平妻、長野、
中村廣太郎三女

和田幸吉

青森縣多額納税者、青森信託、杉
山木材各(株)取締役、青森銀行
(株)監査役、米穀商、青森縣在籍
妻 チエ 明六、一、一、青森、和田作太郎
養妹
男 重太郎 明四、二、二、生
養子 徳太郎 明三、一、五、養子徳太郎妻
女 チタ 明三、三、五、養子徳太郎妻
女 しげ 明四、四、一、一、生

和田作一

鹿児島縣多額納税者、味噌醬油商
鹿児島縣在籍
妻 ユキ 明五、七、三、生、鹿児島、田中善吉
長女
男 作治 大、八、一、一、生
女 フタ 大、二、一、一、生

和田治五郎

北海道多額納税者、日本製糖(株)
取締役、函館無盡(株)監査役、丸
文和田商店(名)代表社員、金融業
北海道在籍
妻 タミ 明二、七、一、一、新潟、磯多平二女
養子 勇治 明二、七、一、一、新潟、磯多平二女
明二、八、五、生、養子勇治妻
継子 ワタ 明二、八、五、生、養子勇治妻

和田國次郎

從三位勳二等、林學博士、宮中顧
問官、皇室林野局御用掛
福岡縣在籍
妻 ちか 明一、二、一〇、生、福井、鈴木純妹
男 國男 明三〇、一、一、生
男 義男 明三〇、一、一、生
男 武男 明四〇、一、一、生

和田錐藏

從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中
尉、三重縣(株)取締役、伊藤メ
リヤス(株)監査役、愛知縣土族
妻 有 嘉永六、一〇、一〇、生
女 康生 明二〇、一、二、生、愛知、細谷鈴馬
女 とよ 明四〇、一〇、一〇、生
女 しげ 明四三、一〇、一〇、生

和田賢助

正四位勳三等功四級、退役海軍中
將、東京府土族
君は愛知縣土族和田有の長男にして明治十年十月を以
て生れ大正七年家督を相続す明治三十三年東京高等商
業學校を卒業し高田商會に入り翌年一年志願兵として
入營し同三十七年日露戰役に出征して勳功あり陸軍歩
兵中尉に陞進し勳六等功五級に叙せられて現時前記會社
の重役たり家族は尙弟三(明二八、六、六、生、京都市立
繪畫專門學校出身、畫家)あり(三重、桑名、桑名町)

和田治郎兵衛

資産家
大阪府在籍
妻 長子 明二、八、七、生、大阪、松浦長治郎
長女
男 誠一 大、五、一、一、生

和田收藏

明治火災保險(株)總務部長
長野縣在籍
妻 とよ 明二、二、一、二、生、茨城、海老原介
太郎姪
男 收 明四、五、一、一、生

和田純一

山口縣在籍
繼父 七郎 明九、四、生、福岡、山本タダ母
母 トシ 明二六、九、生、祖父又藏長女
君は山口縣人和田又藏の孫にして大正三年六月を以て
生れ昭和元年家督を相続す食料品商を營む家族は尙妹

君は大阪府人和田清兵衛の二男にして明治三十年四月を以て生れ先代みきの入夫となり大正十年家督を相續す生魚商を営む(大阪、西ノ子島上ノ町五)

和田哲夫

洋反物商 大阪府在籍 明一九、八生、鳥根、林久右衛門 女 清子 明四〇、七生

君は鳥根縣人和田吉人の二男にして明治十五年十一月を以て生れ先代兵助の養子となり同二十八年家督を相續す洋反物商を営む家族は尙二女光代(大七、七生)あり弟樹三郎(明二五、四生)は鳥根縣人林幸太郎の養子となれり(大阪、東、南本町三ノ七電場場五四〇)

和田鐵太郎

大黒屋、割烹業 東京府在籍 祖母 ふみ 嘉永五、四生、東京、石鍋藤次郎 母 しゅう 明四、一〇生、静岡、室伏次郎 妻 マサ 明二八、八生、東京、寶谷七六女

君は東京府人和田仙太郎の長男にして明治二十六年六月を以て生れ同三十八年家督を相續す大黒屋と稱し割烹業を営む家族は尙長女節子(大六、八生)三女愛子(同一、五生)五女阿久利(同一、四生)の外弟定五郎(明二八、一〇生)同妻まき(同二五、二生、静岡、相模林藏三女)同三郎(同二九、一〇生)及其一男一女同佐司(同三六、一〇生)同七五郎(同四〇、一〇生)同正夫(同四四、一〇生)同三三(同三五、二生)同二(同三七、一〇生)同光枝(同四三、三三)同静子(大二、五三)あり(東京、淺草、馬道町四ノ一電簿章一六〇)

和田傳太郎

静岡縣多額納税者、日本汽船漁業(株)取締役、不二商會(株)監査役 静岡縣在籍 妻 せつ 明一七、一〇生、静岡、本間春城 男 元 明三七、一〇生、静岡、同春城 女 重子 明四一、八生、長男元妻、神奈川、岡田寅吉 男 捷雄 明三八、三〇生

三、三生)は分家し二女アミ(同三五、六生)同夫唯一(同二八、八生、大分、佐藤秀作弟)も亦其三男一女を伴ひ分家せり(大分、日田、前津沼村)

和田豊種

從四位勳四等、醫學博士、退役陸軍二等軍醫、大阪醫科大學教授、附屬病院院長、大阪府在籍 妻 ひさ 明二二、二生、京都、佐々木甚藏 男 種文 大元、九生 君は大阪府人和田元治の二男にして明治十三年八月を以て生れ同二十二年家督を相續す同二十二年大阪醫學校を卒業し大阪府立醫學教授同高等醫學學校教授等を歴任し同四十二年獨逸に差遣せられ歸朝後醫學博士の學位を授けらるる現時大阪醫科大學教授兼附屬病院院長たり家族は尙二男種彦(大七、七生)長女種子(同一、五生)二女種子(同一、七生)あり妹セイ(明一八、八生)は愛知縣人小幡龜壽に嫁せり(大阪、北、南森町一七五電北五一二)

和田直兵衛

大和屋、疊表商 東京府在籍 父 徳重 嘉永元、一〇生、東京、千代田熊藏四男 妻 アイ 明一七、九生、東京、芳賀吉之助 男 吉藏 明三九、一〇生 男 秀藏 明四一、九生 君は東京府人先代直兵衛の長男にして明治十三年二月を以て生れ同四十二年家督を相續し前名兼吉を改む同三十六年東京高等商業學校を卒業し家業疊表商を繼ぎ大和屋と稱す家族は尙三男光藏(明四五、三三)四男龜藏(大二、九生)五男覺藏(同四、八生)あり(東京、日本橋、堀江町一ノ一電簿花九六)

和田二三郎

沼津銀行(株)頭取、伊豆相互貯蓄銀行(株)取締役、静岡縣在籍 妻 こゝろ 明三、六生、静岡、和田傳太郎 男 順雄 明九、二生、現戸主 女 とせ 明一七、三三、長男順雄妻、静岡、影山熊吉長女

男 金剛 明四〇、七生 男 長雄 明四一、一〇生 君は静岡縣人先代傳太郎の長男にして明治十一年十月を以て生れ同三十八年家督を相續し大正五年前名實買を改む龜に沼津銀行沼津支店日東製菓倉庫静岡瓦斯東海自動車製造肥料各會社の重役に擧げられ現時日本汽船漁業會社取締役及び不二商會監査役たり同縣多額納税者にして沼津市に於ける實業界の雄たり家族は尙五男三千雄(大六、四生)あり姉こゝろ(明三、六生)は静岡縣人和田二三郎に嫁ひる(同一、六、七生)は同縣人和田武に同た(同二〇、三三)は其夫達也(同二一、三三)同(同二二、一〇生)と共に姉しつめ(同九、一〇生)は其夫武(同二、二生、静岡、米山精一弟)と共に其子女を伴ひ再婚妹千代(同二二、一二生、静岡、竹村五百枝二女)は夫々分家し弟貢誠(同一五、七生)は神奈川縣人關ツルの養子となり善左衛門と改名せり(沼津、本町八六)

和田藤藏

和歌山縣多額納税者、肥料商 和歌山縣在籍 君は和歌山縣人先代藤藏の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正九年家督を相續し共に前名藤太郎を改む肥料商を営み現に縣下の多額納税者たり家族は姉相(明二三、一〇生)弟藤之助(同二七、八生)同定夫(同三三、一〇生)あり(和歌山市米屋町三)

和田徳次郎

正五位勳四等、醫學博士、東北帝國大學教授、醫學部勤務 東京府在籍 妻 かね 明一七、九生、和歌山、和田正造 女 芳 明四〇、五生、御茶の水高等女學校出身 女 幸子 明四三、三三 女 和 大元、一〇生 君は和歌山縣人龜井平次の二男にして明治十二年十一月を以て生れ先代秀の養子となり大正六年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學醫學部卒業し東京帝國大學醫學科大學助教授を歴任す大正七年米英佛獨に留學し同九年醫學博士の學位を受く同十年歸朝現時東北帝國大學教授醫學部勤務たり(仙臺、堤通二六電一六八三)

君は奈良縣人和田徳平の長男にして明治元年七月を以て生れ同二十二年家督を相續す榮服商を営み先々代創業以來百二十餘年に及び傍ら前記銀行重役たり家族は尙孫直樹(大一一、三三)長男徳太郎(長男)同健(同一五、二生、同二男)あり(奈良、生駒、郡山町)

和田徳兵衛

奈良縣多額納税者、六十八銀行(株)監査役、榮服商、奈良縣在籍 妻 イト 明六、六生、奈良、梅本清八 男 徳太郎 明三〇、六生 女 勝江 明三七、八生、長男徳太郎妻、大西字三郎長女 君は奈良縣人和田徳平の長男にして明治元年七月を以て生れ同二十二年家督を相續す榮服商を営み先々代創業以來百二十餘年に及び傍ら前記銀行重役たり家族は尙孫直樹(大一一、三三)長男徳太郎(長男)同健(同一五、二生、同二男)あり(奈良、生駒、郡山町)

和田利彦

春陽堂主、出版業 東京府在籍 妻 静子 明二四、三三、東京、小林直造長女 男 欣之介 大七、五生 君は東京府人今村義夫の二男にして明治十八年七月を以て生れ大正三年先代和田静子の入夫となり家督を相續す明治四十五年早稲田大學商科を卒業し現に春陽堂と稱し出版業を営む(東京、日本橋、通四ノ五電日本橋五一)

和田友之助

大分縣多額納税者、日田銀行、船越銀行各株監査役、農業者 大分縣在籍 妻 ヤス 明七、四生、福岡、三浦恒太郎二女 男 重義 明二七、一〇生 女 シヅエ 明三三、二生、二男重義妻、福岡、徳崎辰太郎二女 男 甚吾 明三四、一〇生 男 ノブ 明三六、一〇生 男 孝太郎 明三八、九生 君は大分縣人和田甚兵衛の長男にして明治二年六月を以て生れ同三十三年家督を相續す農業者を営み大分縣多額納税者にして前記諸銀行の重役たり家族は尙七男恒夫(明四三、七生)八男正一(大元、一〇生)孫幸(同九、九生)亡長男順太郎長女(同一、一三、八生)二男重義長女(同康之、同一五、四生)同長男あり長女トヨ(明二八、一〇生)は男爵五條頼次に嫁し三男信(同三)

朝日新聞記者となり現に經濟部長の職にあり家族は尙二女咲也(大六、一〇生)弟淺香(明二二、五生)同妻リヨ(同三一、二生)妹芳津野(同三九、八生)甥瑞男(大一〇、五生)あり弟常葉(明三五、九生)は分家せり(兵庫、武庫、御影町一里電簿影三七)

和田半兵衛

岡橋(株)取締役、乾物商 大阪府在籍 妻 弘つ 明二七、二生、養父半兵衛長女 男 半三郎 明二七、二生 女 富美 明三四、四生、大阪、吉本彦太郎 君は大阪府人經節間屋中田傳兵衛の長男にして明治五年一月を以て生れ先代半兵衛の養子となり大正十一年家督を相續し前名傳兵衛を改む代々綿屋と稱し乾物問屋を営む老舖にして現時岡橋會社取締役たり家族は尙孫耕一(大一一、一〇生)長男半三郎長男(同仁安)同一五、二生、同二男の外養妹キセ(明二二、九生)同夫種之介(同一七、六生)兵庫、山邑太左衛門弟との間に一男一女あり養父嘉藏(安政三、一〇生)は大阪府人山鳥嘉平次(養父)の養子となり養叔ノブ(安政六、二生)は同府人志方勢七の母にして長女(同一、二九、九生)は同府人岡橋助長男芳太郎に三女とよ(明三四、一〇生)は大阪府人山田卯助長男孝治に嫁せり(大阪、北、瀬川町五〇電北三六一六)

和田彦次郎

從三位勳一等、貴族院議員 廣島縣在籍 妻 スマ 明二二、四生、群馬、新井和市郎 男 正彦 明二二、九生 君は廣島縣人世良都平の二男にして安政六年六月を以て生れ後先代長治郎の養子となり明治五年家督を相續す夙に漢學を修め朝鮮白佛國に歴遊す歸朝後農商務省農務局長同農工局長同總務長官同次官等に歴任し歐米各國清鮮兩國に差遣され明治二十五年以來衆議院議員に當選すること七回同四十四年貴族院議員に勅選さるる家族は尙孫正明(大五、一〇生)長男正彦長男(同達夫)同七、五生、同二男)同淑子(大一〇、一〇生)同長女)

君は千葉縣士族和田豊の長男にして明治十九年十月を以て生れ父豊居により大正十五年三月家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法政科を卒業し大阪

和正之(同一、一生、同三男)あり長女ヒロ(明二、五三三)は京都府人法制局参事官黒崎定三に嫁し養弟英治郎(文久元、一一生)は分家せり(東京、麻布、霞町二二電青山五七二九)

和英 英三郎 東京府在籍 養子 壽次郎 明三、一〇生、廣島、利田吉三

和弘 從五位、鐵道局参事、東京鐵道局 教育所長、東京府在籍 妻 明三、四生、長野、平野五兵衛

和正 並木製作所(株)専務取締役 妻 明二、一、生、静岡、古特千秋二

和益 和保綿布(株)代表取締役 妻 明二、九、九生、長女満壽夫、大阪、 山下廣三郎、養子章妻

和正 從五位、警務部局書記官兼稅務 監督局事務官、總務部勤務 妻 安政五、六生、現戶主 廣島縣在籍

和龍 和龍太郎 福島縣多額納稅者、農業 妻 明一、七、三、生、福島、吉田忠右衛門

和利 東京米穀商取引所取引員 妻 明一、七、二、生、群馬、山崎伴行

和六 和六太郎 福岡縣多額納稅者、金銀業 妻 萬延元、三、生、福岡、青柳直雄三女

和春 正五位勳三等、醫學博士、京都帝 國大學名譽教授、兵庫縣在籍 妻 明八、三、生、新潟、土、星野安藏

和義 共同酒造(株)社長、大倉恒吉商店 (株)常務取締役、兵庫縣士族 妻 安政元、一、生、祖父贈正五位義亮

和嘉 東京計器製作所(株)社長、東洋酸 素、日本光學工業、八洲商會(各)株 妻 明一、七、五、生、東京、加藤覺長女

和善 第三十六銀行(株)東京支店長 妻 明四、〇、一、生、東京、吉田マツ養子

和彌 大阪府在籍 妻 明二、五、八、生、二女秀惠夫、大阪、 養子 美 後藤佐右衛門四男

君は静岡縣人和田三郎の二男にして土屋賢吾の兄な り明治十一年八月を以て生れ同四十四年分家して一家 を創立す同三十六年東京商船學校航海科を卒業し現時 並木製作所専務取締役たり家族は尙三女婚佐子(大四、 四生)二男婚次(同六、五生)四女ミツ子(同一〇、五生) あり(東京、芝、白金三光町二七六)

和正 從五位、警務部局書記官兼稅務 監督局事務官、總務部勤務 妻 安政五、六生、現戶主 廣島縣在籍

和益 和保綿布(株)代表取締役 妻 明二、九、九生、長女満壽夫、大阪、 山下廣三郎、養子章妻

和正 並木製作所(株)専務取締役 妻 明二、一、生、静岡、古特千秋二

和龍 和龍太郎 福島縣多額納稅者、農業 妻 明一、七、三、生、福島、吉田忠右衛門

和利 東京米穀商取引所取引員 妻 明一、七、二、生、群馬、山崎伴行

和六 和六太郎 福岡縣多額納稅者、金銀業 妻 萬延元、三、生、福岡、青柳直雄三女

和春 正五位勳三等、醫學博士、京都帝 國大學名譽教授、兵庫縣在籍 妻 明八、三、生、新潟、土、星野安藏

和義 共同酒造(株)社長、大倉恒吉商店 (株)常務取締役、兵庫縣士族 妻 安政元、一、生、祖父贈正五位義亮

和嘉 東京計器製作所(株)社長、東洋酸 素、日本光學工業、八洲商會(各)株 妻 明一、七、五、生、東京、加藤覺長女

和善 第三十六銀行(株)東京支店長 妻 明四、〇、一、生、東京、吉田マツ養子

和彌 大阪府在籍 妻 明二、五、八、生、二女秀惠夫、大阪、 養子 美 後藤佐右衛門四男

和正之(同一、一生、同三男)あり長女ヒロ(明二、五三三)は京都府人法制局参事官黒崎定三に嫁し養弟英治郎(文久元、一一生)は分家せり(東京、麻布、霞町二二電青山五七二九)

君は京府人和田佐平の長男にして文久元年八月を以 て生れ明治二十三年家督を相続す外計器製作所の創始 者たり現時東京計器製作所社長たる外計器製作所の 重役たり家族は尙四男重雄(明四三、三三)六女佐智子 (大四、三三)あり四女菊子(明三六、五五)御茶の水高等 女學校出身(在)佐賀縣人久米富助三男三三に嫁せり(東 京、麻布、永坂町六九電青山一三六九)

和龍 和龍太郎 福島縣多額納稅者、農業 妻 明一、七、三、生、福島、吉田忠右衛門

和益 和保綿布(株)代表取締役 妻 明二、九、九生、長女満壽夫、大阪、 山下廣三郎、養子章妻

和正 並木製作所(株)専務取締役 妻 明二、一、生、静岡、古特千秋二

和龍 和龍太郎 福島縣多額納稅者、農業 妻 明一、七、三、生、福島、吉田忠右衛門

和利 東京米穀商取引所取引員 妻 明一、七、二、生、群馬、山崎伴行

和六 和六太郎 福岡縣多額納稅者、金銀業 妻 萬延元、三、生、福岡、青柳直雄三女

和春 正五位勳三等、醫學博士、京都帝 國大學名譽教授、兵庫縣在籍 妻 明八、三、生、新潟、土、星野安藏

和義 共同酒造(株)社長、大倉恒吉商店 (株)常務取締役、兵庫縣士族 妻 安政元、一、生、祖父贈正五位義亮

和嘉 東京計器製作所(株)社長、東洋酸 素、日本光學工業、八洲商會(各)株 妻 明一、七、五、生、東京、加藤覺長女

和善 第三十六銀行(株)東京支店長 妻 明四、〇、一、生、東京、吉田マツ養子

和彌 大阪府在籍 妻 明二、五、八、生、二女秀惠夫、大阪、 養子 美 後藤佐右衛門四男

和正之(同一、一生、同三男)あり長女ヒロ(明二、五三三)は京都府人法制局参事官黒崎定三に嫁し養弟英治郎(文久元、一一生)は分家せり(東京、麻布、霞町二二電青山五七二九)

若杉米太郎

長崎海運(株)社長、長崎貯蓄銀行長崎興業各(株)監査役、長崎縣士族

若杉米太郎 長崎海運(株)社長、長崎貯蓄銀行長崎興業各(株)監査役、長崎縣士族

若田太右衛門

東京府在籍 東久三、五生、埼玉、金子文藏四女

若田虎三郎

若田商店、若田煉炭原料各(株)社長、石炭商、大阪府在籍

若旅喜一郎

上州鐵道(株)社長、群馬縣農工銀行上毛支店長、群馬縣在籍

若月清八

北海道多額納税者、裁縫商(株)取締役、北海道在籍

若楓正作

富士川銀行取締役、静岡県在籍

若楓直作

静岡縣多額納税者、富士川銀行(株)頭取、静岡銀行、江尻銀行、静岡銀行各(株)取締役、静岡縣在籍

若楓道隆

從五位勳六等、臺灣總督府視學官、長野縣在籍

若林英一 辰見屋、材木商、東京府在籍

若林乙吉

若林製絲場(株)専務取締役、滋賀縣在籍

若林健之助

從四位勳三等、検事、名古屋控訴院検事、東京府在籍

若林五郎平

鹽田電氣(株)社長、那須商業銀行(株)取締役、栃木縣在籍

若林鋼三郎

若林保全會社員、東京府在籍

若槻禮次郎

從三位勳一等、前官禮遇、貴族院議員、立憲政黨顧問、東京府在籍

若林龜之助

東京人造絹絲(株)監査役、若林保全會代表社員、堺屋、材木商、東京府在籍

ワ之部 若(楓、林)

(※印は姻族關係)

若林英一

辰見屋、材木商、東京府在籍

若林乙吉

若林製絲場(株)専務取締役、滋賀縣在籍

若林健之助

從四位勳三等、検事、名古屋控訴院検事、東京府在籍

若林五郎平

鹽田電氣(株)社長、那須商業銀行(株)取締役、栃木縣在籍

ワ之部 若(楓、林)

(※印は姻族關係)

母 安政六、七生、東京、土、小坂菊
十郎養妹
君は東京府人若林龜之助同大次郎の弟なり明治二十八年一月を以て生る大正九年慶應義塾理財科を卒業し現時若林保全會社より家族は尙弟利徳(同三三、六六生あり)東京、神田、駿河臺袋町九電神田二七八五)參照 若林龜之助、若林大次郎の項

若林佐一郎 大阪三品商事(株)監査役
滋賀縣在籍
妻 まるは 明一三、二生、群馬、飯田岩吉妹
男 次郎 明三八、六生

若林三藏 若林(名)社長
兵庫縣在籍
君は大阪府人若林三郎の長男にして明治十一年七月を以て生れ若林左衛門の養子となり明治二十五年分家して一家を創立す現時若林會社社長たり家族は尙子(大二三、五生、長男秀雄長女)あり三女(明三三、二一)生(同三三、二一)生、大阪、橋本與兵衛(二男)は其一男を伴ひ分家せり(兵庫、武庫、西郷村新在家)
參照 若林左衛門、若林禮、若林廣松、若林三郎、若林三郎若林與兵衛の項

若林善太郎 萬善、材木商
東京府在籍
妻 せみ 明一〇、一生、養父善太郎長女
男 晴之助 明三六、一一生、長女ふさ夫、美
養子 陳路 明三〇、一一生、養父善太郎長女
女 ふさ 明三一、四生、養父善太郎長女

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林春三 保險代理業
兵庫縣在籍
父 敏浦 文久三、一一生、大阪、高山慶三
母 とみ 明元、一一生、養父左衛門四女
妻 ムカ 明二三、一一生、京都、宮本邦之助
男 晴男 大一三、一一生
君は兵庫縣人先代春三の長男にして明治十七年一月を以て生る同三十二年日本法律學校を卒業し判事任用試験に合格し同三十五年判事に任じ爾來上田區高崎區前橋地方浦和同區三條區新島地方札幌地方旭川區同監督行橋區同監督佐世保區同監督高田區同監督長岡區同監督所長に補せらるる家族は尙二男武夫(大二三、一〇生)三女てい子(同五、一一生)四女あまみ(同八、二一生)三男英夫(同二、七生)の外兄弟大郎(安政元、三生)現戸主同妻(文久三、一一生、長野、土、島田牧藏長女)及其子女並孫あり長女ふさ(明三三、一〇生)長女野原人(神村光顯に嫁、同二、七生、兄慶太郎(長女)は同縣人柳澤敬助に同(同三三、一〇生)同三女)は同縣人豊城亨二に嫁し第五郎(同八、四生)は分家し明彦雄(同三〇、四生、兄慶太郎三男)は長野縣人中澤次郎に嫁す(同三〇、一一生、第五郎長女)は廣島縣人桑本ユウに各養子となり(樺太、豊原、豊原町地方裁判所官舎)

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林茂一郎 春和堂、書籍商
京都府在籍
君は大阪府人若林茂助の長男にして明治十年一月を以て生れ同十六年分家して一家を創立す現時若林會社社長たり家族は尙子(大二三、五生、長男秀雄長女)あり三女(明三三、二一)生(同三三、二一)生、大阪、橋本與兵衛(二男)は其一男を伴ひ分家せり(兵庫、武庫、西郷村新在家)
參照 若林左衛門、若林禮、若林廣松、若林三郎、若林三郎若林與兵衛の項

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林大次郎 若林保全會社代表社員、堺七、材
木商、東京府在籍、鈴木喜兵衛
妻 壽満 明三五、九生、東京、鈴木喜兵衛
男 成和 昭二、九生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林廣松 銘酒忠勇醸造元、酒造業
兵庫縣在籍
妻 周子 明三四、二生、兵庫、井上善右衛門長女、兵庫縣立高等女學校出身
女 信子 大二、九生、神戸女學院高等部在學
當家は享保年間より兵庫に定住し代々酒造業を営める老舖なり君は同縣人若林左衛門の弟にして明治十三年五月を以て生れ養父與兵衛の養子となり大正十五年分家を相続す明治三十年大阪高等商業學校を卒業し爾來酒造業を承けて酒造業を營み銘酒忠勇の醸造元として知らるる讀書に趣味を有す家族は尙二女孝子(大六、三三)三女ゆき子(同一二、五生)あり(兵庫、武庫、西郷村岩屋一九一電燈影一〇五)
參照 若林左衛門、若林與兵衛、若林三郎、若林三郎若林與兵衛の項

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若林 若林(名)社長
前住友銀行(株)道頓堀支店支配人
福井縣土族
妻 ハナ 明一、二生、福岡、土、赤尾元
男 秀一 明三三、一一生
男 英一 明三三、一一生

若松 三郎 (正五位勳四等、仁川米豆取引所社長、朝鮮商業銀行株監査役、大分縣在籍)

妻 明一、九生、相馬要太郎長女
 男 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女
 女 明一、九生、相馬要太郎長女

君は京都府土族若松太郎の弟にして明治二年一月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治二十四年同志社を卒業し官途に就き兼に朝鮮總督府監査府尹たりしが後實業界に轉じ現時仁川米豆取引所社長たる外前記銀行の重役を兼ね家族は尙二男志廣(明四二、一〇生)七女和惠(大六、一〇生)あり長女篤世(明三三、一〇生)は東京府人川村建雄に嫁せり(朝鮮、仁川、山根一七)

君は鹿兒島縣土族若松源八郎の長男にして明治七年四月を以て生れ大正四年家督を相続す爵を業とす家族は尙四女三世子(大五、八生)弟連明(一、三三)同妻惠美(同二〇、九生)鹿兒島、本野八郎(二女)及其子女同平治(同二八、四生)同妻スエ(同三一、一〇生)鹿兒島、平山清吉(妹)及其子女あり(神戸、仲町五ノ六電本局三八三)

若松 圓太郎 (青森縣多額納稅者、金融業)

妻 安政五、九生、青森、木村長左衛門
 男 明二、四、六生
 女 明二、四、六生

君は青森縣人若松圓次郎の長男にして明治三十一年十一月を以て生れ後家督を相続す金融業を営み青森縣多額納稅者たり家族は尙孫一郎(大二、八生)長男圓吉(長男)同二女(大五、一〇生)同二女(同二〇、一〇生)あり長女キヤ(明二六、八生)は其夫建作(同二二、六生)青森、佐々木傳吉(弟)と共に二女キョ(同三四、六生)は其夫武義(同三一、三三)青森、葛西勇太郎(弟)と共に弟藤吉次郎(同六、八生)は其妻つね(同二一、六生)青森、福士熊治郎(妹)と共に各其子女を伴ひ分家し妹ふみ(同一二、三三)も亦其子女を伴ひ分家せり(青森市堤町)

君は鹿兒島縣人若松圓太郎の長男にして明治十二年六月を以て生れ先代清兵衛の養子となり家督を相続す大島納稅者なり鹿兒島縣多額納稅者たり家族は尙長女千鶴(大五、一〇生)二男清太郎(同六、一〇生)四男喜久次郎(同二〇、一〇生)あり弟清太郎(明一五、一〇生)は其妻キミ(同三〇、七生)及其二男二女を伴ひ分家せり(鹿兒島市金生町)

君は長崎縣土族若松源八郎の長男にして慶應二年五月を以て生れ明治十五年絶家若見家を再興す同二十年陸軍士官學校を卒業し同年歩兵少尉に任じ大正六年陸軍中將に果進し同八年豫備役仰付らる其間第四師團臺灣守備混成第一旅團第十師團各參謀留守第十一師團第十三師團各參謀長歩兵第三十八師團第三近衛歩兵第四各聯隊長侍從武官兼軍事參議院幹事に歷補す家族は尙五男五郎太(大四、一〇生)あり長女カネ(明二八、三三)は東京府人原口繁之助に嫁せり(東京市外世田谷町若林一)

若松 吉二 (鹿兒島縣多額納稅者、九州木材(株)監査役、鹿兒島火災(株)監査役、鹿兒島縣在籍)

妻 鹿兒島縣在籍
 男 鹿兒島縣在籍
 女 鹿兒島縣在籍

君は鹿兒島縣人若松吉二の長男にして明治二十二年六月を以て生れ大正九年先代徳兵衛の養子となり家督を相続す共に襲名して前名忠三を改む現に伊勢布糊會社監査役にして三重縣多額納稅者たり家族は尙長女たづ(大五、三三)二女裕子(同七、一〇生)あり(三重、度會、二見町)

君は京都府人若松吉二の長男にして明治二十二年六月を以て生れ大正九年先代徳兵衛の養子となり家督を相続す共に襲名して前名忠三を改む現に伊勢布糊會社監査役にして三重縣多額納稅者たり家族は尙長女たづ(大五、三三)二女裕子(同七、一〇生)あり(三重、度會、二見町)

君は愛知縣人若松金作の長男にして明治十一年二月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す夙に軍籍に入り同三十三年陸軍少尉に任じ大正十三年陸軍少尉に陞進す兼に陸軍省軍務局工兵課長に補せられ現に陸軍工兵學校長にして陸軍技術會議々員たり家族は尙二男次郎(明四二、七生)三男三津雄(同四三、六生)二女文江(大四、一〇生)三女菊枝(同八、一〇生)あり(東京市外高田町上り屋敷三五五九)

若森 清治 (白木屋呉服店(株)取締役)

妻 明一、八、四生、東京、仙松吉姉
 男 明一、八、四生、東京、仙松吉姉
 女 明一、八、四生、東京、仙松吉姉

君は東京府人若森清之助の長男にして明治十四年二月を以て生れ同二十四年家督を相続す現時白木屋呉服店取締役たり家族は尙二男利夫(大五、一〇生)三男美登里(同九、二生)四女昌子(同二、四生)三男德三(同二、四、八生)あり(東京、芝、下高輪町三〇電高橋七九二)

君は東京府人若森清之助の長男にして明治十四年二月を以て生れ同二十四年家督を相続す現時白木屋呉服店取締役たり家族は尙二男利夫(大五、一〇生)三男美登里(同九、二生)四女昌子(同二、四生)三男德三(同二、四、八生)あり(東京、芝、下高輪町三〇電高橋七九二)

君は大阪府人若山善太郎の長男にして明治三十一年十一月を以て生れる現時若山鐵工所専務取締役として知らる家族は尙長女カヨ子(大一一、一〇生)二女圭子(同三、一〇生)三女任子(同二四、一〇生)あり(大阪、住吉、濱口町二八四ノ一〇電住吉三五五)

脇道譽

石狩石炭、大倉商事各(株)取締役 日本電池、朝鮮肥料各(株)監査役 愛媛縣在籍

脇坂静之助

愛媛銀行(株)頭取、小川温泉(株)取締役、富山縣在籍

脇坂安之

從四位、子爵 舊播州龍野藩 重春姉

脇坂良太郎

天心堂醫院長、醫師 福岡縣在籍

脇田勇

東京府會議員、協田商行、馬來護照 東京府在籍

脇田勝重

名古屋株式取引所取引員 愛知縣在籍

脇田重右衛門

丹波銀行(株)頭取 愛知縣在籍

孫光紀

明三八、一〇生、長男賢一郎二男 武雄 明四〇、三三、長男賢一郎三男

脇田信吾

東京府在籍 常務取締役、東京電 業(株)監査役、静岡縣在籍

脇田貞三

西武鐵道(株)取締役兼工務部長 東京府在籍

脇水鐵五郎

從三位勳三等、理學博士、東京帝 國大學名譽教授、岐阜縣土族

脇村市太郎

田邊銀行(株)監査役、藥劑師 和歌山縣在籍

脇本幸三郎

大矢組(株)監査役、脇島、醫師商、 大阪府在籍

脇本米司

從五位勳五等、鴻池組(株)專務取 締役、奈良縣在籍

子となり(大阪、港、池島町一ノ三五)
参照 水田富太郎の項

脇谷洋次郎

從五位勳五等、朝鮮總督府水産試驗場技師、水産試驗場長
愛媛縣士族
妻 眞 明八、七生、東京、松本はな養子
養子 隆 史 大八、一生、愛媛、三好貞記二男
養子 ノブ 明三七、二生、愛媛、三好貞記二女

脇山啓次郎

長崎縣多額納稅者、長崎商會議所副會頭、長崎紡織、長崎自由倉庫、長崎製糖、九州汽船、九州鐵道、小濱地方鐵道各(株)取締役、長崎電氣軌道、長崎株式取引所、長崎水、九州製菓、對馬商船各(株)監査役、入米屋、貿易商、長崎縣在籍
妻 トモ 慶應元、五生、長崎、相部清三長女
男 良 雄 明四一、一生
養子 勘 助 岸高丈夫弟
女 信 子 明二六、七生、養子勘助妻

一ニ生、亡姉ウタニ(二女)は長崎縣人松岡信吉の養子となり(長崎市浦五島町二二二)
参照 浦島長右衛門の項

浦島幾藏

獎惠銀行(株)常務取締役
鳥取縣在籍
父 政 平 弘化四、九生、鳥取、椿爲三郎四男
妻 しづ 明一二、四生、鳥取、林利藏妹
男 昌 雄 明三三、七生
男 正 美 明三七、六生

浦島長右衛門

鳥取縣多額納稅者、獎惠銀行(株)頭取、農業、鳥取縣在籍
母 いよ 嘉永六、三生、鳥取、椿六次郎二女
妻 増 枝 明一八、一生、鳥取、上杉淳吉長女、京都淑女學校出身
男 克 己 明三〇、九生、早稻田大學出身
女 華 枝 明四〇、一生、長男克己妻、鳥取、入澤藤長女、鳥取高等女學校出身

浦島利兵衛

鳥取縣多額納稅者、獎惠銀行(株)取締役、農業、鳥取縣在籍
妻 さき 明一〇、四生、鳥取、浦島長右衛門妹
女 英 子 明三七、二生
女 美 子 明三九、六生
女 眞 佐子 明四三、六生
女 眞 佐子 大元、二生

分目寅治

千葉縣多額納稅者
妻 やす 千葉縣在籍
男 巖 夫 明四、四生、千葉、分目吉五郎二女
女 悦 明三三、七生
女 浪 江 明三八、一生、長男巖夫妻、千葉、長谷川隆造姪
女 靜 江 明三八、一生
女 賢 明二八、七生
女 眞 子 明三四、四生、繼子賢妻、千葉、伊藤彌吉五女
女 眞 子 明三三、七生、繼子賢妻、千葉、伊藤彌吉五女

鷲尾久太郎

兵庫縣多額納稅者、阪神國道電氣、洛東再整各(株)監査役、酒造業、兵庫縣在籍
妻 とよ 明一八、七生、兵庫、三木堀二妹
男 東太郎 明四一、一生

鷲尾清太郎

兵庫縣多額納稅者、酒造業
妻 とよ 慶應元、五生、大阪、中辻吉時妹
男 東太郎 明一八、七生、兵庫、三木堀二妹

鷲尾隆信

正四位勳七等、伯爵
妻 よね 明二〇、二生、伯爵清園寺經房庶子

鷲尾弘準

正五位勳五等、内閣統計局書記官、人口課長、中央統計委員會幹事、三重縣在籍
父 謙 方 萬延元、二生、岐阜、桑原寂藏四男、現戸主
妻 いさみ 明二三、九生、宮城、淺井春長五女
男 正弘 大九、三生
女 棟 大二、二生

鷲尾健治

正五位勳四等、山口高等商業學校長、新潟縣在籍
妻 正 廣二六、二生、京都、士、河瀬克廣二女

鷲尾洋治

明四三、一生
妻 道子 明四〇、七生

鷲尾庄八

新潟縣多額納稅者、石油商
妻 リカ 慶應元、五生、新潟、熊倉太郎七女
男 徳之助 明一二、四生
男 久藏 明二七、七生
男 明三三、四生
男 若杉藤吉四女

鷲尾光遍

正五位、男爵、石山寺貫主
妻 季子 明三二、四生、子爵持明院基揚妹
男 貴光 大六、一生

鷲尾庄八

新潟縣多額納稅者、石油商
妻 リカ 慶應元、五生、新潟、熊倉太郎七女
男 徳之助 明一二、四生
男 久藏 明二七、七生
男 明三三、四生
男 若杉藤吉四女

鷲尾隆信

正四位勳七等、伯爵
妻 よね 明二〇、二生、伯爵清園寺經房庶子

鷲尾庄八

新潟縣多額納稅者、石油商
妻 リカ 慶應元、五生、新潟、熊倉太郎七女
男 徳之助 明一二、四生
男 久藏 明二七、七生
男 明三三、四生
男 若杉藤吉四女

子謙仁(文久二、三生、植木徳次二男)あり兄隆順(明元、一一生)は男爵を授けられた一家を創立し光通當主にして姉房(同四、六生)は子爵三三子敬光の祖母たり(大阪、西成、粉濱町七六九)

鷺尾徳之助

父 庄八 弘化三、一一生、現戸主
妻 キシ 明二、一一生、新潟、駒形字太七姉

君は新潟縣人鷺尾庄八の長男にして明治十二年四月を以て生れる現時六十九銀行専務取締役にして傍ら前掲銀行會社の重役を兼ね長岡商工會議所副議長に推される家族は尙二男英治(明四二、一一生)三男三郎(同四五、三生)あり(長岡、表町五丁目)
參照 駒形字太七、鷺尾庄八、坂井權吉の項

鷺尾彦兵衛

父 明元、四生、和歌山、岩崎文右衛門長女
妻 明二、一一生、山梨、上小澤松枝二女

君は大阪府人先代彦兵衛の庶子にして明治三十五年二月を以て生れる大正六年家督を相続し現時前名管次郎を改む羅紗製産品商を営む家族は尙弟彦三郎(明三八、二生)同喜代彦(同四一、一一生)妹ふみ(同四四、四生)あり姉きく(同三四、二生)は大阪府人宮城義春に嫁せり(大阪、東、伏見町四ノ一三電本局五八六)

鷺尾潜

父 從五位勳五等、判事、小田原區裁判所判事兼横濱地方裁判所判事 神奈川縣土族
妻 明二、一一生、山梨、上小澤松枝二女

君は山梨縣人上小澤松枝の甥にして明治十一年五月を以て生れる先代公磨の養子となり同四十四年家督を相続す同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し同四十二年判事に任じ爾來延岡區下妻區水戸區同地方補和地

同區新潟縣三條區須賀區同地方八王子區各裁判所判事に歴補し大正十三年小田原區裁判所に轉じ現に横濱地方裁判所判事を兼ね(神奈川、足柄下、小田原町)

鷺尾勇平

父 日清紡績(株)取締役
妻 安政五、五生、新潟、赤塚四六六女

君は新潟縣人鷺尾甚平の長男にして明治十六年十二月を以て生れる大正十一年家督を相続す明治四十一年東京帝國大學工學部機械工學科の出身にして同年日清紡績會社に入り同社工場長に榮轉す同六年辭して東京紡績會社に入り同社技師長となりしも再び日清紡績會社に入り現に同社取締役たり(日清紡績會社の爲米國を歴遊す家族は尙二男忠平(大二、二生)四男龍平(同五、一一生)二女花子(同七、一一生)六男尚平(同九、二生)三女八重子(同一一、一一生)三男勝丸(同一二、一一生)四女澄子(同一一、一一生)あり三男三郎(同一二、一一生)は新潟縣人伊藤仁太郎に五男俊平(同六、一一生)は新潟縣人小泉マサの養子となり(東京、本郷、駒込神町三二〇電小石川四六八)

君は新潟縣人鷺尾重次郎の二男にして明治十一年七月を以て生れる同四十二年家督を相続し前名榮作を改む大和屋と稱し白糖砂糖商を営む家族は尙弟重一郎(明四四、九生)あり妹ヨキ(同七一、七生)は東京府人松屋三四郎に嫁せり(東京、神田、多町一ノ六電神田二四八)

鷺川重次郎

父 大和屋、白糖砂糖商
妻 安政二、七生、亡鷺川直七長女

鷺野米太郎

父 從七位、太平洋海上火災保險(株)専務取締役、神戸信託(株)取締役 京都府在籍

君は東京府人先代重次郎の二男にして明治十一年七月を以て生れる同四十二年家督を相続し前名榮作を改む大和屋と稱し白糖砂糖商を営む家族は尙弟重一郎(明四四、九生)あり妹ヨキ(同七一、七生)は東京府人松屋三四郎に嫁せり(東京、神田、多町一ノ六電神田二四八)

男長女)との間に三女あり妹(ルノ)(同二〇、三生)は新潟縣人綿貫市作長男忠治に嫁せり(旭川、地方裁判所長官舎)

綿貫清久

父 第三十六銀行、日本晝夜銀行、秋田瓦斯各(株)監査役、東京府土族
妻 明元、八生、東京、染木兼吉妹

君は東京府土族綿貫元吉の長男にして萬延元年九月を以て生れる後家督を相続す現時第三銀行に入り協議役たりしも大正十三年安田銀行に合併の爲退職し現時前記銀行會社の重役たり(東京市外東町一ノ一一電大塚一八二六)

綿貫助次郎

父 荏原土地(株)社長、土地商會(株)専務取締役、鐵屋、銅鐵商
妻 明五、四生、東京、古田庄助妹

君は東京府人梅岡平七の叔父にして慶應三年九月を以て生れる先代知照の養子となり明治二十二年家督を相続す鐵屋と號し銅鐵商を営み傍ら前記各會社の重役を兼ね家族は尙孫孝子(大八、一一生、長男要之助長女)同順之助(同三、一一生、同長男)同善之助(同二、一〇生、二男武之助長男)あり長女半(明二四、一一生)は大坂府人奥傳八郎に嫁し三女和鹿(同三八、四生)は東京府人黒澤こうの死跡を相続せり(東京市外馬込町八幡丸三三九九)

綿貫實

父 日本勧業銀行(株)福岡支店主事
妻 慶應二、一一生、福岡、江崎リユウ養母

君は大阪府人先代忠兵衛の長男にして明治十一年十二月を以て生れる同四十二年家督を相続し現時前名金次郎を改む資産家として知らる家族は尙二男嘉藏(大五、一一生)二女久(同八、九生)あり弟忠誠(明一四、三生)は其妻マツエ(同二〇、一一生、奈良、井上竹治郎姪)と共に其二子を伴ひ妹はつ(同二五、八生)は其一子を伴ひ各分家し同まき(同二五、七生)も亦分家せり(大阪、港、古川町一七電西二五二九)

巨理章三郎

父 正五位、東京高等師範學校教授
妻 八重 明一二、四生、東京、谷政精長女

渡干城

父 武州銀行(株)東京支店支配人
妻 安政二、八生、愛媛、土、松根権六妹

綿貫實

父 日本勧業銀行(株)福岡支店主事
妻 慶應二、一一生、福岡、江崎リユウ養母

君は高知縣人桶武三郎の長男にして明治十六年七月を以て生れる同三十六年先代繁馬の養子となり同三十七年家督を相続す同四十二年東京高等師範學校を卒業し後京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し臺灣國語學校教授兼同學校教諭京都府愛宕郡長等を經て京都市助役兼議院議員等に擧げらる現時前記會社の重役たり家族は尙二男雄二(大八、五生)長女富美子(同九、七生)三男憲三(同一一、六生)あり(京都、上京、岡崎南御所町電上二八四〇)

鷺山良三郎

父 新瀨銀行(株)常務取締役
妻 明六、一一生、富山、長岡久左衛門

君は石川縣土族榮野喜平の二男にして安政五年一月を以て生れる先代五左衛門の養子となり後家督を相続す現時新瀨銀行常務取締役たり家族は尙弟敏吉(明四四、五生)養子良作長男(同四一、一一生)同登美子(大四、一〇生)同二女あり二女貞子(同三七、一一生)は富山縣人菅池岩吉長男清一に嫁せり(富山、新瀨町)

君は新潟縣人綿貫權四郎の長男にして明治八年十一月を以て生れる同三十七年東京法學院を卒業し判事登用試験に合格同三十九年判事に任じ爾來根室地方同區札幌地方同區各裁判所判事兼札幌控訴院院長に歴補し昭和二年旭川地方裁判所長に補せらるる家族は尙三男隆夫(大〇、一〇生)二女百合子(同一一、三生)三女隆子(同二八、四生)同妻マツト(同三四、六生、新潟、伊東清

綿貫清隆

父 正五位勳五等、判事、旭川地方裁判所長、新潟縣在籍
妻 嘉永三、一〇生、現戸主

君は兵庫縣人巨理直方の三男にして明治六年三月を以て生れる同三十四年別れて一家を創立す現時第一高等中學校に學び同三十五年高等師範學校附屬中學校修身科講師を囑託せられ現時東京高等師範學校教授たり家族は尙三男達郎(大三、一〇生)四男國郎(同七、六生)五男民郎(同二〇、二生)あり(東京、小石川、小日向臺町一ノ四五電小石川六三五)

君は舊仙臺藩士巨理胤元の長男にして明治十一年四月を以て生れる後家督を相続す現時大坂に遊び畜産學を専攻し兼て政治學を研究す歸朝後農事改良に盡力して屢々表彰せられ又子弟育英の事に關し盡す所勢からず義宮城縣郡部より推されて衆議院議員に當選する事二回大正三十四年事件の功により勳四等に敘せらるる現に朝鮮拓殖會社々長たり伯母い(慶應三、一一生)は宮城縣士族但木乙楠に嫁せり(東京市外日黒町上日黒五九四)

巨理胤正

父 勳四等、朝鮮拓殖(株)社長
妻 萬延元、六生、宮城、土、片平敬二女

君は舊仙臺藩士巨理胤元の長男にして明治十一年四月を以て生れる後家督を相続す現時大坂に遊び畜産學を専攻し兼て政治學を研究す歸朝後農事改良に盡力して屢々表彰せられ又子弟育英の事に關し盡す所勢からず義宮城縣郡部より推されて衆議院議員に當選する事二回大正三十四年事件の功により勳四等に敘せらるる現に朝鮮拓殖會社々長たり伯母い(慶應三、一一生)は宮城縣士族但木乙楠に嫁せり(東京市外日黒町上日黒五九四)

渡干城

父 武州銀行(株)東京支店支配人
妻 安政二、八生、愛媛、土、松根権六妹

君は舊仙臺藩士巨理胤元の長男にして明治十一年四月を以て生れる後家督を相続す現時大坂に遊び畜産學を専攻し兼て政治學を研究す歸朝後農事改良に盡力して屢々表彰せられ又子弟育英の事に關し盡す所勢からず義宮城縣郡部より推されて衆議院議員に當選する事二回大正三十四年事件の功により勳四等に敘せらるる現に朝鮮拓殖會社々長たり伯母い(慶應三、一一生)は宮城縣士族但木乙楠に嫁せり(東京市外日黒町上日黒五九四)

渡干城

父 武州銀行(株)東京支店支配人
妻 安政二、八生、愛媛、土、松根権六妹

君は舊仙臺藩士巨理胤元の長男にして明治十一年四月を以て生れる後家督を相続す現時大坂に遊び畜産學を専攻し兼て政治學を研究す歸朝後農事改良に盡力して屢々表彰せられ又子弟育英の事に關し盡す所勢からず義宮城縣郡部より推されて衆議院議員に當選する事二回大正三十四年事件の功により勳四等に敘せらるる現に朝鮮拓殖會社々長たり伯母い(慶應三、一一生)は宮城縣士族但木乙楠に嫁せり(東京市外日黒町上日黒五九四)

渡干城

父 武州銀行(株)東京支店支配人
妻 安政二、八生、愛媛、土、松根権六妹

渡干城

父 武州銀行(株)東京支店支配人
妻 安政二、八生、愛媛、土、松根権六妹

渡干城

父 武州銀行(株)東京支店支配人
妻 安政二、八生、愛媛、土、松根権六妹

せられ鶴岡間候付ける君は其二男にして明治十四年六月を以て生れ大正十三年家督を相續す早稲田大學の出身にして現時武州銀行東京支店支配人たり家族は尙弟久雄(明一八、一〇生、陸軍歩兵少佐)同妻園生(同二七、九生、島根、桑原半次郎二女)及其二子同亮之介(同二〇、七生)同妻瀧子(同三二、二生、香川、八木久太郎四女)同左近(同二六、七生、陸軍歩兵大尉)同妻瀧子(同三九、九生、陸軍中將川瀬亨長女)及其一子同正監(同三〇、九生、法學士)同妻鶴子(同三八、三三、埼玉、尾高豊作妹)及其三子あり姉アツ(同二二、九生)は東京府人小林龜次郎に妹千代子(同二二、二)は醫學博士小池重に嫁せり(東京、麹町、永田町一ノ一六電線番二二二三)

參照 瀧田徳則、尾高豊作、川瀬亨、桑原半次郎、小池重太郎、伊達宗經、大川平三郎、赤金彩英、五郎、宗野宗三、永田田甚之助、横尾孝之亮の項

渡會三郎 従五位勳四等、地方技師、山口縣勤務、愛知縣在籍
 男 浩 明四四、一一生
 女 文子 明三九、四生
 妻 章子 明四二、七生
 女 壽枝子 大九、九生

君は愛知縣人渡會八郎の長男にして明治九年八月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治二十四年大日本水産會館所を卒業し愛知縣岡崎支店となり同四十二年青森縣技師に進み長崎縣技師に轉じ現時地方技師にして山口縣に勤務して水産試験場瀬戸内海分場長を兼ねる家族は尙四女あり(大九、二生)五女あり(同六、九生)三男あり(同九、三三)あり(山口、吉敷、山口町新道)

渡井八郎治 静岡縣多額納税者、吳服商
 男 八郎 大九、一一生
 妻 三女 明二二、八生、静岡、遠藤恒太郎

君は静岡縣人先代八郎治の孫にして明治十七年九月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名晴太郎を改め異名ヲ吳服商を營み現に同縣多額納税者たり家族は尙二男長七郎(大五、七生)三男三郎(同九、九生)長女和賀子(同四、三三)二女越子(同五、九生)あり(静岡、富士、今泉村)
 參照 瀧田大八郎の項

君は香川縣人瀧瀨岩太郎の長男にして慶應二年十月を以て生れ明治十九年家督を相續す現時前記銀行會社の重役にして香川縣多額納税者たり家族は尙孫嘉夫(大八、五生、養子政近長男)同富美恵(同〇、九生、同長女)同公子(同三三、一一生、同二女)あり弟平次郎(明一〇、八生)養子通(同二二、一一生、香川、藤井資信二男)は各分家し叔父秀造(安政元、八生)も同妻シゲ(文久三、四生、香川、津島彦太郎妹)及其子を伴ひ分家せり(香川、大川、福榮村)
 參照 男爵寶島政一の項

瀧瀨岩太郎 香川縣多額納税者、日本花産、うきよたひ製織、帝國製菓、四國紡績各株取締役、農業、香川縣在籍
 男 貞 明三二、七生、明治大學出身
 妻 政 賀島政一弟
 女 歳子 明二八、八生、養子政近妻

君は香川縣人瀧瀨秀造の長男にして明治十二年六月を以て生れ同二十五年家督を相續す現時大川製練會社取締役たり現に香川縣議員同參事會員に擧げらるる弟男(明一四、一一生)は香川縣大府直三郎に同富藏(同二六、一一生)は同縣人津島彦太郎四郎に同正慶(同一九、三三)は同縣人神邊太藏に同正慶(同二二、五生)は同縣人徳田泰造に各養子となれり(香川、大川、福榮村)
 參照 神邊正徳の項

瀧瀨卯太郎 大川製練(株)取締役
 君は香川縣人瀧瀨卯太郎の長男にして明治十二年六月を以て生れ同二十五年家督を相續す現時大川製練會社取締役たり現に香川縣議員同參事會員に擧げらるる弟男(明一四、一一生)は香川縣大府直三郎に同富藏(同二六、一一生)は同縣人津島彦太郎四郎に同正慶(同一九、三三)は同縣人神邊太藏に同正慶(同二二、五生)は同縣人徳田泰造に各養子となれり(香川、大川、福榮村)
 參照 神邊正徳の項

渡瀨三郎 從三位勳二等、理學博士、東京帝國大學名譽教授、東京府在籍
 君は東京府人渡瀨源四郎の三男にして同雅太郎の叔父なり文久二年十一月を以て生れ明治三十二年別れて

君は秋田縣人渡部徳七の長男にして明治十三年一月を以て生れ同十六年先代養兄尙造の後に家督を相續す農業を營み現に秋田縣多額納税者たり家族は尙五女あり(大六、三三)六女あり(同八、六生)三男正義(同二〇、一〇生)七女有一生、一一生(四男正博(昭二、五生)あり弟定章(明一五、五生)は秋田縣人山田五平の養子となり二男正直(大三、一一生)は其の養子となり妹ギン(明二〇、九生)は同縣人藤原庫原之助長男光義に嫁せり(秋田、南秋田、掛戸村)
 參照 中田定章の項

渡部孝四郎 吉田銀行(株)頭取、瑞穂村長
 妻 しん 山梨縣在籍、米山精一妹
 男 幸一 明三三、一一生、静岡、關澤太郎三女

君は山梨縣人渡部九郎の三男にして文久二年二月を以て生れ明治二十年家督を相續す同地の名望家にして吉田銀行頭取に擧げられ又瑞穂村長たり會て宮川電燈會社重役を兼ね(山梨、南都留、瑞穂村)

渡部卯平 愛媛縣多額納税者、日本織物(株)取締役、吳服雜貨商、愛媛縣在籍
 妻 マサ 長女
 男 一八、六生、愛媛、大塚百太郎

君は愛媛縣人先代卯平の長男にして明治七年三月を以て生れ同十四年家督を相續し前名久雄を改む吳服雜貨商を營み日本織物會社取締役に於て現に愛媛縣多額納税者たり家族は尙甥章正(大一〇、二生、養弟正宜三男)あり養弟正宜(明一九、二生、愛媛、久山庄十郎二男)姪武(同三七、二生、亡弟正俊長女)は各分家せり(松山、本町)

君は兵庫縣人山本虎之介の弟にして明治七年七月を以て生れ先代多温の養子となり同三十年家督を相續す國有館と稱し旅館業を營む養父多温(嘉永四、九生)は大坂府人岸本ひさの夫人となり長女和(明二七、一一生)は同縣人古澤義三に二女よね(同三二、一一生)は兵庫縣人山口嘉太三男武雄に養女ふく(同二二、七生)は同縣人坂井清市郎に嫁せり(大阪、北、東梅田町三〇六電北二二七七)

渡瀨善吉 國有館、旅館業
 男 謙 明四〇、六生
 妻 くら 明八、七生、養父多温長女

君は兵庫縣人山本虎之介の弟にして明治七年七月を以て生れ先代多温の養子となり同三十年家督を相續す國有館と稱し旅館業を營む養父多温(嘉永四、九生)は大坂府人岸本ひさの夫人となり長女和(明二七、一一生)は同縣人古澤義三に二女よね(同三二、一一生)は兵庫縣人山口嘉太三男武雄に養女ふく(同二二、七生)は同縣人坂井清市郎に嫁せり(大阪、北、東梅田町三〇六電北二二七七)

渡瀨雅太郎 東京興業園主
 母 かめ 正達妹、一一生、埼玉、土、相田
 妻 キミ 助長女、三三、北海道、佐藤藏之

當家は世々幕臣として徳川氏に仕へ先代寅次郎に至る寅次郎門に札幌農學校を卒へ同藩に志し農具種苗輸出入業を創め興業園の名全國に知らるる君は其長男にして渡瀨三郎の男なり明治十七年十一月を以て生れ大正十五年家督を相續す早稲田大學に學び後國視察の爲め渡米す遺業を繼承して東京興業園を經營す家族は尙弟三郎(明二八、二生、東京農學院大學出身)同妻長子(同三九、六生、山口、福原榮太郎三女)同昌四(同三七、四生、東京帝國大學法學部在籍)同成美(同四〇、九三)あり妹はな(同一九、二生)は長野縣人小坂順造に同

渡部善兵衛 名古屋土地建物(株)社長、名古屋殖産(株)取締役、大阪株式取引所取引員、岐阜縣士族
 妻 英夫 明三一、九生
 男 英夫 明三一、九生

君は岐阜縣人和田長九郎の弟にして明治十二年二月を以て生れ先代保平の養子となり同十九年家督を相續す大阪株式取引所一級取引員にして現時前記會社の重役たり家族は尙孫鏡一(大一五、二生、長男英夫庶子)生母、岐阜、岩越祐子(大一五、二生)は山形縣人藤田三右衛門長男繁吉に嫁せり(東京、本郷、駒込上富士前町一五電小石川七四五六)
 參照 小田切良太郎、岡本英太郎、脇水鐵五郎、關屋貞三郎の項

渡部信 正五位勳三等、宮内事務官、宮内省參事官、大官房文書課長
 妻 コト 弘化四、七生、栃木、寺山季三郎

君は栃木縣人渡部徳の二男にして明治十七年八月を以て生れ同三十七年家督を相續す同四十四年東京帝國大學法學部法科を卒業し宮内省參事官兼式部省官事務官等に歴任し現時宮内事務官兼宮内省參事官にして大官房文書課長たり妹澁子(明七、三三)は理學博士脇水鐵五郎に同壽子(同二二、二生)は栃木縣人小田切良太郎に同敬子(同四一、一一生)は大坂府人岡本英太郎に同ヨシ(同二二、三三)は山形縣人藤田三右衛門長男繁吉に嫁せり(東京、本郷、駒込上富士前町一五電小石川七四五六)
 參照 小田切良太郎、岡本英太郎、脇水鐵五郎、關屋貞三郎の項

渡部善兵衛 名古屋土地建物(株)社長、名古屋殖産(株)取締役、大阪株式取引所取引員、岐阜縣士族
 妻 英夫 明三一、九生
 男 英夫 明三一、九生

君は岐阜縣人和田長九郎の弟にして明治十二年二月を以て生れ先代保平の養子となり同十九年家督を相續す大阪株式取引所一級取引員にして現時前記會社の重役たり家族は尙孫鏡一(大一五、二生)は山形縣人藤田三右衛門長男繁吉に嫁せり(東京、本郷、駒込上富士前町一五電小石川七四五六)
 參照 小田切良太郎、岡本英太郎、脇水鐵五郎、關屋貞三郎の項

渡部勉 新潟縣多額納税者、關川電力(株)取締役、中央電力第一製氷各(株)監査役、農業、新潟縣在籍
 妻 香和 明八、一一生、新潟、芳澤謙吉妹
 養子 多仲 明三一、三三、長女菊江夫、新潟、羽深信四郎長男
 女 菊江 明三六、一一生、養子多仲妻
 女 光子 明四三、一一生

君は新潟縣人山本虎之介の弟にして明治七年七月を以て生れ先代多温の養子となり同三十年家督を相續す國有館と稱し旅館業を營む養父多温(嘉永四、九生)は大坂府人岸本ひさの夫人となり長女和(明二七、一一生)は同縣人古澤義三に二女よね(同三二、一一生)は兵庫縣人山口嘉太三男武雄に養女ふく(同二二、七生)は同縣人坂井清市郎に嫁せり(大阪、北、東梅田町三〇六電北二二七七)

を相續し前名清太郎を改め親名才農業を営み傍ら農戸川電氣會社重役にして福島縣多額納稅者たり家族は尚養子ナツ(六七、七生、福島、眞船市之助三女)あり妹イク(明四一、五生)は福島縣人眞船市之助長男眞一郎に嫁せり(福島、西白河、信夫村)

渡邊市藏 熊本縣多額納稅者、熊本米穀取引所取引員、熊本縣在籍
妻 クラ 明二〇、七生、佐賀、山本辰次郎妹
男 亨 大八、二生
女 千代子 明四五、六生

君は佐賀縣人木下儀平の二男にして明治十三年一月を以て生れ後先代嘉平の養子となり同二十九年家督を相續す熊本米穀取引所取引員にして熊本縣多額納稅者たり家族は尙三女チカエ(大五、一、二生)四女フミ子(同一二、八生)あり(熊本市細工町)

渡邊市太郎 中外印刷株式社長
東京府在籍
妻 るい 長一八、二生、東京、飯沼久太郎長女
男 一郎 明三〇、八生、中外印刷株式社員
男 明三〇、八生、中外印刷株式社員
女 明三五、一〇生、長男
女 知、平松喜三治五女
男 清 明三九、三三、中外印刷株式社員
男 八重子 明四三、四生、跡見女學堂出身

君は愛知縣人渡邊市郎左衛門の長男にして明治六年十二月を以て生れ同二十五年家督を相續す其の郷國を出で日本各地を遍歴し史蹟資料の蒐集に勤め一府十三縣の名蹟誌を著し合資會社光影堂を創立す忠勇顯彰會委員を囑託せられ大正四年中外印刷株式を創設し現に同社取締役社長たり家族は尙四男眞船(明四五、三三)六男信雄(大八、四生)孫昌子(同一〇、一、一生、長男一)長女同文子(同一二、二生、同一三、同一四、同一五、一生、長男)及び妹キク(同一二、二生)あり七男元雄(大九、三三)孫七つ、同一六、三三、長男一郎二女は共に長野縣人高橋つゆの養子となれり(東京、牛込、中里町一九電牛込二一四七三)

渡邊嘉一 勳五等、工學博士、伊那電氣鐵道、朝鮮鐵道、東洋電機製造、諏訪電氣鐵道、東京土地、機織、印刷各(株)社長、京阪電氣鐵道、京王電氣鐵道、奈良電氣鐵道、中央電化工業各(株)取締役、大同電力、東京電氣興業、鶴見臨海鐵道、國際汽船、大日本鹽業各(株)監査役、東京市川島造船所(株)監査役、東京府土族

當家は代々徳川家旗本能勢家に仕ふ先々代宗輔子なく因て折三を養ふて嗣となす折三は清賀奉行の奥力を勤めたる朝夷權十郎の三男なり維新の際榎本武揚等と五稜廓に據り歸順後政府に仕へ累進して海軍汽機總監須賀造船所長に陞り從四位勳三等に叙せらる君は長野縣人宇治橋八十太郎の弟にして安政五年二月を以て生れ先代折三の養子となり大正二年家督を相續す先是明治十六年舊工部大學校を卒業し工學士となり工部技師を拜命し鐵道局勤務を命ぜらる翌十七年職を辭して英國に航しグラスゴー大學に學び O.E., M.Sc. の學位を得て卒業後サア・ジョン・フワウラー及びサア・ベンジャミン・ベーカー工務所技師見習生となり尋で同所技師に進み世界第一の鐵橋たるフオース・ブリッジの工事を監督せり又同國在留中間を以て佛獨蘭白の工業狀況を視察す同二十一年歸朝日本土木會社の技師部長を囑せられ同二十五年參宮鐵道會社技師長となり尋で同會社々々技師長に擧げられ同三十一年北越鐵道會社技師長に推され同三十二年工學博士の學位を受け後成田鐵道電氣鐵道京都市電氣鐵道關西五福島木材會社の取締役を兼任し又大正十四年帝國鐵道協會の名譽會員に推せらる現時前掲諸會社の重役として斯界に重きをなせり家族は尙孫嘉男(六一

養父 小三郎 嘉永二、八生、山口、平田惣左衛門
養母 コマツチ 嘉永五、七生、養祖父親長女
妻 カツ 明一〇、八生、神奈川、太田榮藏
男 裕 明二九、九生
女 旭子 明三六、七生、長男裕妻、東京、佐藤正武三女
女 千代 明三九、一〇生
女 幾 明四一、一一生
女 幾 明四五、二生

君は山口縣士族渡邊善政の二男にして慶應二年十二月を以て生れ先代小三郎の養子となり大正六年家督を相續す明治二十一年陸軍砲兵少尉に任じ大正七年陸軍中將に擢進す其の間砲工學校教官砲兵會議々員陸軍省副官兼陸軍大臣秘書官砲兵第一聯隊長廣島海軍要塞司令官由良要塞司令官砲兵監等に歷補し同十二年豫備役被仰付長女長(明二八、一)は山口縣人壽藤二郎に嫁し妹しめ(同元、五)は同縣人渡邊勉の死跡相續人となれり(東京、牛込、市谷山伏町六)

渡邊榮次 大阪府多額納稅者、東亞煙草(株)監査役、渡邊(名)代表社員
大阪府在籍
妻 トモ 明三三、一一生、福岡、石村卯三郎長女
男 明三三、一一生、福岡、石村卯三郎長男
養子 肇 明四三、三二生、福岡、石村卯三郎長男

君は鹿児島縣人渡邊清七の弟にして慶應元年正月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現時渡邊合名會社代表社員たる外東亞煙草會社の重役にして大阪府多額納稅者たり養子勢伊(明三八、二生、東京、龜澤半次郎長女)は京都府人藤本船に嫁せり(大阪、港、北境川町三ノ三五電西六九六)
參照 龜澤半次郎の項

渡邊榮太郎 實業家
東京府在籍
母 いま 文久二、七生、神奈川、今井清兵衛長女
妻 ウタ 明二七、二生、神奈川、今井四郎兵衛三女

二、四生、二男皆二長男、同榮男(同一三、一〇生、同二男)同光男(同一五、七生、同三男)あり長女クビ(明一七、二生)二女久江(同一二、二生)は各分家し三女晴江(同一六、七生)は理學博士本間賢介に四女幸江(同一二、八、四生)は法學士本間賢介に四女幸江(同一二、八、四生)は慶應義塾大學經濟科出身、大同電力會社員(は姉くに養第五八(同一九、五)生)は錦鶏間祇候古川阪太郎に各養子となれり(東京、赤坂、表町三ノ一三電青山三五〇〇・五七〇)
參照 原田鎮治、古川阪太郎、渡邊重次郎、渡邊平野兵衛の項

渡邊嘉兵衛 三重縣多額納稅者
三重縣在籍
妻 菊枝 明二〇、一一生、三重、夏目忠平三女
男 嘉彦 明三七、八生
男 善次郎 明三九、一一生
女 親 明四一、一一生

君は三重縣人渡邊太郎兵衛の二男にして明治十二年八月を以て生れ同二十三年祖父嘉兵衛の家督を相續し前名善彦を改め親名才農商にして三重縣多額納稅者たり家族は尙四男武(大元、一)生)二女佐枝(同三、二)生)五男通治(同五、五)生)三女久香(同八、三)生)あり(三重、北平、相賀村)

渡邊楷助 金森商船、大東橋寸各(株)取締役
北海道在籍
妻 モト 次郎妹
男 孝一郎 明四二、五生
君は靜岡縣人長野豐太郎の弟にして明治十四年六月を以て生れ同三十九年先代モトの入夫となり家督を相續す現時前掲會社の重役たり家族は尙二男孝二郎(明四四、一)生)三男忠大(二、五)生)長女ふし代(同四、四)生)二女孝代(同八、九)生)あり(函館、仲濱町四)

渡邊 薫 日本化學鐵業(株)取締役
東京府在籍
妻 はま 明四八、八生、明石重兵衛三女
男 秀 明二六、七生、養父榮次郎二女
男 秀 明一三、一一生

君は東京府人渡邊長次郎の二男にして明治二十一年十月を以て生れ大正五年家督を相續す資産家にして商店員たり(東京、京橋、濱町一〇)

渡邊音次郎 渡邊商事(株)取締役、貿易商
東京府在籍
妻 辰子 明三六、八生、埼玉、齋藤誠之丞
男 文 朗 大一、五生

君は北海道人渡邊四郎の二男にして明治二十九年二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す同十年東京帝國大學法學科を卒業し貿易商及電氣工業を營み傍ら渡邊商事株式會社取締役たり家族は尙長女禮子(昭二)生)あり(東京、小石川、大塚仲町四一電大塚一九三三)
參照 渡邊四郎の項

渡邊溫行 正五位勳三等功四級、陸軍々醫監、渡邊檢温器製作所社長、計量器商
東京府土族
妻 りう 明六一、一〇生、兵庫、辻密太郎妹
男 直行 明二八、四生
女 正恵 明二二、九生
男 信行 明三七、一一生
男 光行 明四一、一一生

君は愛媛縣士族渡邊伸蔵の長男にして先代幸安の弟なり慶應元年一月を以て生れ後家督を相續し明治二十三年舊名孤太郎を改め其に陸軍々醫となり同軍醫監に累進す渡邊檢温器製作所は個人經營に成る政府免許計量器製作所にして硝子製造工場を兼營し現時男重知行行専ら之に従事せり家族は尙六男定行(明四二、一)生)あり二女シズカ(同二四、一)生)は埼玉縣人梅田滋太郎長男陸軍二等軍醫正藤三三女(同二七、一)生)は山形縣人陸軍二等軍醫正竹俊一三女(同三〇、一)生)は東北帝國大學教授理學博士窪田忠彦に嫁し二男重行(同三三、一)生)は其妻藤子(同三三、四)生)山梨、伴藤五女)及び一男を伴ひて分家し三男知行(同三五、七)生)も亦分家せり(東京市外千駄ヶ谷町七―三三四谷二二七)
參照 窪田忠彦、神村信五郎の項

渡邊勝三郎 從三位勳二等、東洋拓殖(株)總裁
岡山縣在籍
妻 ミサヲ 明一七、五生、東京、松本三郎長女
男 正夫 明三四、一一生
男 次郎 明三六、一一生
男 和夫 明三九、一一生
男 志郎 明四一、一一生
女 淑子 明四二、一一生、御茶の水高等女學校出身
女 富美子 明四四、一一生

君は岡山縣人渡邊徳一郎の三男にして明治五年一月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同年帝國大學法學科を卒業し文官高等試驗に合格爾來奈良廣島各縣參事官福島和歌山各縣書記官香川縣京都府各事務官徳島新潟長崎各縣知事内務省地方局長等を歴任す大正十年夏地方行政視察の爲め歐米に出張し歸朝後横濱市長に擧げられ大正十四年更に東京府拓殖會社總裁に推され今日に至る家族は尙六男敬五(大四、三)生)あり(東京市外落合町下落合五五二電牛込一七四八)
參照 松本三郎の項

渡邊勝三郎 從三位勳二等、東洋拓殖(株)總裁
岡山縣在籍
妻 ミサヲ 明一七、五生、東京、松本三郎長女
男 正夫 明三四、一一生
男 次郎 明三六、一一生
男 和夫 明三九、一一生
男 志郎 明四一、一一生
女 淑子 明四二、一一生、御茶の水高等女學校出身
女 富美子 明四四、一一生

君は岡山縣人渡邊徳一郎の三男にして明治五年一月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同年帝國大學法學科を卒業し文官高等試驗に合格爾來奈良廣島各縣參事官福島和歌山各縣書記官香川縣京都府各事務官徳島新潟長崎各縣知事内務省地方局長等を歴任す大正十年夏地方行政視察の爲め歐米に出張し歸朝後横濱市長に擧げられ大正十四年更に東京府拓殖會社總裁に推され今日に至る家族は尙六男敬五(大四、三)生)あり(東京市外落合町下落合五五二電牛込一七四八)
參照 松本三郎の項

渡邊勝三郎 從三位勳二等、東洋拓殖(株)總裁
岡山縣在籍
妻 ミサヲ 明一七、五生、東京、松本三郎長女
男 正夫 明三四、一一生
男 次郎 明三六、一一生
男 和夫 明三九、一一生
男 志郎 明四一、一一生
女 淑子 明四二、一一生、御茶の水高等女學校出身
女 富美子 明四四、一一生

渡邊保全、大正製米、大船田園都市各(株)社長、旭日生命保險(株)副社長、石波電機、東洋電機、拓殖製茶、日本製菓、日本製菓、和毛織、朝鮮製茶、三河鐵道各(株)取締役、渡邊同族、信越電力、滿蒙、毛織、東京株式取引所、内外宅各(株)監査役、東京府在籍
明一〇、七生、東京、鈴木吉五郎長女
妻 よし 明三三、一一生
男 初男 明三八、四生
男 次男 明四一、四生
男 三男 明四四、七生
女 靜尾 明四四、七生

治二十一年九月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す先是明治四十五年東京帝國大學理學科大學地質學科を卒業し農商務技師臨時時産調査局技師を経て大正十四年商工技師に任ぜられ現に地質調査所勤務たり義に英領印度及東アフリカに出張し又佛領印度支那を視察す家族は尙二男徳夫(大八、一出生)三男弘夫(同一、一出生)五男知夫(同一、一出生)あり(東京、小石川、宮下町二)

渡邊久三郎

愛知縣多額納稅者、國明相互保證(株)取締役、築地電報、大曾根土地各(株)監査役、愛知縣在籍
父 素 矢 明一四、七生、三重、乾覺郎二女
妻 政 二 明三四、六生

君は愛知縣人先代久三郎の長男にして明治六年二月を以て生れ同二十四年家督を相続し後前名信次郎を改む現時前記各會社の重役にして愛知縣多額納稅者たり家族は尙四男秀夫(大八、一出生)三女津矢子(同五、八生)あり妹くら(明九、三生)は愛知縣人寺田薫に同か(同一、一出生)は同縣人河津助次郎に同か(同三、五、七生)は同縣人中村京太郎に嫁し二男徳一郎(同三、五、九生)は同縣人龜井敏次郎長女ふさの養子となり三男恒三(同四、六生)は同縣人河津子爵の指定家督相続人となれり(名古屋、中、蘇鐵町七十七番西二七〇五)
參照 乾覺郎公齋藤悅誠の項

渡邊恭一郎

吳服商
君は福岡縣人渡邊三郎の弟にして明治四十二年三月を以て生れ大正二年分れて一家を創立す吳服商を督む(福岡市上四町一〇)
參照 渡邊與三郎の項

渡邊 競

從五位、鐵道局參事、東京鐵道局庶務課勤務、岡山縣土族
妻 雅 子 明三三、八生、岡山、目黒米二女
男 彦 大一一、七生

君は宮崎縣人渡邊宗太郎の長男にして安政五年三月を以て生れ明治十二年家督を相続す宮崎縣多額納稅者にして現に前記銀行會社の重役たり家族は尙孫太郎(大八、二生)養子仙千代長男(同二、同五、一〇生)同二男あり庶子國雄(同四、四生)生母、宮崎、山邊カメ(は宮崎縣人木下ソノの養子となれり(宮崎、東諸縣、本庄町)
參照 渡邊與三郎の項

渡邊國太郎

資産家
妻 さよ 明五、三生、東京、渡邊君之助養妹
男 信太郎 明三〇、九生
女 タケ 明三、一二生、二男信太郎妻、東京、鈴木次郎孫

君は東京府人渡邊善太郎の長男にして應元元年三月を以て生れ明治二十年家督を相続す資産家たり家族は尙孫政成(大一一、三出生)二男信太郎長男(同一、一出生)三、三出生、同長女(同一、一出生)三、三出生、同二女(同一、一出生)あり(東京、芝、白金三光町一一九)

渡邊熊四郎

函館貯蓄銀行、第一印刷各(株)取締役、北海道在籍
妻 ヒテ 明八、二生、養父熊四郎長女
男 熊 明二七、一〇生
女 壽 明三五、二生、長男熊藏妻、醫學博士弘田長六女、お茶水高等女學校出身
男 源三郎 明三二、一出生
女 徳子 明四〇、三出生、三男源三郎妻、北海道、藤田昌二女
女 文 明四〇、一〇生
女 福 明四一、九生
女 とも 明四二、八生
女 貞 明四五、六生

君は北海道人林松右衛門の二男にして應元元年十二月を以て生れ先代熊四郎の養子となり大正五年家督を相続し舊名源太郎を改め養子現に前掲諸會社の重役たり家族は尙孫洋子(大一一、五出生)長男熊藏長女(同源太郎(同一、一出生)同長男(同一、一出生)同長女、三男源三郎長男)あり祖母カツ(安政六、三出生)埼玉金子忠右衛門長女)は北海道人渡邊三郎の家籍に入り

官製局調査課長に歴任し大正十二年鐵道局參事となり同年支那に同十五年歐米に出張を命ぜられたる家族は長女至子(大一一、四出生)二女道子(同一、三出生)兄三郎(明五、五出生)現戸主姉美壽(同一、二出生)あり兄猛(同一、三出生)は岡山縣人赤木幸三郎の養子となれり(東京市外戸塚町上戸塚五七五番牛込四一六三)
參照 渡邊 清

渡邊 清

千葉縣多額納稅者、農業者
祖 母 千葉縣在籍
父 喜三郎 慶應元、三出生、千葉、高石重三郎
母 くら 明二、四生、祖父信太郎長女
妻 くとく 明二五、四出生、千葉、大家憲哉三女、日本女子大學家政科出身
男 彦 憲 大六、八生

君は千葉縣人渡邊喜三郎の二男にして明治二十五年五月を以て生れる現に東北帝國大學農科大學農學科を卒業し祖業を督み現に縣下の多額納稅者たり家族は尙二男正男(大八、六出生)の外弟昇三(明三、五、六出生)妹泰(同三、八出生)日本女子大學出身(弟保(同四、二出生)あり妹龍(同三、六出生)は滿洲教育專門學校ドクトル、オプ・フイロソフイー本多彦九郎に嫁せり千葉、市原、平三村)
參照 渡邊 混

渡邊 混

埼玉縣多額納稅者、武州銀行(株)取締役、農業者、埼玉縣在籍
父 文久三、一出生、東京、齋藤君之助
妻 トリ 養母 明二二、三出生
男 世 仰 明三〇、四出生、長男世仰妻、茨城、小倉政三郎六女
女 ヤナ 明三〇、四出生、長男世仰妻、茨城、小倉政三郎六女

君は埼玉縣人渡邊義智の長男にして應元二年一月を以て生れ明治十六年家督を相続す農業者を督み同縣多額納稅者にして現時武州銀行取締役たり家族は尙三男義(明四、二、二出生)孫任(大九、三出生)長男世仰(長男)同實(同一、一出生)同二男(同一、一出生)同三男(同一、一出生)あり二女芳枝子(明二、五、八出生)は東京府人黒田善太郎に三女吉報子(同二、七、九出生)は山口縣人別府總太郎に四女和壽子(同三、八、八出生)は同縣人瀬藤和太郎に妹千代(同一、三、六出生)は東京府人齋藤君之助長男龜之丞に同婚(同一、五、七出生)は同府人太田貴長長男一に

二男晋次郎(明二、九、二出生)伯母雪子(同三、三、二出生)は各分家し長女孝(同三、五、一出生)は東京府人中村善吉に二女道(同三、七、四出生)は兵庫縣人本山正名に嫁し養妹フジ(大元、九出生)は大分縣人藤田温五郎の養子となれり(函館、末廣町一〇四)
參照 弘田長、藤田昌、渡邊晋次郎、大塚伸次郎、藤田一、瀧田嘉一郎、淡古谷辰四郎の項

渡邊敬衛門

熊本縣多額納稅者、藥種商
妻 マモ 慶應元、一〇生、熊本、志村權作妹
男 光 明二七、一出生、長男光雄妻、熊本、中島仁一郎二女
女 安代 明三三、四出生、一出生
男 昌 盈 明三四、一出生

君は熊本縣人先代敬衛門の長男にして明治四年一月を以て生れ同十四年家督を相続す藥種商を督み同縣多額納稅者たり家族は尙孫照(大一一、一出生)長男光雄(長女)同仲(同一、一出生)同二女(同一、一出生)同成(同一、一出生)あり長女シエ(明二、九、六出生)弟熊次郎(同一、二、五出生)は各分家し二女キキ(同三、一、八出生)は熊本縣人北村直躬に嫁せり(熊本、市鹽屋町)
參照 渡邊 慶治

渡邊 慶治

山陰銀行、伯陽電機各(株)監査役、鳥取縣在籍
妻 こら 慶應元、一〇生、鳥取、下村傳三
男 亨 明二〇、一〇生、現戸主
女 ヒヤク 明三一、六出生、長男亨妻、鳥根、稲田金太郎長女

君は鳥取縣人渡邊善二の二男にして安政五年十二月を以て生れ明治十年分れて一家を創立し後退隱す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫正(大一一、一出生)長男亨(長男)同仲(同一、一出生)同二男(同一、一出生)あり長女みゆき(明一、五、一出生)は鳥取縣人稲田友二郎に二女翠(同二、三、三出生)は鳥取縣人陶山吉壽に嫁せり(鳥取、西伯、手間村)
參照 渡邊 健兒

渡邊 健兒

渡邊保全(株)取締役、渡邊倉庫、化學製糖各(株)取締役、旭日生命保險(株)監査役、東京府在籍

嶺し二男龍(同三、一、一出生)は同府人石川生子に弟(同八、七出生)は同府人西村もとに入夫となり同莊司(同一、八、五出生)は同府人齋藤君之助の養子となれり(埼玉、北埼玉、櫻田村)
參照 小倉政三郎、黒田善太郎、齋藤君之助、別府三郎、高橋門兵衛、武井井山、中山正一、淡松村半兵衛、村林、志村太郎の項

渡邊 金造

從四位勳二等功五級、陸軍中將、下關要塞司令官、群馬縣土族
妻 いよ 明一九、五出生、群馬、加藤良夫四女
男 進 明三七、一〇生
女 木桶子 明四二、一〇生
女 小枝子 大元、一〇生

君は群馬縣人渡邊龜吉の二男にして明治七年七月を以て生れ先代良庵の後を嗣ぎ三十五年家督を相続す同三十二年陸軍歩兵少尉に任ぜられ昭和二年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校を卒業し近衛師團參謀陸軍大學校長官歩兵第十二聯隊長第十八師團參謀長歩兵第四十旅團長臺灣軍參謀長等に歴補し現時下關要塞司令官たり家族は尙四女眞木子(大一一、三、八出生)あり(下關、後田町四一六)
參照 渡邊 金六

渡邊 金六

新瀨銀行(株)専務取締役、新潟縣在籍
妻 左衛門 明四〇、一出生、二男金左衛門長男
男 榮太郎 明四〇、一出生、二男金左衛門長男
孫 孫 榮太郎 明四〇、一出生、二男金左衛門長男

渡邊國太郎

宮崎縣多額納稅者、佐土原銀行、日向鐵道各(株)取締役、日向水力電氣(株)監査役、宮崎縣在籍
妻 ユキ 明一八、四出生、宮崎、岩切、長女
女 仙千代 明二二、三出生、宮崎、岩切、長女
女 トキ 明一五、八出生

君は和歌山縣人渡邊中川彌次郎の二男にして明治十四年二月を以て生れ東京府人渡邊ぶんの養子となる同治右衛門六郎同族三郎の養兄弟同六郎の養同三郎の養明同三郎同三郎の從兄に當り大正九年分れて一家を創立す明治四十一年東京高等商業學校を卒業し現時前記諸會社の重役たり(東京市外入新井町新井宿二二七〇)
參照 渡邊三郎、渡邊右衛門、渡邊信三、渡邊福三郎、渡邊利二郎、渡邊六藏、渡邊六郎、渡邊吉郎の項

渡邊 研三

川越渡邊銀行(株)常務取締役、埼玉縣在籍
妻 ツヤ 明二七、七出生、養父吉右衛門長女
男 彦一郎 大九、一出生

君は埼玉縣人關松嘉七の三男にして明治十八年三月を以て生れ渡邊吉右衛門の養子となり同十四年分家して一家を創立す同十四年早稲田大學商科を卒業し現時川越渡邊銀行常務取締役たり家族は尙四女信子(大一一、七出生)五女春子(同四、一出生)二男徳之助(昭二、一出生)あり(川越、川越一七三九)
參照 渡邊吉右衛門、渡邊爲三郎の項

渡邊 賢三

東京開設館(株)取締役、茨城縣在籍
妻 きく 安政五、六出生、茨城、渡邊源八長女
男 タミ 明三七、八出生、大阪、御田勘太郎
男 靜一 大一一、三出生

君は茨城縣人渡邊金之助の三男にして明治二十四年一月を以て生れる現に前記會社の重役たり家族は尙兄金之助(明二、一出生)現戸主同妻まつ(同二、四、一出生)茨城、三宅徳太郎二女)あり弟誠吾(同二、八、一出生)は茨城縣人野尻萬七郎の養子となれり(東京、牛込、辨天町四五番牛込三四四四)
參照 渡邊 健次郎

渡邊 健次郎

大阪堂島米穀取引所取引員、愛知縣在籍
妻 れい 明二七、一〇生、愛知、高羽長治
男 泰男 大八、一一出生

君は大阪府人渡邊惣右衛門の弟にして明治十九年十二月を以て生れ同三十一年家督を相續す現時大阪堂島米穀取引所取引員たり家族は尙長女せつ(大七、三女昌子(女蕙同一、一男二男敏彦(同一、八生)三女昌子(同一、一〇生)あり(大阪、北、堂島濱通一ノ八九電北四五一))

渡邊 元得 長野縣多額納稅者、製絲業

父 豊治 安政三、一〇生
妻 久恵 長女 明三二、五生、長野、平林富次郎

君は長野縣人渡邊豊治の二男にして同網治の兄なり明治二十一年三月を以て生れ大正十四年家督を相續す製絲業を營み長野縣多額納稅者たり(長野、諏訪、長地村) 參照 渡邊網治の項

渡邊 孝平

君は北海道人大部彦三郎の三男にして明治九年五月を以て生れ先代孝平の養子となり同三十九年分家して一家を創立し舊名三作を改む現時商會協会の重役たり家族は尙四女淑子(大七、八生)二男勝太郎(同七、二生)三男恒三郎(同一、一〇生)四男要平(同一、四、一〇生)あり長女節子(明三六、三三)は分家せり(函館、元町一〇)

妻 金一 明四四、五生
女 喜代子 明四〇、七生
女 孝子 大七、六生

君は山梨縣人渡邊定二の長男にして明治十六年二月を以て生れ同二十年家督を相續す同四十二年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し後大學院に入る同四十年

渡邊 浩一

正五位勳四等、東京帝國大學教授
工學部勤務、岡山縣在籍
父 文久元 四生、鳥取、中井甚六二女
妻 賀鶴 明二五、一〇生、熊本、溝口貞武長女

君は青森縣人先代佐助の長男にして明治十五年十二月を以て生れ同三十八年家督を相續し前名武助を改め製名才味噌醬油商を營み傍ら前記各銀行會社の重役を兼ね現に縣下の多額納稅者にして推され青森商工會議所副會頭たり家族は尙五女榮(大五、三三)長女貞(同四、一〇)二女は青森縣人佐々木嘉太郎長男彰造に妹つ(同二七、一〇)一男は同縣人對馬敬五郎(同二、同三、三三)は同縣人山本金藏二男定一に嫁し弟喜助(同二一、一〇)二女は同妻と(同二四、九生、青森、林源藏姉)及其二女と共に分家し従弟義助(同二六、八生)も亦分家し叔母きた(同七、二生)は子女と共に其家籍に入り弟友助(同三五、四生)は青森縣人地島ちよの養子となれり(青森市米町) 參照 佐々木嘉太郎の項

渡邊 佐助

青森縣多額納稅者、青森商工會議所副會頭、青森銀行、第五十九銀行、青森電燈、青森製氷、樹五銀行、青森臨港、青森各(株)取締役、青森造船、青森造船、青森信託各(株)監査役、味噌醬油商、青森縣在籍

妻 泰助 明二二、二生、青森、渡邊文助長女
女 節子 明四三、八生
女 篤 明四五、一〇生

渡邊 琴次郎

大阪府在籍
父 俊夫 明一四、二生、大阪、岩橋榮次郎妹
妻 明三六、二生

君は大阪府人野田熊太郎の二男にして明治九年三月を以て生れ同二十九年先代鹿太郎の養子となり家督を相續すショール商を營む(大阪、港、九條通四ノ四六六)

渡邊 佐太郎

京都府在籍
妻 みね 明一四、五生、京都、田畑ふい妹
女 富榮 明三六、三三
女 信榮 明四二、一〇生

君は京都府人渡邊佐七の孫にして明治八年十一月を以て生れ同二十二年家督を相續す染色業を營む家族は尙六女久榮(大一一、六生)叔父辨次郎(慶應元、三三)あり母セイ(安政元、一〇生)祖父佐七長女)は分家せり(京都、下京、醒ヶ井通四條下ル高野堂町四〇八電下一八三九)

渡邊 佐平

今市銀行(株)取締役、下野中央銀行(株)監査役、栃木縣在籍
父 明二五、一〇生、栃木、高村孝吉長女
妻 保 明四四、七生

君は栃木縣人先代佐平の七男にして明治十八年十一月を以て生れ大正五年家督を相續し前名國治郎を改む現時各銀行の重役たり兄富治郎(明一五、一二)は分家せり(栃木、上都賀、今市町)

渡邊 瑛美

蓬萊病院院長、桂川電氣興業(株)取締役、醫師、山梨縣在籍
父 明元、四生、山梨、古屋專藏妹
妻 新 明三三、七生、庶子、生母、勝地

君は山梨縣人渡邊明梨の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治二十五年家督を相續す醫業と蓬萊病院長として知られ傍ら桂川電氣興業會社取締役たり明治四十二年より十年間瑞穂村長に大正八年山梨縣會議長に選ばれる家族は尙孫美(大一一、七生、養子新長女)同丘(昭二、三三)同二(昭二、三三)同三(昭二、三三)同四(昭二、三三)同五(昭二、三三)は各分家し庶子成吉(昭四〇、一〇)一男は弟原原美の養子となり養子げん(昭三二、九生、山梨、白須美之四女)は山梨縣人宮下長に嫁せり(山梨、南都留、瑞穂村電吉田一九)

君は山梨縣人渡邊一郎の弟にして明治十五年五月を以て生れ現時撫順炭販賣會社の取締役たり家族は尙長女妙(大六、一〇)二女恭子(同一、一〇)三女直子(同一、四、六生)四女友子(昭二、一〇)の外兄一郎(明元一、二生、現戸主)同妻せう(同一、一〇)三生、岐阜、石川良吉妹)及其子あり兄泰郎(同七、一〇)は岐阜縣人田近文三郎の養子となり同三(昭二、一〇)一〇生)は分家し姉しつ(同九、一〇)一〇生)は岐阜縣人津野昌平に妹小美(同一、八、八生)は同縣人山崎陸平に同(同一、二、一〇)一〇生)は同縣人石原茂右衛門に同(同一、三、一〇)一〇生)は同縣人田近基徳に嫁せり(東京、麹町、上六番町五電九段一三四一)

君は兵庫縣人西村庄右衛門の弟にして明治三十二年七月を以て生れ先代作右衛門の養子となり大正十三年家督を相續し前名正一を改む醬油醸造業を營む家族は尙長女妙(大一一、一〇)一〇生)あり養父幸次郎(明一〇、六生)は其妻ミツ(同一、四、八生、大坂、羽田重藏妹)と共に分家せり(大阪、此花、新家町二ノ三九電土佐堀五五七七)

渡邊 次郎

京都府多額納稅者、京都織物(株)取締役、西陣織物業、京都府在籍
父 文久元 四生、京都、矢野長兵衛長女
妻 伊 明二二、一〇生、京都、渡邊安次長女
女 伊 明四三、二生

君は京都府人渡邊伊之助の長男にして明治十六年十二月を以て生れ大正五年家督を相續す西陣織物業を營み現に京都織物會社取締役にして京都府多額納稅者たり家族は尙二男二郎(大四、一二)弟清之助(明三三、五二)一男は伊之助(同一、一〇)一〇生)あり弟清之助(明三三、五二)一男は伊之助(同一、一〇)一〇生)は京都府人矢野長治郎に嫁せり(京都、上京、元誓願寺通智恵光院西入電西陣三〇七)

渡邊 澤次郎

有信銀行(株)監査役
山梨縣在籍
父 明九、四生、東京、薄井龍之養子
妻 本 明一一、一〇生、男爵富岡明雄叔母
女 光 明三二、六生

君は山梨縣人渡邊信の長男にして明治三十年十月を以て生れ同十四年家督を相續す現時有信銀行監査役たり家族は尙弟三(明三五、七生)あり長女榮子(同三〇、一〇)一〇生)は和歌山縣人西川義英に姉(明元、一〇)一〇生)は東京府人石川源伊智郎に妹滿壽(同三〇、七生)は同府人中村清に同(同三三、六生)は山梨縣人早川林蔵に嫁せり(山梨、西八代、市川大門町) 參照 男爵富岡明雄、石川源伊智郎、西川義英、早川林蔵、田切政純、高橋藤太郎、根津理森、安満飲一の項

渡邊 三左衛門

正七位勳五等、陸軍歩兵大尉、新潟縣多額納稅者、豐國銀行、新潟貯蓄銀行各(株)取締役、玉川銀行(株)監査役、農務、新潟縣在籍

妻 ツナ 明一一、一〇生、新潟、田卷堅太郎姉
女 萬壽太郎 明三六、七生

君は新潟縣人渡邊三左の長男にして明治三年九月を以て生れ同八年家督を相續す夙に獨逸協會學校を卒業し農務を營み傍ら前記各銀行の重役關谷村長等に擧げられ新潟縣多額納稅者に列す又曾て縣會議員農會副會頭等に推される家族は尙弟三(明九、一二)一〇生)あり長女初樹(同三四、八生)は東京府人隈川八郎に姉トワ(安政六、三三)は新潟縣人佐藤虎四郎に嫁し弟泰造(明五、四生)は同縣人佐藤信の養子となり叔父泰(嘉永六、四生)は同妻ハシ(明元、三三)東京、土、佐方易清(六女)と共に其子女を伴ひ分家せり(新潟、岩船、關谷村) 參照 佐藤泰造、田卷堅太郎の項

渡邊 三郎

工學博士、松井田銀行、渡邊銀行、大日本土地各(株)取締役、玉川水道、渡邊同族各(株)監査役、日本特殊鋼(株)代表社員、東京帝國大學工學部講師、東京府在籍

妻 あい 日本橋高等女學校出身
女 秋子 明四二、八生

君は群馬縣人大河原豊太郎同榮之助の弟にして同源五郎の養父なり明治十三年十二月を以て生れ同四十二年亡妻なべの夫となり家督を相續す同年東京帝國大學工學部探査冶金科を卒業し後工學博士の學位を受く現時前掲諸銀行會社の重役たる外東京帝國大學工學部講師たり家族は尙二女榮子(大七、一二)三女松子(同一、一〇)四女種子(同一、一〇)一〇生)あり(東京、芝、高輪南町五二電高輪四八九七) 參照 大河原榮之助、大河原源五郎、大河原豊太郎、小林彌七、渡邊三郎の項

渡邊 四郎

撫順炭販賣(株)取締役
岐阜縣在籍
父 明二七、一〇生、福岡、横山貞嗣
妻 玲 明二七、一〇生、福岡、横山貞嗣

長男正廣(同四、二生)は兄水太郎の養子となれり(東京芝、白金今里町八四電高輪五五四二)

渡邊治右衛門

渡邊倉庫、旭日生命保險(株)社長、東京汽船(株)取締役、東京府在籍

孫夫 景一 明三四、九生、孫久江夫、兵庫、田中秀太郎二男
孫 久江 明三八、一生、孫夫景一妻、養子
孫 千代江 明四〇、一生、養子清二女

實業界に入る現に四谷區會議員たり尙義に東京市會議員四谷區學務委員長長東北石村會社取締役に擧げらるる家族は尙三男繁三(明四四、三生)四男四郎(同四五、七生)五男五郎(同四八、八生)六男六郎(同七七、三生)庶子七郎(昭二、三生、生母、東京、吉村會女子)の外亡兄市重郎妻フサ(慶應元、七生、福島、上村金太郎姉)及其子女あり姉ヨシ(文久三、一〇生)は福島縣人吉田伴吉に嫁セキ(明二三、二生、亡兄市重郎長女)は前記伴吉長男要之助に同タツ(同二八、四生、同二女)は同縣人草野慶市長男廉平に同シゲ(同三〇、三生、同三女)は同縣人馬場上唯政に同アサノ(同三三、九生)は東京府人阿部眞一に同トメ(同三六、二生、同五女)は福島縣人三瓶嘉久也に嫁セリ(東京、四谷、大番町八三電四谷二九〇七)

渡邊治左衛門

福本銀行、播磨製紙(株)取締役、長野銀行(株)監査役、兵庫縣在籍

君は愛媛縣人渡邊隆の弟にして安政六年十二月を以て生れ明治十九年家督を相続す夙に慶應義塾本科を卒業し外務省參事特許局審判官後通信書記官同參事官に歴任し次で佐世保市長に推され後辭して實業界に入り現時大阪電球會社社長たる外前各記社會社の重役たり義に愛媛縣郡より選ばれて衆議院議員に推さる、事七回又北米合衆國を漫遊す妹トモ(元治元、二生)は愛媛縣人高田清盛二男五郎に嫁セリ(東京、麹町、平河町六ノ二〇電九段六二九)

君は新島縣人渡邊重三郎の二男にして明治元年三月を以て生れ同二十三年兄市重郎の家督を相続す同十九年福島縣師範學校を卒業し後明治法律學校に學び郷里小學校校長學習院助教等に歴任す明治三十三年職を辭し

渡邊繁太郎

四谷區會議員、福島縣在籍

君は福島縣人渡邊重三郎の二男にして明治元年三月を以て生れ同二十三年兄市重郎の家督を相続す同十九年福島縣師範學校を卒業し後明治法律學校に學び郷里小學校校長學習院助教等に歴任す明治三十三年職を辭し

渡邊修二

五位、男爵、貴族院議員、舊尾州藩士

君は愛媛縣人渡邊隆の弟にして安政六年十二月を以て生れ明治十九年家督を相続す夙に慶應義塾本科を卒業し外務省參事特許局審判官後通信書記官同參事官に歴任し次で佐世保市長に推され後辭して實業界に入り現時大阪電球會社社長たる外前各記社會社の重役たり義に愛媛縣郡より選ばれて衆議院議員に推さる、事七回又北米合衆國を漫遊す妹トモ(元治元、二生)は愛媛縣人高田清盛二男五郎に嫁セリ(東京、麹町、平河町六ノ二〇電九段六二九)

渡邊住介

鹿兒島縣多額納稅者、農業、鹿兒島縣士族

渡邊周

旭紡織(株)事務取締役、静岡縣士族

君は静岡縣人渡邊周の二男にして明治十五年二月を以て生れ同三十六年家督を相続す同四十年東京帝國大學工學科大學機械科を卒業し現時旭紡織會社事務取締役たり家族は尙三男準(大、一四、五生)あり(東京市外入新井町新井宿一八六二電大森一四三)

渡邊重三郎

山形縣多額納稅者、農業、山形縣在籍

渡邊周助

山形縣多額納稅者、農業、山形縣在籍

君は山形縣人渡邊周助の長男にして同久吉の兄なり明治十七年十月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治四十二年早稲田大學法科を卒業し農業を營み山形縣多額納稅者たり家族は尙二男泰二(大、四、五生)三男省三郎(同七、一生)長女みち子(同九、二生)四男浩四郎(同一〇、二生)五男都郎(同三、六生)二女あや子(同四、一〇生)六男陸男(昭二、三生)あり(山形、西置賜、豊原村)

渡邊正三郎

山形商工會議所副會頭、山形瓦斯(株)副社長、藥種商、山形縣在籍

渡邊修

正六位勳三等、大阪電球(株)社長、朝鮮鐵道、關西電氣、佐世保鐵道各(株)取締役、東京電氣、朝日海運各(株)監査役、大阪三品取引所(株)理事、愛媛縣在籍

君は東京府人渡邊武四郎の四男にして同俊雄の弟なり明治二十七年四月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す現時東京米穀商品取引所一に

渡邊正次郎

博多商工會議所議員、九州證券(株)取締役、履物商、福岡縣在籍

渡邊 甚七 白竹商業銀行、津久見礦業、富士商店各(株)取締役、大分縣在籍
 妻 ヲシ 明二六、七生、大分、徳永安之助
 男 甚三郎 明二五、一一生
 女 トシ 明二八、一〇生、長男甚三郎妻、大分、岐部忠勝四女
 男 四郎 明三三、三三
 男 謙助 明四一、一二生

君は大分縣人先代甚七の長男にして明治六年一月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名與市を改む現に白竹商業銀行取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙三女キヌ(大分、一〇生)八男静一(同六、三三)四女フミ(同八、一〇生)五女ヒデ(同二、四四)六女エミ(同三、一三)七女テル(同五、二二)あり二女ミツ(明三九、四四)は大分縣人田中榮一(同三、二二)男鐵治郎(同二八、八八)は其妻ヨシ(同三三、三三)大分、堀長次郎二女を伴ひ分家し三男豊三郎(同三〇、九三)弟有利多同八、一一生)も亦分家し弟一(同四、九三)は原山家を再興し同健一(同七、四四)同太市(同二〇、一〇生)は其家籍に入れり(大分、北海部、白竹町)

渡邊 誠治 小草原銀行、株務取締役
 妻 さだ 明一〇、一一生、叔父源藏長女
 養子 正男 明三三、五生、長女まさ子、千葉、大田綱三郎四男
 女 まさ 明三五、四生、養子正男妻
 女 英 明三九、六生

君は千葉縣人渡邊誠治の二男にして明治十四年六月を以て生れ同三十四年家督を相続す現に小草原銀行常務取締役たり家族は尙孫誠之(大一二、七生)養子正男長男(同後郎)同二五、五生、同二男)の外亡叔父源藏妻よし(萬延元、二生)千葉、鹽田茂左衛門二女あり妹きよ(明二二、二生)は千葉縣人藤崎政二男小十郎に嫁し弟頼重(同二八、三三)亡叔父源藏長男(同縣人内藤源藏の養子となり(千葉、市原、平三村)

渡邊 節 旭家具裝飾(株)取締役、渡邊建築事務所、建築士、福島縣在籍
 父 祺十郎 安政六、一一生、從四位勳二等功三級
 母 イチ 元治元、八生、岐阜、菅川清妹
 妻 さだ 明二六、五生、工學博士山田文太郎長女
 養子 道輝 明三六、六生、宮城、梅澤銀造三男

君は福島縣人渡邊節少將渡邊祺十郎の長男にして明治十七年十一月を以て生れ大正八年家督を相続す明治四十七年東京帝國大學工學科大學建築科を卒業し韓國度支部技師として就任同四十五年歸朝して鐵道院技師に任命せらる大正六年職を辭し建築士を業とし其後建築學研究のため歐米を漫遊する事二回目下渡邊建築事務所代表社員たる外前記會社の重役たり家族は尙養子八重子(大七、一一生)東京、山田文太郎女あり(兵庫、武庫、住吉村電影五九)

渡邊 鈴衛 正五位勳四等、判事、五條區裁判所判事、奈良地方裁判所五條支部長、五條區裁判所監督
 妻 ときは 明一九、三三、岐阜、高木善之丞二女
 女 裕 大四、三三
 女 本 明三九、四生
 女 親 明四二、二生
 女 澤 大元、八生

君は千葉縣人渡邊安明の二男にして慶應三年十月を以て生れ大正十五年兄次の後を襲ひ家督を相続す宮川と稱し割葉業を營む家族は尙長女順子(大九、四生)あり(東京、京橋、築地一、三電京橋二八三)

渡邊 善十郎 東京府多額納稅者、日本橋區會議員、丸水渡邊商會(株)社長、帝國商業銀行(株)監査役、渡邊保全(株)有限社員、東京株式取引所取引員、東京府在籍
 妻 モン 萬延元、一〇生、東京、木村マサ姉
 母 るい 明二二、一一生、東京、西村登蔵四女
 男 芳次郎 大二、二生

君は東京府人渡邊善吉の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正十二年家督を相続す東京株式取引所取引員にして現に丸水渡邊商會社長たるの外前記會社の重役を兼ね又東京府多額納稅者にして日本橋區會議員に推される家族は尙四男善四郎(大五、六生)五男善五郎(同四、九生)五女善子(同二、一〇生)六男善吉(同二、一〇生)四女悦子(同三、四生)六男善吉(同二、一〇生)五女善子(同二、一〇生)あり(東京、深川、安宅町九電本所一三三四)

渡邊 宗吉 日本鐵道、銃砲火藥商
 妻 俊郎 明二一、一一生
 男 宗文 明三三、三三
 女 宗子 明三九、五生
 女 宗通 明四一、一一生

君は神奈川縣人日高金平の長男にして慶應二年四月を以て生れ後先代ヤエノの養子となり明治十九年家督を相続す日本鐵道と稱し銃砲火藥商を營む(大七、一〇生)火會社事務取締役たり家族は尙孫千壽子(大七、一〇生)長男俊郎(七女)あり(東京、日本橋、通三、一電日本橋六六三)

養母 あき 嘉永四、三生、茨城、石橋十郎兵衛三女

妻 はや 明七、一、生、茨城、士、渡邊喜兵衛長女

女 ふみ 明三、一、生、長野、渡邊中妹

男 龍治 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 龍子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

女 和子 明三、一、生、長野、渡邊中妹

渡邊六藏、渡邊六郎、渡邊六郎、渡邊六郎、渡邊六郎

渡邊泰三 京都府多額納税者、立花屋、醬油

母 なを 明二、七、生、京都、林長太郎妹

君は京都府人渡邊傳左衛門の四男にして明治三十二年一月を以て生る立花屋と稱し醬油醸造業を営み京都府多額納税者たり家族は尙兄傳一(明一、四、八、生、現戸主)及其二子並に同専三(同二、一、一、生、現戸主)同二(同二、二、一、生)は京都府人渡邊長傳之助に同く(同二、六、四、生)は同府人渡邊直次郎長男志治に嫁せり(京都、上京、千本通五上ル西入電通降七四五)

渡邊 退藏 新潟銀行(株)取締役

妻 セツ 明九、八、生、新潟、長谷川甚左衛門二女

男 丹左衛門 明三、五、生、長男丹左衛門妻、新島、石井太郎二女

女 梯二 明三、四、一、生

女 アキ 明四、三、八、生

君は新潟縣人渡邊彌忠太の長男にして明治三年十月を以て生れ大正元年弟第一の後を承け家督を相續す夙に寺泊銀行に入り燕町支店支店支店を経て現時同行取締役たり家族は尙四男大次(同二、一、一、生)六女ムツ(同四、二、生)孫レツ(同四、一、一、生)長男丹左衛門長女(同二、二、生)同二(同二、二、一、一、生)あり長女ミイ(明二、八、二、生)は新潟縣人鈴木重太郎に二女(同三、二、一、九、生)は同縣人藤井チヨに妹イト(同二、一、七、生)は東京府人源川久平に弟龍雄(同三、一、九、生)は新潟縣人柄澤ワセに各養子となり三女クニ(同三、八、六、生)は同縣人東條政信に嫁し弟四郎(同二、六、五、生)は同縣人北村美佐保の夫となり弟五郎(同二、二、一、一、生)は新潟、長谷川敏正(二女)は其子女を伴ひ分家せり(新潟、三島、寺泊町)

渡邊大治郎 京都府多額納税者、海産物商

妻 イネ 明二、一、二、生、東京、森田彦四郎妹

養子 達雄 大一、四、生、三男東一郎二男

君は小牧六郎兵衛の三男にして弘化四年十二月を以て生れ東京府人渡邊治郎右衛門の養子となり明治十七年分れて一家を創立す大正十四年家督を三男東一郎に譲り更に分れて一家を成す海産物商を営み多額納税者たり(東京、日本橋、青物町一六電日本橋三〇八二)

渡邊 孝 玉南電氣鐵道(株)取締役、京王電氣鐵道(株)營業部長、大分縣在籍

母 シヅ 文久三、七、生、大分、士、八田壯吉長女

妻 タツ 明二、五、七、生、大分、井上春治郎妹

男 勳 大一二、四、生

君は大分縣人渡邊養代の二男にして明治十九年十二月を以て生れ大正三年亡兄第一の跡を繼ぎ明治四十四年京都帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し實業界に入り現時前記各會社の重役たり家族は尙二男健(大一一、四、生)七弟章(妻トミカ(明三、〇、一、一、生、大分、吉良元夫)及其子女あり弟進(同三、〇、四、生)は大分縣人杉本茂の養子となり弟常子(同三、三、三、生)は同縣人衛藤喜三郎に嫁せり(東京市外大久保町西大久保五〇八電四谷六一七)

渡邊 卓 安田銀行(株)下谷支店長

妻 セツ 明二、五、一、生、秋田、佐藤喜一郎妹

男 清 大三、九、生

君は京都府人渡邊孝吉の二男にして明治十七年八月を以て生る現時安田銀行下谷支店支店長たり家族は尙長女し

渡邊 龍 愛媛縣多額納税者、農業

男 鏡 明四、〇、五、生、東京農業大學在學

女 泰 明三、二、九、生、縣立今治高等女學校出身

君は愛媛縣人渡邊彦右衛門の長男にして慶應二年十二月を以て生れ明治三十三年家督を相續す農を業とし縣下の多額納税者たり農に關係する頭取に擧げらる長女茂(明二、六、三、生)は香川縣人大喜多雄に二女嫁(同二、九、三、生)は廣島縣人相原正木に妹アハ(同二、〇、九、生)は愛媛縣人藤枝哲太郎に嫁し弟健史(同二、一、七、一、〇、生)は分家せり(愛媛、周桑、石根村)

渡邊 千冬 正四位、子爵、貴族院議員

妻 芳子 明一、八、一、生、東京、本尾敬三郎二女

男 武 明三、九、二、生、從五位

當家は先代國武より家名を揚ぐ國武は舊信州高島藩士にして故伯爵渡邊千秋の弟なり少壯江戸に出て、佛語を學び維新後高知縣各縣令大藏大書記官同省主計局長大藏次官大藏大臣(三回)選任大臣等を歴任し明治二十八年勳功に依り華族に列し子爵を授けらる無邊快禪と號す君は故千秋の三男にして伯爵渡邊昭の叔父なり明治九年五月を以て生れ叔父國武の養子となり大正八年家督を相續し襲爵仰付けらる明治三十三年東京帝國大學法科大學法科を卒業し歐洲に遊學し歸朝後日本製鋼所北海道炭礦汽船會社各專務取締役となり後辭して日佛銀行に入り專務取締役兼東京支店代表者となり同四十二年長野縣より選出せられ現に衆議院議員となり大正九年貴族院議員に互選せられ現に研究會の一領袖たり家族は尙二男慧(明四、三、五、生)あり(東京、麻布、本村町三五電高輪四八三六)

渡邊千代三郎 貴族院議員、大阪五期、堺五期、南海鐵道各(株)社長、安田信託、日本染料製造各(株)取締役、東京本材防府(株)監査役、大阪株式取引所(株)理事、大阪府在籍

妻 ぎん 明元、一、二、生、東京、岩山金次郎妹

男 一雄 明三、一、三、生

君は岐阜縣人渡邊新次郎の二男にして慶應元年八月を以て生れ明治二十八年分家して一家を創立す同二十二年帝國大學法科大學法科を卒業し日本銀行に入り又北濱銀行に勤務す次で取引所觀察の爲め歐米を漫遊

つ子(大三、一、生)二女すみ子(同九、九、生)三女みどり(同二、一、一、生)四女みち子(同五、一、一、生)姪春江(明四、三、二、生、現戸主)同母とみ(同二、一、一、生)、東京、士、名和豊妹あり妹千代(同二、〇、三、生)は愛知縣士族永井藤太郎弟尙忠に嫁せり(東京市外灘野川町上中里)

渡邊 武良 日本樟樹(株)事務取締役

男 浪夫 明三、〇、一、生

女 浪子 明四、〇、八、生

女 泰江 大二、八、生

君は岡山縣人渡邊武治の二男にして明治六年三月を以て生れ同十七年兄長四郎の後を襲ひ家督を相續す同三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し三十四銀行に入り京都臺北大阪南各支店支店長たり現に日本樟樹會社事務取締役たり家族は尙四女壽美子(大七、二、生)あり妹壽(明一、四、二、生)は岡山縣人中桐新作長男春太郎に嫁せり(兵庫、武庫、住吉村八甲田七五七電御影七七)

渡邊 雄男 森永相互保險(株)事務取締役、玉川製氷、東京電氣各(株)監査役

妻 たい 明一、〇、一、生、長野、渡邊中妹

男 績 明三、六、二、生、長男績妻、神奈川、立野勇次郎四女

男 勝 明三、八、二、生

女 シヅ 明三、六、一、二、生

君は長野縣士族藤津繁人の二男にして元治元年八月を以て生れ明治二十九年先代たいの夫となり家督を相續す夙に東京高等商業學校を卒業し名古屋大津馬關等各地商業學校教諭として育英に従事し後之れを辭し甲武鐵道會社北海道鐵道管理局北濱銀行東京支店支店長を経て現時前各會社の重役たり家族は尙孫泰(大一一、五、一、生)長男績長男あり(東京市外入新井町新井宿山王二六三九電大森五三七)

渡邊辰三郎 京都商工會議所議員、一保堂、茶

妻 タネ 明三、六、生、京都、渡邊利兵衛長女

君は埼玉縣人渡邊吉右衛門の弟にして明治二十七年十一月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す現時川越渡邊銀行取締役たり家族は尙長女光子(大一一、六、生)二男勇男(同二、一、五、三、生)あり(川越市)

渡邊 爲三 正五位勳五等、判事、大阪控訴院

妻 ヒサヲ 明一二、二、生、北海道、五十嵐久

君は埼玉縣人渡邊昇三の六男にして明治十三年四月を以て生る同三十三年判事登用試験並に辯護士試験に合格同三十五年判事に任じ高田區甲府區同地方各裁判所に任じ新潟地方小樽區樺太地方釧路區各裁判所に任じ新潟地方小樽區樺太地方釧路區各裁判所に任じ大正十三年現職大阪控訴院部長に轉ず家族は尙兄悦三(明六、三、生、現戸主)同妻むめ(同二、一、一、生、北

海邊、岩間覺之助長女)及其子女同廣吉(同九、七、生)同妻けい(同二、〇、五、生)、千葉、藤田磯右衛門妹及其一女あり姉さん(同二、一、一、生)は北海道士族井口元一郎に長女多恵子(同三、九、一、生)は山口縣人志賀義雄に嫁し弟重吉(同二、一、七、五、生)は北海道人岩間覺之助の養子となり(大阪、北、若松町控訴院官舎)

渡邊千代三郎 貴族院議員、大阪五期、堺五期、南海鐵道各(株)社長、安田信託、日本染料製造各(株)取締役、東京本材防府(株)監査役、大阪株式取引所(株)理事、大阪府在籍

妻 ぎん 明元、一、二、生、東京、岩山金次郎妹

男 一雄 明三、一、三、生

君は岐阜縣人渡邊新次郎の二男にして慶應元年八月を以て生れ明治二十八年分家して一家を創立す同二十二年帝國大學法科大學法科を卒業し日本銀行に入り又北濱銀行に勤務す次で取引所觀察の爲め歐米を漫遊

し歸朝後西成鐵道會社に擧げられ後大阪瓦斯會社支
配人同取締役より社長に進み尙前掲諸會社の重役とし
て關西實業界に重きをなし昭和二年五月貴族院議員に
勅選せらる漢詩を能くす家族は尙四男有美(明治四六
生)あり長女和歌(同三三、一)生、府立夕陽丘高等女
學校出身)は山梨縣人若澤保弟(明治二二)女滿子(同三
九、二)生、出身校同上)は安田信託會社員中田伸直に
嫁せり(大阪、東、谷町一ノ一電東一五〇〇)

生)あり妹いか(文久三、一)生)は大阪府人小杉佐七郎
(三女シヅカ(明三三、五)生)は京都府人采野和三郎に四
女とみ(同三六、八)生)は同府人吉田全助に二女壽計(同
二九、六)生)は同府人村田五兵衛に嫁し四男勝次郎(同
二四、七)生)は同府人小堀清次郎に六男榮之助(同二
八、六)生)は同府人小杉仁兵衛に七男周二郎(同三五、
三)生)は滋賀縣人馬場三郎に各養子となれり(京都、下
京、錦樂通鳥丸西入電中二三四)

同妻次(同二一、八)生、三重、土瀨勇之進(二女)第榮同
一、一)生)同妻次(同二〇、一)生)大阪、河野仁
三郎(二女)弟滋(同六一、八)生)同妻(同二七、六)生、
奈良、深瀬正平(三女)弟弘(同八一、八)生)同妻ミツ(同
二八、七)生、大阪、唐津吉長女)は各其子女を伴ひ
分家し同彌(同二七、四)生)も亦分家し同倫(同二〇、九
生)は大阪府人田中操の入夫となり妹よし(同二四、七
生)は同府人西尾孝治に同壽(同二二、一)生)は奈良縣
人今津房吉に同多津(同二五、一〇)生)は同縣人黒川重
太郎(武治郎)に養子(同三〇、一〇)生)大阪、山本房
吉長女)は福井縣人手塚光熙長男光雄に嫁せり(大阪、
住吉、住吉町九五五電住吉一七四)

渡邊長兵衛

伊藤銀行(株)取締役、千原殖産、
松坂屋、伊藤三輪各(株)監査役
愛知縣在籍

妻 信一 明三三、七生
男 英三 明三八、七生
女 豐子 明四〇、一二生
女 愛子 大元、九生

渡邊陳平

栃木縣多額納稅者、中宮洞電力、
農商無盡各(株)取締役、栃木縣農
工銀行(株)監査役、石村商
務銀行在籍

妻 庄作 安政二、一二生
男 壽夫 明二八、二生
男 壽夫 明二八、二生
女 木 明二八、一二生、長男壽夫妻、栃
木、藤平謹一郎(六女)

渡邊恒太郎

南洋商會(株)常務取締役、オリエ
ンタル貿易(株)常務取締役、
南洋貿易信用(株)監査役
山形縣在籍

父 正三郎 明元、三三、現戶主
妻 シン 明二七、四生、現戶主
男 良一郎 大九、二生

君は愛知縣人杉村藤左衛門の五男にして慶應二年二月
を以て生れ明治三十二年先代や五の八夫となり家督相
續と共に前名乙治郎を改め眞名す現時前記銀行會社の
重役たり家族は尙三女夏子(大六、七)生、四女つき(同
九、二)生、五女彰子(同一一、一〇)生、六女榮子(同
一二、一〇)生)あり弟幸一(明二四、四)生)は岐阜縣人
渡邊いゑの跡を相續せり(名古屋、西、桑名町六二)

君は栃木縣人飯村道順の三男にして明治四年六月を以
て生れ先代庄作の養子となり同三十七年家督を相續す
石村商會を営み現に前記銀行會社の重役にして縣下の多
額納稅者たり家族は尙孫チル子(大八、六)生、長男壽夫
長女あり長女ツナ(明二五、六)生、妹ヒサ(同二三、四
生)は共に栃木縣人渡邊九郎の養子となり二女キヨ(同
二六、九)生)は同縣人岩形與左衛門三男監物に三女フ
ミ(同三〇、一)生)は同縣人飯塚耕作に嫁し四女シケ(同
三二、八)生)は同縣人渡邊九郎の死跡を相續せり(栃木
河内、城山村)

君は山形縣人渡邊正三郎の長男にして明治二十二年五
月を以て生れる大正二年東京帝國大學醫學科大學學科を
卒業し現に南洋商會常務取締役たる外前記會社の重役
たり家族は尙長女繁(大七、三)生)二男謙次郎(同
七、七)生)二女芳(同三三、九)生)三女房(同五一、一)生)あ
り(東京市外戸塚町下戸塚三五〇電牛込九九一)

渡邊長兵衛

綿布商
滋賀縣在籍

妻 いく 文久三、一)生、滋賀、村瀬忠平長女
男 長三郎 明一七、一二生
男 長四郎 明二二、七生
女 妙 明二四、一二生、三男長四郎妻、
滋賀、中村吉兵衛長女

渡邊勉

近江帆布(株)常務取締役、大阪商
事(株)取締役、奈良縣士族
妻 マス 長女、八生、大阪、河野仁三郎
男 俊三 大五、七生

渡邊綱一

山口銀行(株)銀座支店長
和歌山縣士族
妻 道雄 慶應元、二)生、和歌山、士、大江
養母 仲枝 明三、八)生、渡邊鐵心長女
妻 梅子 明二七、三)生、養父道雄二女
男 徹 大五、一)生

君は滋賀縣人渡邊長藏の長男にして安政三年三月を以
て生れ明治十五年家督を相續す綿布商を營む家族は尙
孫秀之助(明四二、三)生、二男長三郎(同直二)生、
(同四四、三)生、同二男(同幸三)大七、七)生、同三男
(同達郎)同九、一二)生、同四男(同君三)同七、一〇)生、
三男長四郎(同武太郎)同四、〇)生、同長男、同
三男(同三)同三、七)生、同二男(同外弟長五郎)慶應元、一

君は奈良縣士族渡邊慎の長男にして明治三年十月を以
て生れ同四十二年家督を相續す同二十二年東京專門學
校英語普通科を卒業し現時近江帆布會社常務取締役の
外前記會社の重役たり家族は尙四男孝藏(大八、一)生、
長女登代(同一一、三)生)あり弟繁(明一二、一)生)

君は和歌山縣人宇野伊兵衛の三男にして明治二十二年
二月を以て生れ後渡邊道雄の養子となる大正三年東京
高等商業學校を卒業し同年山口銀行に入り累進して現
時同行銀座支店長たり家族は尙長女冬(大七、一二)生、
二女春(同二〇、二)生)あり同花子(明三二、三)生、養
父道雄(三女)は和歌山縣人近藤東五に嫁せり(東京市外

大井町北濱川(一四七)

渡邊綱三郎

和歌山縣多額納稅者、東洋染料製
造(株)社長、和歌山縣土地(株)取締
役、和歌山縣在籍

妻 品 明八、三)生、和歌山、山野卯之助
三女
養子 續三 明三九、八)生、和歌山、福島嘉六
三男

君は長野縣人渡邊治の三男にして同元得の弟なり明
治二十五年八月を以て生れ同四十四年分家して一家を
創立す製絲業を營み埼玉縣多額納稅者たり家族は尙長
女雪子(大九、二)生)二女美枝子(同一一、四)生)三女久
子(同二三、一)生)三男貞治(同一一、五)生)あり
(埼玉、北足立、與野町電大宮一〇)

北越商業銀行(株)事務取締役
新潟縣在籍

妻 キミ 明二二、八)生、養父定治三女
男 一男 明四一、六)生
女 一 大二、九)生

渡邊綱三郎

福岡縣會議員、日東農具(株)
社長、紙與興(株)取締役、大
分電氣工業(株)取締役、渡
鐵工所、柱立川水力電氣、博多國
技館、九州水力電氣、紙與興、博多國
技館、博多製糖株式(株)取
監査役、福岡縣在籍

妻 花 明二八、一)生、福岡、當時序彦子
男 武之助 明三一、四)生
男 フミコ 明三九、八)生、二男武之助妻、福
岡、金森一雄妹
男 已代象 明三八、一)生

君は東京府人鈴木義勝の長男にして明治元年二月を以
て生れ同二十年先代常次郎の養子となり同年家督を相
續す同二十七年東京法學院を卒業し同三十七年判檢事
登用試験に合格し同三十九年判事に任じ爾來前橋地方
新潟縣同地方東京區同地方佐原區八日市場區横須賀區
浦和區横濱地方同區區區區區地方各裁判所判事に歴
補し昭和二年十一月調路地方裁判所長に轉ず(調路、
地方裁判所官舎)

白石商業銀行(株)常務取締役、宮
城銀行、大所、渡邊白石興産各
(株)取締役、宮城縣在籍

妻 ヨネ 明九、六)生、先々代佐吉長女
男 佐男 明三一、二)生、福島、武藤茂平
二女
男 大 明一四、二)生

渡邊綱三郎

君は福岡縣人渡邊興一の三男にして明治四年四月を以
て生れ同二十四年分れて一家を創立す現時日東農具
物會社社長たる外前記各會社の重役を兼ね福岡縣會議
員に擧げらる家族は尙庶子五郎(明四三、八)生)同文
吉(大二、三)生)同道子(同七、五)生、生母、小林マキ
孫吉(昭二、五)生、二男武之助長男)あり長女マキ
(明二六、八)生)は同夫三郎(同二一、七)生、福岡、
高井善四郎(二男)及其子女と共に分家し二女キヌ(同三
三、一)生)三女ハル(同三六、二)生)は他に嫁せり(福岡
市下營園法印田九五五電二七二)

新潟縣多額納稅者、直江津魚市場
商、新潟縣在籍

妻 サタ 高永五、六)生、新潟、吉井丈八長
女
男 松治 明二三、一)生
男 楠五、六)生、三男松治妻、新潟、
楠井藤吉四女

新潟縣多額納稅者、加賀織物(株)
監査役、農業、新潟縣在籍

妻 タカ 文久三、二)生、新潟、森甚吾妹
男 順 明一八、五)生、三男順妻、新潟、
中合俊蔵二女
男 順 明三五、七)生、三男順長女
男 浩太郎 明三七、二)生、三男順長男
孫 寛見 明三八、一)生、三男順二男
孫 孫 孫

渡邊綱治

埼玉縣多額納稅者、製絲業
埼玉縣在籍

渡邊常太郎

君は新潟縣人渡邊佐吉の長男にして安政元年三月を以
て生れ明治十年家督を相續す四十物商を營み同縣多額
納稅者にして傍ら直江津商船會社取締役たり家族は尙
孫正松(大六、一)生、三男松治長男)同茂(同九、四)生、
同二男)あり養子タカ(明四一、二)生、新潟、早川龜吉
妹)は分家し二男榮藏(同二一、一)生)は其養子となり
長女ヨメ(同六一、一)生)は新潟縣人内山啓次郎弟新
三に妹カネ(同元、正)生)は長野縣人濱徳太郎に同シカ
(同二、九)生)は新潟縣人渡邊寅吉に嫁せり(新潟、中
頸城、直江津町)

渡邊貞次郎

君は新潟縣人渡邊喜六の長男にして嘉永五年八月を以
て生れ明治十八年家督を相續す農業を營み傍ら加賀織
物會社監査役にして同縣多額納稅者たり四男長輔(明
二二、一〇)生)は同妻(同二五、八)生、新潟、小林岡
三五女)と共に弟晋作(文久二、一〇)生)は同妻キツ(慶
應三、二)生、新潟、樋口正平妹)及其一女と共に各分
家し五男謙作(明二八、八)生)も亦分家し弟謙藏(同五、

二生)は新潟縣人兼古三郎長女ウツタの婿養子となり...

渡邊 鏡藏

正五位勳四等、法學博士、東京帝國大學法政學部...

渡邊 輝綱

東京府土族、藥種商

君は東京府土族渡邊輝綱の三男にして安政五年三月を以て生れ...

渡邊 東一郎

日本パイ製鐵株 監査役

君は新潟縣人兼米吉の三男にして安政六年二月を以て生れ...

妻 糸子 明二五、八生、男爵野村正二郎養子...

渡邊 藤吉

福岡縣多額納稅者、博多商工會議所議員、渡邊鐵工所(株)社長...

渡邊 藤吉

福岡縣人先代藤吉の四男にして明治十五年二月を以て生れ...

君は新潟縣人兼米吉の三男にして安政六年二月を以て生れ...

渡邊 藤吉

新潟縣人、北越製菓各(株)社長、新潟縣人、北越製菓各(株)社長...

君は新潟縣人兼米吉の三男にして安政六年二月を以て生れ...

立す現時前記各會社の重役たり、長岡商業會議所會頭に推されたことあり...

渡邊 藤十郎

關原電車(株)専務取締役、日光登山鐵道三共社印刷所所長、關原電車(株)専務取締役...

渡邊 藤十郎

君は新潟縣人野澤喜一の弟にして明治十九年三月を以て生れ...

君は京都府人兼納久三郎の四男にして明治七年七月を以て生れ...

渡邊 藤兵衛

京都府在籍

君は京都府人兼納久三郎の四男にして明治七年七月を以て生れ...

渡邊 亨

鬼怒川水力電氣、ボルネオ電氣、大谷川水力電氣、電氣(株)取締役、太陽製糖、兩毛紡織、糧租工業各(株)監査役、東京府在籍

渡邊 徹

從五位勳五等、製鐵所技師

君は千葉縣人渡邊徹右衛門の長男にして慶應三年九月を以て生れ...

渡邊 俊雄

正四位勳二等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部長、福岡縣在籍

君は福岡縣土族渡邊村男の弟にして明治十年六月を以て生れ...

渡邊 俊雄

東京府多額納稅者、德商會、都製紙工業各(株)代表取締役、茨城鐵道、六郷砂利、中央證券各(株)取締役、東京株式取引所一般取引員

渡邊 豊藏

大阪渡邊(株)社長

養子 勝 明三七、一〇生、長女嘉子夫、大...

渡邊 豐日子 從五位勳五等、朝鮮總督府事務官...

渡邊 直達 正四位勳三等、式部官、式部次長...

渡邊 仁三 小池銀行(株)取締役、山一證券...

渡邊 春海 千葉縣在籍 安政元、一一生、千葉、志田善兵衛...

渡邊 彦右衛門 秋田縣在籍 秋田縣在籍...

渡邊 彦四郎 渡邊實業銀行、渡邊各(株)常務取締役...

渡邊 秀夫 熊本縣多額納税者、醸造業...

渡邊 八三郎 新潟銀行(株)頭取、神澤銀行(株)...

同二十二年群馬縣土族渡邊喜平の養子となり後分家し...

君は東京府人伊藤仙藏の四男にして明治十一年二月を...

君は山梨縣人津田友造の弟にして文久元年十二月を以...

君は千葉縣人渡邊清の長男にして明治十一年二月を以...

君は秋田縣人渡邊彦右衛門の長男にして明治元年四月...

君は舊熊本藩士今村正臣の三男にして明治二十四年九...

君は東京府人渡邊克太郎の長男にして明治十一年十月...

二男(同三、同四、七生、同長女同厚三(同六、一〇...

君は千葉縣土族渡邊佐兵衛の長男にして安政五年四月...

君は山梨縣人津田友造の弟にして文久元年十二月を以...

君は千葉縣人渡邊清の長男にして明治十一年二月を以...

君は秋田縣人渡邊彦右衛門の長男にして明治元年四月...

君は舊熊本藩士今村正臣の三男にして明治二十四年九...

妻 ふき 明二、三、生、東京、士、小林嘉平

孫 雅雄 大一、四、一、生、亡長男金太郎長男

君は東京府士族渡邊知精の二男にして安政六年十二月を以て生れ明治二十三年家督を相続す現時三谷本店常務取締役たり長女松子(明三四、一、二)は東京府人植田もと三男壯之助に嫁くわ(同九、二)は同府人飯島伊之吉に嫁し弟三郎(文久三、二)は同妻りん(明四、一〇)生、東京、萩本兼吉三女)と共に同府人渡野マの養子となれり(東京、淺草、北元町一電淺草六六一八)

渡邊 雅彦 津島染色整理(株)事務取締役

母 たつ 嘉永六、四、生、愛知、淺井甚爾長女

妻 さほ 明二〇、三、生、岐阜、渡邊治右衛門長女

男 雅巳 大九、九、生

女 千鶴 明四二、一〇、生

君は愛知縣人渡邊新兵衛の二男にして明治十四年九月を以て生れ明治二十一年家督を相続す現時津島染色整理(株)事務取締役たり(東京、淺草、北元町一電淺草六六一八)

五、二生)あり長女キミ(明三五、一、生)は福島縣人石井吉五郎に嫁せり(東京、牛込、拂方町一電牛込一五二〇)

渡邊 幹三 安田銀行(株)爲替課長

妻 きん子 明三一、五、生、先々代茂十郎長女

君は静岡縣人渡邊金作の四男にして明治二十三年一月を以て生れ大正九年先代きん子の夫となり家督を相続す明治四十三年安田銀行に入り新宿支店長を経て現時同行爲替課長たり家族は尙長女千代子(大九、九、生)二男治男(同一五、四)生あり(東京市外澁橋町角等八一七電四谷一九八)

渡邊 汀 正四位勳三等、男爵、豫備海軍大佐、東京府華族

妻 眞 明二七、二、生、子爵山内豊健姉

男 眞 大六、六、生

當家は先代清一、顯る清は舊肥前大村藩士にして故子爵渡邊清一、幕末國事に奔走し戊辰の役東北の野に戦死す功あり維新後民部大丞大蔵大丞等に任じ佐賀の武官の役之が鎮定に力を盡す後元老院議員官福縣知事、後院議員等に歴任し明治二十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君其後を享く君實は長崎縣士にして明治十六年九月を以て生れ同三十八年家督を相続し(大一一、六)生、三男廣海

渡邊 水太郎 日本郵船(株)庶務部長

妻 かつ 明一七、六、生、東京、金澤大吉四女

君は東京府人渡邊吉の長男にして同次郎の兄なり明治十四年七月を以て生れ大正二年家督を相続す明治三十八年東京高等商業學校専攻部を卒業し同年日本郵船

會社に入り累進して現に庶務部長の職に在り妹業(明三一、七)生)は京都府人澤井謙吉に嫁せり(東京、芝、白金今里町九六電高輪四三三四)

渡邊 清太郎 正四位勳一等功四級、豫備陸軍中將、東京府士族

妻 よね 天保一〇、二、生、渡邊彌三馬長女

君は東京府士族渡邊徹の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治三十一年家督を相続す同二十一年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍砲兵少尉に任じ大正七年陸軍中將に陞進す其間參謀本部附陸軍砲兵學校陸軍士官學校各教官野砲兵第二十一聯隊長佛國大使官附武官教育總監部庶務課長佐世保要務司令官陸軍野砲兵射擊學校長陸軍省兵器局長陸軍砲工學校長等に歴補し同十二年豫備役となる家族は尙三男厚(明四四、一)生あり(東京市外高田町雜司ヶ谷九四八電牛込三一九五)

渡邊 明造 山口銀行(株)九之内支店長

妻 格二 現戸主

養父 格二 明一〇、九、生、静岡、渡邊傳八長女

君は静岡縣人氣賀賀子治の弟にして明治二十三年十月を以て生れ大正九年渡邊格二の養子となる同六年京都帝國大學法政科を卒業し同年山口銀行に入り(大一一、六)生、三男厚(明四四、一)生あり(東京市外高田町雜司ヶ谷九四八電牛込三一九五)

渡邊 素夫 從六位勳五等、濱松市長

妻 ナオ 明一〇、九、生、熊本、士、佐田右傳長女

君は熊本縣人渡邊素夫の長男にして明治元年八月を以て生れ後家督を相続し前名庄太郎を改む現に濱松市長たり家族は尙孫航(大六、三)生、長男敏彦(長男)同(同八、三)生、同長女及姉ミチ(安政四、一)生)あり(濱松、市長公舎)

君は熊本縣士族渡邊一郎の長男にして明治元年八月を以て生れ後家督を相続し前名庄太郎を改む現に濱松市長たり家族は尙孫航(大六、三)生、長男敏彦(長男)同(同八、三)生、同長女及姉ミチ(安政四、一)生)あり(濱松、市長公舎)

渡邊 盛作 茨城縣多額納稅者、常磐銀行(株)

妻 うたゑ 明四、四、生、福井、前川久嘉長女

君は福井縣人先代彌右衛門の長男にして安政五年九月を以て生れ明治二年家督を相続す乾物商を營み現に縣下の多額納稅者たり妹キミ(明二、九)生)は福井縣人板倉兵三郎に嫁せり(福井市照中上町)

渡邊 彌吉 山梨縣多額納稅者、割烹業

妻 なを 明七、三、生、山梨、名執周太等子

君は山梨縣人先代彌吉の長男にして同三十六年家督を以て生れ同三十六年家督を繼承す(山梨、割烹業を營み山梨市)

渡邊 彌吉 山梨縣多額納稅者、割烹業

妻 うたゑ 明四、四、生、福井、前川久嘉長女

君は福井縣人先代彌右衛門の長男にして安政五年九月を以て生れ明治二年家督を相続す乾物商を營み現に縣下の多額納稅者たり妹キミ(明二、九)生)は福井縣人板倉兵三郎に嫁せり(福井市照中上町)

渡邊 彌吉 山梨縣多額納稅者、割烹業

妻 なを 明七、三、生、山梨、名執周太等子

君は山梨縣人先代彌吉の長男にして同三十六年家督を以て生れ同三十六年家督を繼承す(山梨、割烹業を營み山梨市)

生)七回入
一此は同縣人久保丹三に嫁せり(宇都市)

妻 ヲク 明二、一一生、野子、千山源吉
男 雄 明四、九生

君は山口縣士族藤田氏
て生れ現居戸主藤田の次子
大學文科大學國史科を卒業し大學院に
を研究す後史學雜誌編輯となり大正初年
任じ現時に至る前八年文學博士の學位を受く(尙
二男弘毅(明四、七生)三男源三(大二、一一生)兼
姉八百明三、三生)あり長女慶子(三五、一一生)は東
京府人尙野仙一第京師帝國大學助教授仙治に嫁しシヅ
(同一五、九生)は京師帝國大學助教授長藤井虎彦
に嫁し(明二、九、一〇生)は山口縣人宇原直宣に嫁せり
(東京、小石川、林町九五番小石川六〇二)

女 周子
君は山口縣士族藤田氏
て生れ現居戸主藤田の次子
大學文科大學國史科を卒業し大學院に
を研究す後史學雜誌編輯となり大正初年
任じ現時に至る前八年文學博士の學位を受く(尙
二男弘毅(明四、七生)三男源三(大二、一一生)兼
姉八百明三、三生)あり長女慶子(三五、一一生)は東
京府人尙野仙一第京師帝國大學助教授仙治に嫁しシヅ
(同一五、九生)は京師帝國大學助教授長藤井虎彦
に嫁し(明二、九、一〇生)は山口縣人宇原直宣に嫁せり
(東京、小石川、林町九五番小石川六〇二)

加藤五郎、初名三郎
高野加藤武男の項

渡邊三郎 東京府在籍
妻 ヲク 明二、四生、福岡、渡邊次平長女
長女 明三七、七生、佐賀、津川米一郎
男 眞太郎 六一四、二生

君は福岡縣人先代與三郎の弟にして同泰一郎の兄なり
明治三十二年四月を以て生れ同三十七年養兄與三郎の
後を襲ひ家督を相続す吳服商を營み紙與吳服店紙與商
店各會社々長たり家族は尙姉フシ(明二、一、二生)及
び其一女妹トヨ(同三四、一二生)同夫賢次(同三二、一
一生、福岡、加藤要四男)及び其一女同アキ(同四〇、一
〇生)あり弟泰一郎(同四三、三生)は分家せり(福岡市
上西町一〇電一四八)

渡邊 與七 木箱製造業
妻 かく 明一九、一一生、岐阜、宮川義太
君は岐阜縣人渡邊市太郎の弟にして明治二年三月を以
て生れ同三十年分家して一家を創立す木箱製造業を營
む家族は尙長女敏子(大四、四生)二女峰子(同一〇、一
生)あり(横濱、中、住吉町三ノ四五電長者町三四九〇)

妻 ツルチ 明一三、八生、東京、土、吉村可
男 聖二 明四〇、一二生
君は山梨縣人渡邊甚右衛門の長男にして志村源太郎の
弟なり明治五年九月を以て生れ同十六年家督を繼ぐ同
二十九年京帝國大學法科大學政治科を卒業し日本銀行
に入り次で愛知銀行に聘せられ擴張に努め一躍頭取に
推され中京實業界の重鎮と稱せり(現時前田銀行)

泰一郎の項

渡邊 與八 渡邊野吉、同業



清酒
月桂冠

宮内省御用達

京都府伏見町桃山下

株式會社 大倉恒吉商店

電話 一〇・一六六二

兵庫縣灘新在家

灘支店

電話御影二二四

京都市六角通東洞院東入

京都支店

電話本局二二六・二二七

賣捌所

丸善

神田支店、三田出張所、丸之内賣店、早稲田出張所、大塚
 京橋支店、橋本支店、名古屋支店、福岡支店、柏原支店

工2P-88

資本金 參千萬元

總信託財產 參億千餘萬元

三井信託株式會社

社長 米山 梅吉

東京市麴町區有樂町三丁目十九番地

本行電話銀座(七五) 四四四三
七六八四
三六八四
〇九三五
四四三三
七八七
二九二五

振替口座東京 六七六二四

大阪市東區高麗橋三丁目一第番地

大阪支店電話本局 五五五八

振替口座大阪 八九七一九

三井生命保險株式會社

取締役社長 團 琢 磨

專務取締役 野 依 辰 治

本

東京市麴町區山下町一丁目

電話銀座

三五三
四四九
七一八
七八八
番番番

東京支店

本店內 電話銀座 三六〇七番

小樽支店

小樽市稻穂町東五丁目

仙臺支店

仙臺市東二番町

金澤支店

金澤市尾張町

名古屋支店

名古屋市笹島町三井物產支店內

大阪支店

大阪市東區高麗橋三井銀行支店內

廣島支店

廣島市紙屋町藝備銀行ビルディング內

福岡支店

福岡市天神町

終